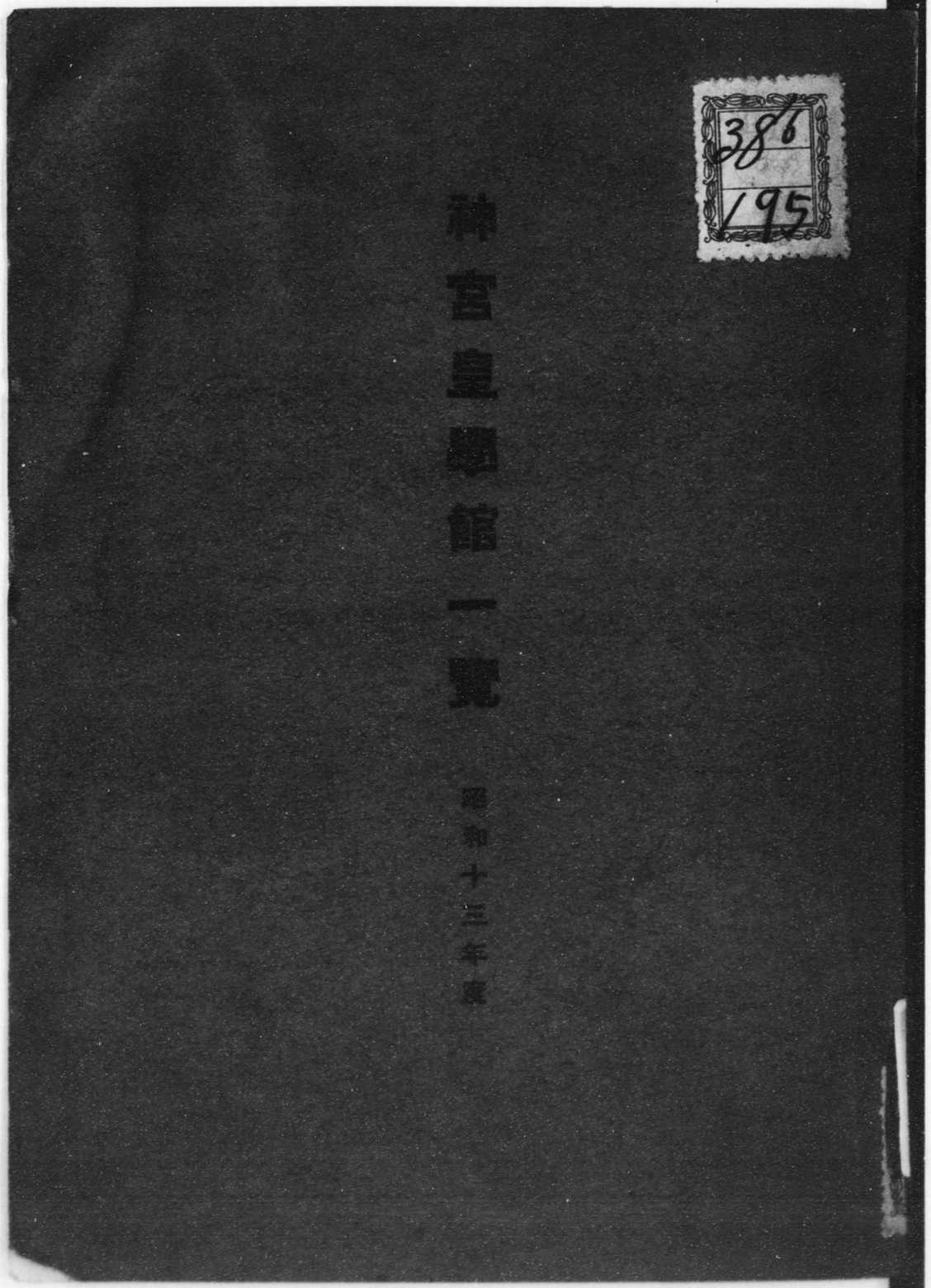


386
195

0051854000

0051854-000

特２００－９４６

神宮皇学館一覧

神宮皇学館

昭和１３年度

昭和１３

AHN

386
195

神宮皇學館一覽

昭和十三年度

特200
946

神宮皇學館教育ノ旨趣ハ　皇國ノ道義ヲ講シ
皇國ノ文學ヲ修メ之ヲ實際ニ運用セシメ以テ倫
常ヲ厚ウシ文明ヲ補ハントスルニ在リ夫レ業勤
メザレバ精ナラズ事習ハザレバ達セズ況ンヤ本
館期スル所ノ學ノ重且大ナルニ於テヲヤ
本館學生深ク此旨ヲ體シ常ニ師長ヲ敬重シ館則
ヲ遵守シ黽勉努力以テ他日ノ成業ヲ期シ夙夜肯
テ怠ルコト勿レ

明治三十三年二月十八日

神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下令旨

神宮祭主久邇宮多嘉王殿下令旨

神宮皇學館ハ我カ惟神ノ大道ヲ發揮シ建國ノ體制ヲ闡明シ尊皇崇祖ノ皇風ヲ宣揚スルヲ以テ教育ノ旨趣トシ創立以來殆ト四十年其ノ文教ニ裨益スル所亦大ナリト謂フヘシ

今ヤ校舍改築ノ工事成リ規模益々廣ク施設愈々全カラムトス本館ノ職員及學生タルモノ現代ノ趨勢ト教育ノ旨趣トニ鑑ミ至誠以テ學事ニ勉勵シ更ニ國家ノ文運ニ貢献センコトヲ期セヨ

大正八年十月十八日

神宮祭主久邇宮多嘉王殿下令旨

神宮皇學館創立以來茲ニ五十年ヲ迎フ其間常ニ皇國ノ文學道義ヲ闡明發揚シ世道風教ニ裨益スル所蓋シ勘少ナラスト謂フ可シ然ルニ晩近理智偏重ノ文化進展スルニ伴ヒ我カ國體民風ト相容レサル異端邪説蔓衍シ思潮ノ趨勢甚タ憂フ可キモノアリ

本館ノ職員及學生生徒深ク現下ノ國情ニ鑑ミ篤ク本館教育ノ旨趣ヲ體シ夙夜勉勵愈國體ノ闡明ト皇道ノ發揚トニカムルト共ニ特ニ敬神崇祖ノ精神ヲ涵養實踐シ以テ世道民風ノ作興ニ努力センコトヲ期セヨ

昭和七年五月一日

神宮皇學館一覽　昭和十三年度

目次

○神宮皇學館館歌　一
○學年曆　二
○沿革　四
○法令　二
●本館ニ關スル法令　三〇
第一　神宮皇學館官制　三〇
第二　評議委員會規程　三一
第三　神宮皇學館規程　三一
第四　職員官等俸給　三二
第五　恩給法施行令　三三
第六　陸軍現役將校學校配屬令　三四
第七　高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件第二條ニ依ル學校指定　四二
第八　高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ專門學校ニ準スヘキ學校指定　四二

第　九　北海道廳視學官、地方視學官等ノ任用ニ關スル件ニ依ル學校指定　四五
第　十　在學徵集延期者最高年齡　四五
第十一　同一人ニシテ所轄ノ省ヲ異ニスル二個以上ノ學校又ハ講習所ニ入學ヲ出願シタル場合等ノ取扱方ノ件
●本館卒業資格ニ關スル法令
第十二　官國幣社及神宮神部署神職任用令　四六
第十三　府縣社以下神社神職任用規則　四七
第十四　教員無試驗檢定ニ關シ指定ノ件　四七
第十五　公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依ル指定　四八
第十六　高等學校教員規程　五〇
○本館諸規則
第一　神宮皇學館規則　五一
第一章　總　則　五一
第二章　學年、學期及休業　五三
第三章　本　科　五三
第一節　學科課程　五四
第二節　入學、退學及休學　五四
第三節　進級及卒業　五五
第四節　特待生及館費生　五七
第五節　授業料　六〇
第四章　研究科　六一
第五章　普通科　六二
第一節　學科課程　六三
第二節　入學、退學及休學　六三
第三節　進級及卒業　六三
第四節　學資補給　六五
第六章　賞　罰　六七
第七章　寄宿寮及學寮　六七
第八章　補　則　六八
書　式　六八
第　二　館費生規則　六九
第　三　處務規程　七〇
第　四　館務分掌規程　七七
第　五　普通科事務規程　七八
第　六　當直規程　八〇
第　七　職員服務心得　八四
八七
八九

第八　神宮參拜日及勅語奉讀日　九一
第九　創立記念日　九三
第十　神宮參拜規程　九三
第十一　館旗取扱規程　九五
第十二　圖書閱覽規程　九六
第十三　學生生徒服制　九八
第十四　學生取締規則　一〇二
第十五　學生生徒褒暇規程　一〇三
第十六　寄宿寮規則　一〇四
○獎學金
第一　恩賜獎學資金　一〇八
第二　上田萬年獎學金　一〇八
第三　御本本獎學資金　一〇九
第四　官幣大社稻荷神社獎學金規程　一〇九
第五　全國神職會教育補助金規程　一一〇
第六　寄附金　一一二

○出版圖書　一一四
○職員
第一　職員　一一七
第二　評議委員　一二三
第三　事務分課、學級擔任　一二四
第四　舊職員　一二八
○學生生徒氏名
第一　本科生　一三八
第二　普通科生　一四四
○卒業者氏名
第一　本科卒業者　一四七
第二　研究科卒業者　一八八
第三　選修科卒業者　一八八
第四　專科卒業者　一八九
第五　普通科卒業者　二〇二
第六　氏名索引　二〇七

目　次

○敷地建物
第一　敷　地　二三三
第二　建　物　二三四
第三　配置圖（卷末平面圖）　二三六
附　錄
第一　神宮皇學館館友會規約　二三七
第二　神宮皇學館學友會規則　二三八
附　表（諸統計表）　末尾
一　學生生徒出身府縣別、年齡別表
一　入學志願者及入學者本籍別及父兄職業別表
一　卒業年次別人員表
一　卒業者出身竝在住府縣別、職業別表
本館平面圖

神宮皇學館一覽

昭和十三年度

○神宮皇學館館歌

安藤正次作

一、現御神、高知らす國は
遠つ祖の、雄心つたへて
天津日繼、神こそ護らせ
今も人の、神習ふ國ぞ

二、伊勢の海に、底沈く球は
山路行けば、茨ぞ多かる
潛く海士の、手にこそ映えすれ
心利鎌、忘れじな我は

三、神路山ゆ、風起るあした
五十鈴川を、夕にのぞめば
胸にいだく、神秘の悸き
月に浮ぶ、悠遠のおもひ

四、日本男子、言擧けすこゝに
祖の御名を、思へばたふとし
君の御稜威、仰げばかしこし
國に道に、勤めてむいざや

○學年曆

四月一日　學年始
自四月一日至四月十一日　春季休業
四月十一日　始業式
二十九日　第一學期授業始（始業式）
三十日　天長節拜賀式
五月十四日　本館創立記念日（學神祭）
六月十七日　神宮神御衣祭（神拜式）
三十日　神宮月次祭（神拜式）
七月十日　大祓式
自七月十一日至八月三十一日　第一學期授業終（普通科ハ七月二十四日）（終業式）
秋分ノ日　夏季休業（普通科ハ自七月二十五日至八月三十一日）
九月一日　第二學期授業始（始業式）
十月十四日　秋季皇靈祭（遙拜式）
十六日　神宮神御衣祭（神拜式）
十七日　神嘗祭（豐受大神宮參拜）

十七日　同（皇大神宮參拜）
三十日　勅語奉讀式
十一月三日　明治節拜賀式
二十三日　新嘗祭（兩大神宮參拜）
十二月十七日　神宮月次祭（神拜式）
二十四日　第二學期授業終（終業式）
自十二月二十五日至一月十日　冬季休業
一月一日　新年拜賀式
十一日　第三學期授業始（始業式）
二月十一日　紀元節拜賀式
十七日　神宮祈年祭（兩大神宮參拜）
三月中旬　第三學期授業終（終業式）
春分ノ日　春季皇靈祭（遙拜式）
三十一日　學年終

○沿革（抄）

神宮皇學館ハ明治十五年四月三十日　神宮祭主久邇宮朝彦親王殿下ノ令旨ヲ奉シテ神宮神官ヲシテ皇學ヲ研究セシメンカ爲林崎文庫内ニ設置セラレタルヲ以テ創始トナス爾來重ナル沿革ヲ舉クレハ左ノ如シ

明治十六年

五月權宮司藤岡好古令旨ヲ奉シテ之ヲ擴張シ内務省ノ認可ヲ受ケ科ヲ上中下ノ三等級ニ分チ、將來神宮神官ニ充ツヘキ人材ヲ養成セムコトヲ計ル

明治十八年

一月宮司鹿島則文規則ヲ改正シ禰宜御巫清直ニ教授ヲ命シ以下新ニ職員ヲ置キ、廣ク學生ヲ募リ同月十一日ヲ以テ開講式ヲ擧ク、科ヲ豫備、中等、上等ノ三級ニ分ツ

明治二十年

四月更ニ規則ヲ改正シ科ヲ尋常高等ノ二科ニ分チ修業年限ヲ尋常科高等科何レモ四ケ年トス○中田正朔ヲ館長ニ東吉貞ヲ教頭ニ下田義天類ヲ副教頭兼教授ニ孫福弘坦ヲ幹事ニ命シ以下大ニ職員ヲ增加ス

十月宇治浦田町(現神宮司廳所在地)ニ校舍ヲ新築シ此ニ移轉ス

明治二十一年

二月寄宿舍ヲ宇治浦田町ニ新築ス

明治二十三年

五月始メテ卒業證書授與式ヲ擧ク

八月規則ヲ改正シ尋常科ヲ豫科ト改メ其修業年限ヲ一ケ年トシ、高等科ヲ本科ト改メ其修業年限ヲ四ケ年トナシ、別ニ選科ヲ設ケ志望者ヲシテ古典、國文、國語ノ三科ヲ修メシム○職制ヲ改正シ專任館長ヲ廢シ神宮正權宮司ノ兼任トナシ、又別ニ參事員ヲ置キ重要事項ノ諮詢ニ與ラシム

明治二十五年

二月館費生及特別研究生ヲ置キ、學力品行共ニ優等ナルモノヲ選拔シ食費ヲ給シテ修學セシム

三月更ニ職制ヲ改メ參事員ヲ廢シテ委員ヲ置ク

明治二十六年

九月新ニ研究科竝專科ヲ設ク、研究科ハ本科卒業生ヲシテ高等ノ學科ヲ研究セシメ其修業年限ヲ二ケ年トシ、專科ハ簡易速成ヲ主トシ其修業年限ヲ二ケ年トナス

明治二十七年

四月權宮司岡部讓副館長ヲ兼ヌ
五月教授木野戸勝隆ニ教頭ヲ命ス
七月館則ヲ改正シ總裁、館長、副館長、評議員、理事、教頭、教授等ノ職ヲ置キ、總裁ニハ神宮祭主ヲ推戴シ館長ニハ神宮宮司ヲ以テ之ニ充ツ
九月内務省訓令ヲ以テ本科卒業生ハ官國幣社宮司權宮司ニ、專科卒業生ハ同禰宜以下ニ試驗ヲ要セス採用セラルヽ事ヲ得ヘキ旨規定セラル
明治二十八年
二月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨御前講義ヲ被聞召武道試合ヲ台覽アラセラル
明治二十九年
二月規則ヲ改正シ、科ヲ本科豫科及專科トシ修業年限ヲ本科ハ四ケ年豫科ハ五ケ年專科ハ二ケ年トシ、入學資格ヲ本科ハ本館豫科卒業者又ハ各府縣尋常中學校卒業者若ハ年齡十八歲以上ニシテ入學試驗ニ及第セル者トシ、豫科ハ高等小學校第三學年修業以上ノ者トシ、專科ハ豫科第三學年修業以上又ハ各府縣尋常中學校第三學年修業以上ノ者若ハ年齡十六歲以上ニシテ入學試驗ニ及第セル者トス
三月職制ヲ改正シ總裁、館長、副館長、幹事、教頭、教授、助教授、舍監、書記ヲ置ク、依テ　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下ヲ總裁ニ推戴シ、宮司鹿島則文館長ヲ權宮司岡部讓副館長ヲ兼ヌルコト前ノ如シ○地ヲ宇治館町ニトシ校舍改築ニ着手ス
四月神宮禰宜山田岩次郎ニ幹事ヲ命シ、矢島錦藏ニ教授兼教頭ヲ命ス
十二月校舍新築功竣ルヲ以テ移轉ス、學館ノ規模稍定マル
明治三十年
二月幹事山田岩次郎職ヲ辭シ、神宮禰宜桑原芳樹ニ幹事ヲ命ス
四月教授兼教頭矢島錦藏職ヲ辭ス
六月尾田信直ニ教授兼教頭ヲ命ス○十三日新校舍開館式ヲ擧ク、總裁　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨アラセラレ、内務大臣樺山資紀臨場セラル
明治三十一年
六月神宮宮司伯爵冷泉爲紀館長ヲ兼ヌ
十二月權宮司桑原芳樹副館長ヲ兼ヌ○文部省告示ヲ以テ徵兵令第十三條ニ依リ本科及豫科ヲ中學校ノ學科課程ト同等以上ト認メラル○職制ヲ改正シ教監ヲ設ケ教頭ヲ幹事ノ上ニ置キ、舍監ヲ學生監トシ、大ニ職員ヲ淘汰シ教監ヲ男爵細川潤次郎ニ囑託ス
明治三十二年

一月教授木野戸勝隆ニ教頭ヲ教授矢野萬太郎ニ幹事ヲ命ス○三重縣立第四中學校設立ノ擧アルニヨリ本館教育方針ノ一部ヲ變更シ、中學程度ノ豫科ヲ廢シ在學生ヲ擧ケテ同中學校ニ移シ、專ラ本科擴張ノ計畫ヲ立ツ

八月學則ヲ改正シ專科ノ修業年限ヲ三ケ年トシ、又特待生、貸費生、館費生等ノ制ヲ設ク○教授兼教頭木野戸勝隆ノ兼職ヲ解キ、教授黒木千尋ニ教頭心得ヲ命ス

九月文部省指令ヲ以テ本科卒業生ニ對シ無試驗檢定ニヨリ師範學校中學校高等女學校ノ日本史科及國語科教員タルノ資格ヲ與ヘラル

十月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨御前講義ヲ被聞召武道試合ヲ台覽アラセラル

十一月學生取締規則ヲ定メ、寄宿寮規則及學生學資保管規程ヲ設ク

明治三十三年

二月十八日總裁　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨アラセラレ令旨ヲ賜ハル

五月　御眞影竝ニ教育ニ關スル勅語謄本ヲ下賜セラル

九月文部省指令ヲ以テ、本科卒業生ニ對シ無試驗檢定ニヨリ師範學校中學校高等女學校ノ國語漢文科及歷史科教員タル資格ヲ與ヘラル

十月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨運動會發火演習ヲ台覽アラセラル

明治三十四年

一月選修科規程ヲ設ケ專科卒業生及其他ノ志望者ヲシテ本科學科ノ中ニ就キ隨意ニ選修スル事ヲ得シム

六月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨御前講義ヲ被聞召武道試合ヲ台覽アラセラル

十月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨御前講義ヲ被聞召武道試合ヲ台覽アラセラル

明治三十五年

二月勅令官國幣社及神宮神部署神職任用令ニヨリ本科卒業生ハ奏任待遇ノ神職ニ專科卒業生ハ判任待遇ノ神職ニ試驗ヲ要セス任用セラルヽコトヲ得ヘキ旨規定セラル

十月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨御前講義ヲ被聞召武道試合ヲ台覽アラセラル

明治三十六年

三月教授兼教頭黒木千尋ノ職ヲ解キ、教授尾崎八束ニ教頭心得ヲ命ス

六月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨御前講義ヲ被聞召武道稽古ヲ台覽アラセラ

ル

八月勅令第一三〇號ヲ以テ神宮皇學館官制ヲ公布セラレ同官制第三條ニ依リ神宮少宮司桑原芳樹館長ヲ兼ヌ、教授尾崎八束ニ教務主任ヲ命シ大ニ職員ヲ增加ス○勅令ヲ以テ職員官等俸給令ヲ公布セラル

十月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨運動會ヲ台覽アラセラル

十二月文部省告示ヲ以テ本科卒業生ハ無試驗檢定ニ依リ師範學校中學校高等女學校ノ歷史科及國語漢文科教員タルノ資格ヲ與ヘラル

明治三十七年

四月規則ノ一部ヲ改正シ專科ヲ二ケ年トナシ、選修科ノ入學資格ヲ專科卒業生ニ限定ス

六月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨武道授業ヲ台覽アラセラル

九月教授尾崎八束ノ教務主任ヲ罷メ、教授矢島錦藏ニ同主任ヲ命ス

明治三十八年

二月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨武道試合ヲ台覽アラセラル

五月事務分掌規程ヲ改正シ館務ヲ教務部、庶務部、學生監部ノ三部トナシ、教授矢島錦藏ニ教務部長ヲ、書記金剛幸之助ニ庶務部長ヲ、教授湯淺廉孫ニ學生監部長ヲ命ス

七月本館學生服制ヲ定ム

明治三十九年

三月本館接續ノ地ヲ購入シ構外運動場ヲ開設ス

六月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨武道大會ヲ台覽アラセラル

十月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨運動會ヲ台覽アラセラル

明治四十年

五月史學研究ノタメ本科卒業生森田實ニ二箇年間獨逸國ニ留學ヲ命ス

九月文部省告示ヲ以テ本科卒業生ハ公私立實業學校教員タル資格ヲ與ヘラル

明治四十一年

二月教授矢島錦藏ノ教務部長ヲ解キ、教授尾崎八束ニ教務部長ヲ命ス

六月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨御前講義ヲ被聞召武道稽古ヲ台覽アラセラル

八月正五位桑原芳樹、正六位木野戸勝隆、正六位山田岩次郎、從六位木村春太郎、正七位廣池千九郎ニ講師ヲ囑託シ卒業生臨時講習會ヲ開催ス

十月　神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨武道大會ヲ台覽アラセラル

明治四十二年

三月職員職務心得ヲ定メラル

明治四十三年

三月神宮少宮司桑原芳樹休職ヲ命セラレ神宮少宮司木野戸勝隆館長ヲ兼ヌ○勅令ヲ以テ職員官等俸給令ヲ改正セラル

四月獨逸國ニ留學中ノ森田實歸朝ス

十一月十四日　皇太子殿下行啓親シク授業ヲ台覽アラセラレ御寫眞ヲ下賜セラル

明治四十四年

五月　皇后陛下神宮御參拜ノ節奬學ノ思召ヲ以テ特ニ金五百圓ヲ下賜セラル

明治四十五年

四月三十日本館創立滿三十年記念式典ヲ擧行ス、文學博士松本愛重内務大臣代理トシテ臨場ス、二日ニ亘リ記念講演會竝神宮ヲ中心トスル史料展覽會ヲ開キ又記念陸上大運動會ヲ催ス、東京帝國大學教授文學博士上田萬年、學習院教授文學博士松本愛重、京都帝國大學教授文學博士三浦周行、同文學博士新村出講演ス

大正元年

十一月教授尾崎八束ノ教務部長ヲ解キ、教授森田實ニ教務部長ヲ命ス○新ニ學科主任ヲ設ケ、教授尾崎八束ニ歷史科主任、教授湯淺廉孫ニ漢文科主任、教授安藤正次ニ國文科主任ヲ命ス

十二月二十三日午前三時過事務室一棟火災ニ罹リ重要書類殆ト全部烏有ニ歸ス

大正二年

一月教授湯淺廉孫ノ學生監部長ヲ解キ、助教授宇仁義一ニ學生監部長事務取扱ヲ命ス

四月本館規則ノ一部ヲ改メ體操科ニ柔道ノ一科ヲ追加ス○館務分掌規程ヲ改正シ教授森田實ニ教務部長、書記金剛幸之助ニ庶務部長、助教授宇仁義一ニ學生監部長事務取扱ヲ命ス

五月本館圖書閱覽規程ヲ定ム

九月勅令ヲ以テ本館官制竝職員官等俸給令ヲ改正セラレ、新ニ館長特別任用令ヲ公布セラル○從三位勳三等武田千代三郎館長ニ任セラル○官制第八條ニ依リ内務省ヨリ神社局長法學博士井上友一、京都帝國大學總長澤柳政太郎、東京帝國大學文科大學長文學博士上田萬年、東京帝國大學文科大學教授文學博士三上參次、文部省普通學務局長田所美治、東京帝國大學文科大學教授文學博士萩野由之、學習院教授文學博士松本愛重ニ本館評議委員ヲ囑託セラル

十月本館教官退隱金給與ニ關スル規程ヲ設ク○神宮參拜日及勅語奉讀日規程ヲ改

正ス○本館處務規程ヲ定ム○助教授字仁義一ノ學生監部長事務取扱ヲ解キ、教授學生監阪本廣太郎ニ學生監部長ヲ命ス

十一月事務室新築工竣リ移轉ス

十二月職員服務心得ヲ定ム

大正三年

三月本館規則ノ一部ヲ改正シ各學科目竝其程度及授業時間ノ配當ヲ改メ休業日ヲ短縮ス○　伏見宮博信王、華頂宮博忠王、山階宮武彦王、芳麿王、藤麿王、萩麿王、賀陽宮恒憲王、久邇宮朝融王、邦久王ノ九殿下神宮御參拜ノ途次御立寄遊ハサル

七月本館教官退隱金給與年數加算ノ件ヲ定メラル

九月教授森田實ニ歷史科主任ヲ命ス

大正四年

一月教授阪本廣太郎ノ學生監部長ヲ解キ、教授學生監增子懷永ニ學生監部長ヲ命ス

七月特別試驗規程竝學生生徒喪暇規程ヲ定ム○本館規則ノ一部ヲ改正シ專科ヲ第一部四箇月修了第二部（十一箇月修了）ノ二部ニ分チ、併セテ學科課程表ヲ定ム○　皇太子殿下神宮御參拜ノ節特別ノ思召ヲ以テ奬學資金トシテ金參百圓下賜セラル

八月館費生及貸費生規則竝學生學資保管規程ヲ廢止シ新ニ館費生規則ヲ定ム

十月　天皇陛下御眞影ヲ下賜セラル

大正五年

五月內務省ヨリ神社局長塚本清治、從四位勳二等法學博士水野錬太郎ニ本館評議委員ヲ命セラル

六月教授增子懷永ニ國文科主任ヲ命ス

十月教授學生監鈴木暢幸ニ學生監部長竝國文科主任ヲ命ス

十一月　皇后陛下御眞影、皇太子殿下御寫眞ヲ下賜セラル○本館移轉敷地ヲ度會郡濱鄕村神田久志本ノ山上ニトシ改築工事ニ着手ス

大正七年

一月本館改築工事中ノ一部竣工セルヲ以テ度會郡濱鄕村大字神田久志本（**現在ノ地**）ニ移轉ス

二月本館改築ノ趣被聞召特別ノ思召ヲ以テ改築費中ヘ金貳萬圓ヲ下賜セラル

四月館長武田千代三郎願ニ依リ本官ヲ免セラレ、神宮少宮司今井清彥館長事務取扱ヲ命セラル

五月從四位勳四等松浦寅三郎館長ニ任セラレ、神宮少宮司今井清彥館長事務取扱ヲ免セラル

八月教授鈴木暢幸ノ學生監部長ヲ解キ、教授學生監湯淺廉孫ニ學生監部長ヲ命ス

大正八年

一月書記金剛幸之助ノ庶務部長ヲ解キ、教授阪本廣太郎ニ庶務部長ヲ命ス

二月館長松浦寅三郎皇子傳育官長ニ任セラレ、神宮少宮司今井清彦館長事務取扱ヲ命セラル

三月本館規則ノ一部ヲ改正シ專科ノ修業年限ヲ二箇年トナス○文部省令ヲ以テ高等學校教員規程第九條試驗檢定資格者中ニ本館本科卒業者ヲ加ヘラル

六月東京帝國大學教授從三位勳二等文學博士上田萬年神宮皇學館長ニ兼任セラレ

神宮少宮司今井清彦館長事務取扱ヲ免セラル

十月十八日本館改築落成式ヲ行フ　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨アラセラレ親シク令旨ヲ賜フ

十二月本館研究室内規及教授會規程ヲ定ム

大正九年

三月本館規則ノ一部ヲ改正シ寄宿生舍費ノコトヲ定ム

五月　閑院宮春仁王殿下神宮御參拜ノ途次台臨アラセラル○勅令ヲ以テ館長特別任用令廢止セラル

六月　賀陽宮恒憲王殿下神宮御參拜ノ途次台臨武道試合竝運動競技ヲ台覽アラセラル

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル○書籍全部ヲ八月移築セル書庫ニ移シ圖書閱覽室ヲ擴張ス

大正十年

三月本館規則ノ一部ヲ改正シ專科ノ學科ニ教育、地理、理科圖畫ヲ加ヘ簿記ヲ削ル○

本館研究室ニ於テ伊勢國出版圖書展覽會ヲ開催ス

四月教授學生監石井鹿之助ニ學生監部長心得ヲ教授千田憲ニ圖書主任ヲ教授久保川平三郎ニ專科主任ヲ命ス

九月文部省告示ヲ以テ本館ヲ高等學校教員規程第九條第二項ニヨリ專門學校ニ準スヘキ學校ト指定セラル○二十五、六日ノ暴風雨ノ爲構内諸建物被害多シ

十二月勅令ヲ以テ高等官々等俸給令中ニ本館職員ヲ加ヘラレ、神宮皇學館職員官等俸給令ハ廢止セラル

大正十一年

一月昨年九月ノ暴風雨ニテ傾斜セル講堂倒壞ノ虞アル爲破却ス

六月本館規則ノ一部ヲ改正シ檢定料ノ增額、休學ニ關スル規程ヲ定ム

九月教授松平良郎ニ漢文科主任ヲ命ス○教授阪本廣太郎ノ庶務部長ヲ解キ教授森田實ニ庶務部長兼務ヲ命ス○本館表門ヲ御幸通ニ面スル場所ニ移轉ノ工事竣工ス

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル

十一月六日　皇后陛下行啓親シク授業ノ實況ヲ台覽アラセラレ特別ノ思召ヲ以テ金五百圓ヲ下賜セラル○神宮文庫ヲ神宮皇學館長ノ管理ニ移サル

十二月教授竹島寬ニ神宮文庫主幹ヲ命ス

大正十二年

一月館長上田萬年文部省ヨリ歐洲ニ出張ヲ命セラル

二月教授竹島寬ノ神宮文庫主幹、教授千田憲ノ圖書主任ヲ解キ、更ニ教授千田憲ニ神宮文庫主幹ヲ教授西村爲之助ニ圖書主任ヲ命ス○教授森田實上田館長歐洲出張中館長代理ヲ命セラル

四月本年度ヨリ專科生徒ヲ募集セス

八月恩給法施行令第六條ニヨリ本館職員ニシテ官吏タルモノハ文官トスト規定サル

九月館長上田萬年歸朝、教授森田實ノ館長代理ヲ免セラル

大正十三年

五月文部省告示ヲ以テ本科卒業者ヲ大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定セラル

八月東京帝國大學教授法學博士筧克彥、同助教授入澤宗壽、文部省囑託安藤正次、本館講師木村春太郎ニ講師ヲ囑託シ皇道ニ關スル夏期講習會ヲ開催ス

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、武道大會ヲ台覽アラセラル

大正十四年

三月本館規則ノ一部改正學生定員百六十名ヲ三百二十名ニ改ム

五月　久邇宮邦彥王殿下同妃殿下台臨、授業ヲ台覽アラセラル

八月勅令文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役將校ヲ配屬スルノ件ニヨリ、始メテ現役將校ヲ配屬セラル

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル

大正十五年

二月本館規則ヲ改正專科ヲ廢シ、本科ノ組織ヲ變更シ第一學年第二學年ハ共通ニ第三學年第四學年ヲ第一部第二部ニ分チ併セテ學科課程表ヲ定メ、更ニ本科ノ上ニ研究科(修業年限一箇年)ヲ置ク

三月勅令ヲ以テ本館官制中改正セラレ、教授ノ定員ヲ增シ助教授ノ定員ヲ減セラル

○東京帝國大學教授兼神宮皇學館長上田萬年依願兼官ヲ免セラレ教授正五位勳四等森田實館長兼教授ニ任セラル

四月內務省ヨリ東京帝國大學教授上田萬年ニ本館評議委員ヲ囑託セラル○教授鈴木暢幸ニ教務部長、教授西村爲之助ニ庶務部長ヲ命ス

五月教授學生監鈴木友吉ニ學生監部長心得ヲ命シ、教授石井鹿之助ノ學生監部長心得ヲ解ク

七月神宮文庫規程及神宮文庫圖書閱覽規則ヲ改正シ神宮文庫主幹ヲ廢ス○本館館務分掌規程ヲ改正シ新ニ圖書部ヲ置キ、教授千田憲ニ圖書部長ヲ命ス

八月本館教室增築工事竣成ス

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、教練及武道試合ヲ台覽アラセラル

十一月暹羅國ブラオン・カオ・ダーニ親王殿下シツパン女王殿下御來館、各所ヲ視察遊ハサル○神宮文庫職員服務心得ヲ定ム

昭和二年

二月勅令ヲ以テ本館官制中改正セラレ教諭ヲ加ヘ教授及書記ノ定員ヲ增加セラル

○勅令ヲ以テ高等官官等俸給令中改正セラレ神宮皇學館教諭ヲ加ヘラル

三月內務省訓令ヲ以テ神宮皇學館規程ヲ定メラレ新ニ普通科(修業年限四箇年)ヲ置ク○普通科設置ニツキ本館規則ヲ改正ス○神宮司廳達ヲ以テ神宮皇學館普通科主事及生徒監設置ノ件ヲ定メラル

四月教諭宇仁義一ニ普通科主事ヲ命ス

五月普通科授業ヲ開始ス○教授千田憲ニ教務部長兼圖書部長ヲ、學生監部長心得教授鈴木友吉ニ學生監部長ヲ命ス

六月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、親シク授業ヲ台覽アラセラル

九月普通科學寮建築敷地トシテ所要ノ山林五段八畝二十九步ヲ購入ス

十月研究室模樣替及兵器室新築竣工ス○普通科主事教諭宇仁義一死亡ニ付教諭三東義邦ニ普通科主事々務取扱ヲ命ス

十二月神宮文庫ニ協議員ヲ置ク

昭和三年

三月勅令ヲ以テ本館官制中一部改正セラレ教授及教諭ノ定員ヲ增加セラル○文部省告示ヲ以テ本科第一部卒業生ハ無試驗檢定ニ依リ師範學校中學校高等女學校ノ修身、國語、漢文科、同第二部卒業生ハ修身、歷史科教員タル資格ヲ與ヘラル○教諭三東義邦ノ普通科主事々務取扱ヲ解キ、教諭木村春太郎ニ普通科主事ヲ命ス○講堂竝特別教室新築工事竣成ス

五月陸軍省告示ヲ以テ本科竝普通科ヲ兵役法施行令第百條第二號ニ該當スル學校トシテ徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齡ヲ指定セラル○講堂落成式ヲ行フ　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨アラセラル、落成記念ノ爲伊勢參宮資料展覽會竝公開講演會ヲ開ク、東京帝國大學名譽教授文學博士上田萬年、京都帝國大學教授文學博士藤井健次郎、內務省考證官文學博士宮地直一、本館教授木村春太郎講演ヲナス

十月　御眞影ヲ下賜セラル

十一月教授千田憲ノ圖書部長ヲ解キ教授竹島寬ニ圖書部長ヲ命ス○教授千田憲ニ國文科主任、教授竹島寬ニ歷史科主任、教授町田久一郎ニ英語科主任ヲ命ス

昭和四年

二月普通科學寮新築工事竣成ス

三月勅令ヲ以テ本館官制中一部改正セラレ教諭及書記ノ定員ヲ增加セラル

四月圖書部ヲ神宮文庫內ニ移轉ス

五月館旗ヲ制定、館旗取扱規程ヲ定ム

六月　天皇陛下大阪城東練兵場ニ於テ二府五縣下ノ學生々徒等　御親閱ニ付館長森田實以下職員七名附添本科學生九十名　御親閱式ニ參列ス○教授西村爲之助ノ庶務部長ヲ解キ助教授兼教諭金剛幸之助ニ庶務部長ヲ命ス

八月子爵高倉永則、山科言綏、京都府々社御靈神社々司出雲路通次郎、神宮禰宜阪本廣太郎、同中西健郎、本館講師靑戶波江、同教諭三東義邦ニ講師ヲ囑託シ神社祭式師範教育竝衣紋講習會ヲ開催ス

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル

昭和五年

二月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨アラセラル

三月勅令ヲ以テ本館官制中一部改正セラレ教諭ノ定員ヲ增加セラル○　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下同妃殿下同王子殿下同王女殿下台臨アラセラル

六月東京國教學館長東洋大學講師田中治吾平、本館教授鶴藤幾太ニ講師ヲ囑託シ神社問題ニ關スル講習會ヲ開催ス

七月運動場擴張用トシテ本館接續ノ山林三段八畝十步ヲ購入ス

八月東京帝國大學史料編纂官文學博士山本信哉、京都帝國大學教授文學博士三浦周行、東京帝國大學教授文學博士深作安文、本館教授木村春太郎ニ講師ヲ囑託シ皇道ニ關スル夏期講習會ヲ開催ス○館長兼教授森田實依願本官竝兼官ヲ免セラレ福岡縣書記官正五位勳四等平田貫一館長ニ任セラル

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、武道大會ヲ台覽アラセラル○教育勅語煥發

四十年記念式ヲ擧行ス○御眞影ヲ下賜セラル
十一月神宮文庫主催ヲ以テ神宮關係秘籍展覽會ヲ開催ス○神宮司廳達ヲ以テ本館評議委員會規程中一部ヲ改正、本館卒業生中神官神職ノ經歷若ハ教育ニ經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ評議委員ニ充ツルコトヲ得ヘキ旨定メラル
十二月內務省ヨリ神社局長池田清ニ本館評議委員ヲ命シ從四位勳三等中川健藏、正四位勳三等森田實、從五位勳六等高松四郎ニ本館評議委員ヲ囑託セラレ、從四位勳二等田所美治、從四位勳五等松本愛重ノ本館評議委員囑託ヲ解カル○文部省告示ヲ以テ本館ヲ昭和三年勅令第二十六號北海道廳視學官、地方視學官、北海道廳視學及地方視學ノ任用ニ關スル件ニ依ル學校ト認定セラル

昭和六年

一月內務省訓令ヲ以テ本館規程中一部改正普通科ノ修業年限ヲ五箇年トシ生徒ノ定員ヲ增加シ、本科學生ノ定員ヲ減少ス
二月本館規程改正ニ伴ヒ本館規則ノ一部ヲ改正學科課程等ヲ改ム
三月勅令ヲ以テ官國幣社及神宮神部署神職任用令中一部改正セラレ本館普通科卒業生ハ判任待遇ノ神職ニ試驗ヲ要セス任用セラルヽコトヲ得ヘキ旨規定セラル○教諭金剛幸之助ノ庶務部長ヲ解キ教務部長教授千田憲ニ庶務部長兼務ヲ命ス
四月教授鈴木友吉ノ學生監部長ヲ解キ教授學生監鎌田春雄ニ學生監部長ヲ命ス○教論兼教授木村春太郎ノ普通科主事ヲ免シ教授兼教諭鈴木友吉ニ普通科主事ヲ命ス
五月神宮參拜日及教育勅語奉讀日ノ規程ヲ改正ス
七月本館普通科事務規程ヲ設定ス
八月荻野仲三郎、柳田國男、文部省社會教育局長關屋龍吉ニ講師ヲ囑託シ皇道ニ關スル夏期講習會ヲ開催ス
九月內務省ヨリ前神社局長池田清ノ本館評議委員ヲ解キ、神社局長石田馨ニ本館評議委員ヲ命セラル
十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上運動會ヲ台覽アラセラル
十一月神宮文庫主催宇治山田市先賢遺墨展覽會ヲ開催ス
十二月武道場改築工事竣成ス

昭和七年

一月本館規則ノ一部ヲ改正本科ノ學科課程表ヲ改ム
三月寄宿寮增築工事竣成ス
四月神宮司廳達第三號ニヨリ神宮文庫神宮皇學館長ノ管理ヲハナル○教授千田憲

ノ教務部長兼庶務部長ヲ解キテ圖書部長ヲ、教諭兼教授木村春太郎ニ教務部長ヲ、教授西村爲之助ニ庶務部長ヲ命ス○教授土田誠一ニ神道科主任、同若山善三郎ニ歷史科主任、同鎌田春雄ニ漢文科主任ヲ命ス

五月一日ヨリ三日ニ亘リ本館創立五十周年記念式典ヲ擧行ス　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨アラセラレ親シク令旨ヲ賜フ、記念式竝勤續職員表彰式、神道資料展覽會、物故職員慰靈祭、記念講演會等ヲ催ス、東京帝國大學教授法學博士筧克彥講演ス

七月從四位勳三等中川健藏本館評議委員囑託ヲ解カル

八月東京帝國大學助教授文學博士加藤玄智、本館教授木村春太郎、大西源一ニ講師ヲ囑託シ皇道ニ關スル夏期講習會ヲ開催ス

十一月　天皇陛下大阪城東練兵場ニ於テ二府五縣下ノ學生々徒等　御親閲ニ付、教授鎌田春雄附添本科第四學年三十六名普通科生三名　御親閲式ニ參列ス、館長平田貫一　御親閲式ニ陪列ノ光榮ニ浴ス

昭和八年

二月本館規則ノ一部ヲ改正普通科ノ學科課程表中ニ作業科ヲ加フ

三月　賀陽宮恒憲王殿下台臨遊ハサル○寄宿寮食堂炊事場改築工事竣成ス

五月教授西村爲之助ニ歷史科主任ヲ命ス

八月大阪商科大學教授經濟學博士田崎仁義、角南隆、井上清、本館教授土田誠一ニ講師ヲ囑託シ皇道ニ關スル夏期講習會ヲ開催ス

九月　高松宮宣仁親王殿下神宮御參拜ノ途次台臨、學生生徒ノ武道試合ヲ台覽アラセラル

十月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、武道大會ヲ台覽アラセラル

昭和九年

三月十三日建武改元六百年ニ相當スルヲ以テ遙拜式ヲ行フ

六月建武中興六百年記念祭ヲ擧行ス、慰靈祭、記念展覽會、記念講演會ヲ催ス、東京帝國大學教授文學博士黒板勝美、內務省考證官文學博士宮地直一、本館教授鳥羽正雄講演ス

十一月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、武道大會ヲ台覽アラセラル

十二月寄宿寮改築工事竣成、弓道場、寮テニスコート及排球場等完成ス

昭和十年

一月前神社局長石田馨本館評議委員ヲ解カル

二月內務省ヨリ神社局長館哲二ニ本館評議委員ヲ命セラル

三月普通科五ケ年制實施ニ伴フ所要ノ學寮增築工事竣成ス

六月關東局令ヲ以テ關東州及南滿洲鐵道附屬地神社規則中神職任用資格者ヘ本館卒業生ヲ加ヘラル

七月勅令ヲ以テ本館官制中改正セラレ、主事及生徒監ヲ加ヘ教諭ノ定員ヲ增加セラル○寄宿寮規則中改正、寮舍名四寮ヲ八寮トス○神宮司廳達第十一號ヲ以テ本館普通科主事及生徒監設置ノ件廢止サル

八月野口德太郎、甫守謹吾、本館教授木村春太郎ニ講師ヲ囑託シ皇道ニ關スル夏期講習會ヲ開催ス

十一月　神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、武道大會ヲ台覽アラセラル

昭和十一年

四月學生々徒服制ヲ改正、制服ノ地質及圖式ヲ改ム

八月教授木村春太郎ノ教務部長ヲ解キ、教授土田誠一ニ教務部長ヲ命ス

昭和十二年

八月前神社局長館哲二本館評議委員ヲ解カレ、神社局長兒玉九一本館評議委員ヲ命セラル○教授土田誠一ノ教務部長ヲ解キ、普通科主事教諭兼教授鈴木友吉ニ教務部長兼務ヲ命ス○本館運動場日本陸上聯盟ヨリ第三種ノ公認ヲ受ク

九月本館當直規程中一部改正ス

十二月內務省ヨリ從四位勳三等伊東延吉ニ本館評議委員ヲ囑託セラル

昭和十三年

一月臨時　神宮祭主梨本宮守正王殿下台臨遊ハサレ、祭式實習台覽アラセラレ、運動場ニ於テ學生生徒全員ノ分列式閱兵アラセラル、職員一同陪列ス

四月教授千田憲ノ圖書部長ヲ解キ教授丹羽正義ニ圖書部長ヲ命ス

○法　令

●本館ニ關スル法令

第一　神宮皇學館官制（明治三六年八月三一日勅令第一三〇號）

改正　大正二年九月第二七六號、一五年三月第二一號、昭和二年二月第二一號、三年三月第四二號、四年三月第八號、五年三月第三八號、一〇年七月第一八二號

第一條　神宮司廳ニ神宮皇學館ヲ置ク

第二條　神宮皇學館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　勅任又ハ奏任

教授　專任十五人　奏任

助教授　專任五人　判任

學生監　三人　判任

主事　專任四人　奏任

教諭　專任六人　判任

生徒監　三人　判任

書記　專任五人　判任

第三條　館長ハ大宮司ノ指揮ヲ承ケ館務ヲ統理ス

第四條　教授及助教授ハ館長ノ指揮ヲ承ケ學生ノ教育ヲ掌ル

第五條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ之ニ充ツ館長ノ指揮ヲ承ケ生徒ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條ノ二　主事ハ教諭ノ中ヨリ之ニ充ツ館長ノ指揮ヲ承ケ生徒ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　教諭ハ館長及主事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ教育ヲ掌ル

第六條ノ二　生徒監ハ教諭ノ中ヨリ之ニ充ツ館長及主事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　內務大臣ハ館務ノ必要ニ依リ評議委員會ヲ設ケシムルコトヲ得其ノ委員ハ神宮大宮司ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ命シ又ハ囑託ス

附　則

本令ハ明治三十六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二　評議委員會規程

（大正二年八月一日大宮司稟申
同年九月一五日内務省秘第一、三二四號認可）

改正　昭和五年一一月司廳達第八號

第一條　神宮皇學館官制第八條ニ依リ神宮皇學館ニ評議委員會ヲ置ク

第二條　評議委員ハ内務省高等官、教育上經驗ヲ有スル者及神宮皇學館卒業生ニシテ神官神職ノ經歷若ハ教育ニ經驗アル者ノ中ヨリ之ニ充ツ

第三條　評議委員會ハ學科課程其ノ他館長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ審議シ又ハ内務大臣ノ諮問ニ答申スルモノトス

第四條　評議委員會ノ會議ハ館長之ヲ開キ其ノ議案ヲ提出スヘシ但シ評議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第五條　評議委員會ノ決議ハ館長ヨリ神宮大宮司ヲ經テ内務大臣ニ報告スルモノトス

第三　神宮皇學館規程

（昭和二年三月一日
内務省訓令第五號）

改正　昭和六年一月第二號

第一條　神宮皇學館ニ本科、研究科及普通科ヲ置ク

第二條　修業期間ハ本科四箇年、研究科一箇年、普通科五箇年トス

第三條　本科學生ノ定員ハ凡二百名トシ普通科生徒ノ定員ハ凡百二十五名トス

第四條　本科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス

一　中學校ヲ卒業シタル者

二　專門學校入學者規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ中學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者

四　神宮皇學館普通科ヲ卒業シタル者

第五條　研究科ニ入學セシムヘキ者ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノトス

第六條　普通科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者トス

第七條　本規程施行ノ爲必要ナル事項ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ神宮大宮司之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和六年内務省訓令第二號附則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本科學生ノ定員ハ毎年度三十名宛ヲ減

シテ第三條ニ規定スル定員ニ減少スルモノトシ本令施行ノ際現ニ普通科ノ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ對シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

第四　職員官等俸給

●高等官官等俸給令（明治四三年三月二八日勅令第一三四號）（抄出）

第三條　高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第八條　勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

神宮皇學館長○前後略　年俸　一級　四千六百五拾圓　二級　四千參百圓　三級　四千五拾圓

第九條　勅任文官（親任式ヲ以テ敍任スル文官ヲ除ク）ニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ六百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ勅任文官（親任式ヲ以テ敍任スル文官ヲ除ク）ノ在職年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ最高俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ勅任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第九條ノ二　高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ三年以上高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ高等官一等ヲ最高官等トスル勅任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官一等ニ敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ノ在職年數ハ之ヲ現官ノ高等官二等以上ノ在職年數ニ通算ス

第十條　神宮皇學館教授○中略ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

第十二條　奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル

第十三條　別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等○中略同第三號ニ依ルモノハ高等官五等以下トス

第十四條　別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ

神宮皇學館教授○前後略

第十六條　別表第二表第三號ニ依ル諸官左ノ如シ

神宮皇學館教諭〇後略

第十九條　別表第二表第一號乃至第三號〇中略ニ依ル奏任文官ニシテ五年以上各其ノ官ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ六百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ現官ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ一級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ奏任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第二十條　高等官四等又ハ高等官五等ヲ最高官等トスル奏任文官（外交官ヲ除ク）ニシテ三年以上各其ノ官ノ最高官等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ一等ヲ陞敍スルコトヲ得〇後略

第二十四條　年俸ハ十二分シテ每月之ヲ支給ス

第二十五條　俸給ハ新任增俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス〇後略

第二十六條　俸給令ノ改正ニヨリ新ニ給スヘキ俸給ハ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

〇大正十年勅令第四百七十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神宮皇學館職員官等俸給令ハ之ヲ廢止ス

神宮皇學館職員ニシテ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クルモノニ對シ支給スル俸給額ハ本令施行ノ際ニ限リ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

本令施行ノ際現ニ神宮皇學館助教授又ハ書記タル者ハ文武判任官等級令ニ拘ラス其ノ官ニ在ルノ間從前ノ等級ヲ降ルコトナキモノトス

（第一表）

文武高等官官等表（抄出）

奏任

勅任							
官等／官廳	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
內務省									
				神宮皇學館長	同上	同上	同上		

（第二表）

奏任文官年俸表（抄出）

級俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
第一號	四、〇五〇	三、六六〇	三、四〇〇	三、〇五〇	二、七七〇	二、四三〇	二、一五〇	一、八二〇	一、六五〇	一、四七〇	一、三〇〇	一、一三〇
第二號	三、七七〇	三、四三〇	三、一五〇	二、八二〇	二、五三〇	二、二五〇	一、九七〇	一、七〇〇	一、五二〇	一、三五〇	一、一八〇	一、〇三〇
第三號	二、七七〇	二、四三〇	二、一五〇	一、八二〇	一、六五〇	一、四七〇	一、三〇〇	一、一三〇	一、〇五〇	九七〇	九〇〇	

（第四表）（抄出）

官名 ＼ 級俸	一級	二級	三級	四級	五級
神宮皇學館長奏任タルモノ	四、〇五〇	三、六六〇	三、四〇〇	三、〇五〇	二、七七〇

●判任官俸給令（明治四三年三月二八日勅令第一三五號）（抄出）

第一條　判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル

第三條　判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ增級スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務熟練優等ナル者ハ特ニ百八拾圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條　判任文官ノ俸給ハ月俸七拾五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條　月俸ハ每月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官官等俸給令ノ例ニ依ル

（別表）

級俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸	十一級俸
月額	一四五	一三五	一二〇	九五	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇

○昭和六年勅令第百號附則

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給ヲ受クル者ハ各其ノ相當下欄ノ俸給ヲ受ク

從前ノ俸給（月額）	改正俸給（月額）
二百圓以下ニシテ百六十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百八十圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百六十圓	百四十八圓

百三十五圓	百二十七圓	
百十五圓	百十圓	
百圓	九十七圓	

前項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ五級俸以上各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ヲ受クル者第二項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クルトキハ之ヲ從前ノ級俸ト同等ノ改正給俸ヲ受クルモノト看做ス

●文武判任官等級令（明治四三年六月一八日勅令第二六七號）（抄出）

第一條　判任官ノ等級ハ一等乃至四等トシ其ノ區分ハ別表ニ依ルモノヽ外其ノ本俸ニ依リ左ノ如ク定ム

一等	特別俸	三級俸
	一級俸	四級俸
	二級俸	五級俸
二等	月俸九拾五圓以下八拾五圓以上	
三等	六級俸	
	七級俸	
	八級俸	
	月俸八拾五圓未滿五拾五圓以上	
四等	九級俸	
	十級俸	
	十一級俸	
	月俸五拾五圓未滿	

第二條　年功ニ依リ加給ヲ受クルモ爲ニ等級ヲ昇スコトナシ

●奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件（大正一〇年五年二三日勅令第二二三號）（抄出）

第一條　高等官等俸給令別表第二表第一號○中略ニ依ル奏任文官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ之ヲ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

○後略

第二條　判任文官ニシテ引續キ五ケ年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ事務熟練優等ナル者ハ特ニ之ヲ奏任官ノ待遇相當官等ハ高等官六等以下トス

前項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ之ヲ主事ト稱ス

第一項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ之ヲ主事ト稱ス

●教官及技術官ノ俸給ニ關スル件（大正九年八月一八日勅令第二六二號）（抄出）

第一條　教官ノ俸給ハ其ノ學科目ノ種類又ハ授業時間ノ多少ニ依リ○略中其ノ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條　教官ニシテ他ノ廳ノ教官ヲ兼ヌル者ノ俸給ハ之ヲ分割シテ各廳ヨリ給スルコトヲ得

第三條　教官ノ職務ヲ擔任スル講師又ハ囑託ニハ教官俸給豫算又ハ特ニ定メタル豫

算ノ中ヨリ手當ヲ給スルコトヲ得

第五　恩給法施行令（大正一二年八月一七日勅令第三六七號）（抄出）

第六條　左ニ揭クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一　地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二　都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三　神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第六　陸軍現役將校學校配屬令（大正一四年四月一三日勅令第一三五號）（抄出）

第一條　官立又ハ公立○中略專門學校○中略ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス、但戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第四條　陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閱セシムルコトヲ得

第六條　配屬將校傷痍疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

●文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役將校ヲ配屬スルノ件（大正一四年七月三日勅令第二四六號）（抄出）

陸軍大臣ハ宮內大臣、文部大臣以外ノ各省大臣○中略ヨリ協議アリタルトキハ各其ノ所轄學校ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ陸軍現役將校學校配屬令ヲ準用ス

第七　高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件第二條ニ依ル學校指定（大正一三年五月二二日文部省告示第二九〇號）

大正七年文部省令第三號第二條（第四號）ニ依リ左記ノ學校ヲ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定ス

一五、神宮皇學館

法令　第七高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件第二條ニ依ル學校指定　四三

法令　第八高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ
專門學校ニ準スヘキ學校指定

但シ本科卒業者ニ限ル

（參照）高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件（抄）

第二條　左ノ者ハ高等試驗令第八條ニ依リ高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者ト同等以上ト認ム

二　文部大臣ニ於テ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ヲ卒業シタル者

高等試驗令（抄）

第八條　高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者ハ豫備試驗ヲ免ス

第八　高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ專門學校ニ準スヘキ學校指定　（大正一〇年九月一三日文部省告示第四四九號）

大正八年文部省令第十號高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ左記學校ヲ專門學校ニ準スヘキ學校ト指定ス

神宮皇學館

高等學校教員規程（五一頁）參照

第九　北海道廳視學官地方視學官北海道廳視學及府縣視學ノ任用ニ關スル件ニ依ル學校認定　（昭和五年一二月二九日文部省告示第二四五號）

昭和三年勅令第二十六號北海道廳視學官、地方視學官ノ任用ニ關スル件ニ依リ學校ヲ認定スルコト左ノ如シ

第一條第一號ニ依リ大學、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校ト同等ト認ムル學校

四　神宮皇學館

第十　在學徵集延期者最高年齡　（昭和三年五月一六日陸軍省告示第一二號）

兵役法施行令第二號ニ該當スル學校ニシテ兵役法施行規則第三百十四條第一項ニ揭クル學校以外ノ學校又ハ兵役法施行令第百條第三號ニ該當スル學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齡左ノ如シ

學校ノ區分	最高年齡
神宮皇學館普通科	年齡二十二年
神宮皇學館本科	二十五年

法令　第九北海道廳視學官等ノ任用ニ關スル件ニ依ル學校認定
第十在學徵集延期者最高年齡

法令　第十一同一人ニシテ所轄ノ省ヲ異ニスル二個以上ノ學校又ハ講習所ニ入學ヲ出願シタル場合等ノ取扱方ノ件

（參照）兵役法施行令

第百條　左ニ揭グルモノハ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校トス

但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

一、師範學校、實業學校（尋常小學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限五年又ハ之ト同等以上ノモノニ限ル）、高等學校、大學令ニ依ル大學豫科、專門學校、高等師範學校、大學令ニ依ル大學學部臨時教員養成所、實業學校教員養成所及實業補習學校教員養成所

二、宮內大臣、文部大臣以外ノ各省大臣、朝鮮總督、臺灣總督、關東長官又ハ樺太廳長官ノ所轄學校ニシテ前號ニ揭グル學校ニ準ズルモノ

第十一　同一人ニシテ所轄ノ省ヲ異ニスル二個以上ノ學校又ハ講習所ニ入學ヲ出願シタル場合等ノ取扱方ノ件

（明治四二年七月一七日　內務省神社局長依命通牒）

文甲第二〇號ノ內同一人ニシテ所轄ノ省ヲ異ニスル二箇以上ノ學校若ハ講習所ニ入學ヲ出願シタル場合及甲省所轄學校若ハ講習所在學中ノモノニシテ乙省所轄學校若ハ講習所ニ入學ヲ出願シタル場合ノ入學ニ關シテハ爾今左記ノ如ク其ノ取扱方ヲ一定致度旨文部大臣ヨリ照會有之當省大臣同意相成候ニ付右樣御取扱相成度依命此段及通牒候也

一　同一人ニシテ所轄ノ省ヲ異ニスル二箇以上ノ學校若ハ講習所ニ入學ヲ出願シタル場合ニ於テ二箇以上ノ學校若ハ講習所ヨリ入學ヲ許可セラレタルトキハ其ノ入學スヘキ學校若ハ講習所ハ本人ノ選擇ニ任ス

二　甲省所轄學校若ハ講習所生徒ハ當該學校長若ハ講習所長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ乙省所轄學校若ハ講習所ニ入學ヲ出願スルコトヲ得ス若シ甲省所轄學校若ハ講習所在學生タル事實ヲ隱蔽シテ乙省ノ所轄ニ屬スル學校若ハ講習所入學許可ヲ得タル時ハ其ノ許可ハ無效トス

●本館卒業資格ニ關スル法令

第十二　官國幣社及神宮神部署神職任用令

（明治三五年二月一〇日　勅令第二八號）（抄出）

第八條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス神職高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

三　十年以上神職（府縣社以下神社神職ヲ除ク）ト爲リ現ニ官國幣社ニ勅宜又ハ神宮神部署ノ神部

補若ハ主事補ノ職ニ在ル者

四　師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ教員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者

五　神宮皇學館本科卒業ノ者

第九條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス神職尋常試驗委員ノ詮衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

三　前條第四號若ハ第五號ニ揭ケタル者又ハ神宮皇學館專科若ハ普通科卒業ノ者

第十三　府縣社以下神社神職任用規則（明治三五年二月一八日）（內務省令第四號）（抄出）

第十一條　左ニ揭クル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ詮衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

一　官國幣社及神宮神部署神職任用令第九條一號二號三號五號ニ揭クル者

神職任用奉務及服裝規則（大正五年六月二九日）（朝鮮總督府令第五〇號）（抄出）

第九條　左ニ揭クル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ詮衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

一　官國幣社及神宮神部署神職任用令第九條第一號乃至第三號第五號又ハ第七條ニ揭クル者

縣社以下神社神職任用規則（明治三七年二月一三日）（臺灣總督府令第一二號）（抄出）

第八條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ詮衡ヲ經テ社司若ハ社掌ニ補スルコトヲ得

一　宮國幣社及神部署任用令第九條第一號第二號第三號及第五號ニ揭ケタル者

社司社掌任用規則（明治四三年一〇月一六日）（樺太廳令第二九號）（抄出）

第八條　○上略　左ニ揭クル者ニシテ第二條各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ詮衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

一　官國幣社及神部署神職任用令第九條第一號第二號第三號及第五號ニ揭ケタル者

關東州及南滿州鐵道附屬地神社規則（大正一一年一〇月二六日）（關東廳令第七八號）（抄出）

第十八條　滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ非サレハ神職ト爲ルコト

法令　第十四教員無試驗檢定ニ關シ指定ノ件

トヲ得ス

一　神宮皇學館ノ本科、專科又ハ普通科ヲ卒業シタル者

第十四　教員無試驗檢定ニ關シ指定ノ件

（明治三十六年二月一八日）（文部省告示第三〇號）（抄出）

（明治三十三年文部省令第十號及明治三十六年同省令第二號教員檢定ニ關スル規定第五條第一項第一號）ニ依リ明治三十六年三月一日以後行フ處ノ無試驗檢定ニ關シ指定スルコト左ノ如シ

學校	卒業終了學科	檢定學科目
神宮皇學館	元本科	國語、漢文、歷史
同	本科第一部	修身、國語、漢文
同	本科第二部	修身、歷史
同	本科（昭和十一年三月以後ノ卒業者）	修身
	教育學ヲ履修シタル者	修身、國語、漢文
	第一選修科目ヲ履修シタル者	修身、歷史
	第二選修科目ヲ履修シタル者	

第十五　公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依ル指定

（大正八年七月八日）（文部省告示第一九二號）

明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

一、實業學校ノ教員タルコトヲ得ル者左ノ如シ

神宮皇學館本科卒業者

（參照）公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程（明治四〇年九月二一日）（文部省令第二八號）（抄出）

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得

三　文部大臣ノ指定シタルモノ

第十六　高等學校教員規程

（大正八年三月二九日）（文部省令第一〇號）（抄出）

第一條　高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

法令　第十五公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依ル指定

第十六高等學校教員規程

四　專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

九　五年以上大學、大學豫科、高等學校、專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

○本館諸規則

第一　神宮皇學館規則

（昭和二年三月一九日神宮司廳達第一號）

改正　昭和六年二月第二號、七年一月第二號、八年二月第一號

第一章　總則

第一條　本館ハ皇學ヲ教授シ併セテ其ノ研究ニ須要ナル學科ヲ修メシムルヲ所トス

第二條　本館ニ本科、研究科及普通科ヲ置ク

本科、研究科ハ專ラ高等ノ學術ヲ授ケ普通科ハ普通神職ニ必要ナル學術ヲ授ク

第三條　修業期間ハ本科四箇年、研究科一箇年、普通科五箇年トス

第四條　本科學生ノ定員ハ凡二百名トシ普通科生徒ノ定員ハ凡百二十五名トス

第五條　本科ノ學科目ハ神道、修身、國語、漢文、歷史、哲學、法制、英語、體操トス

研究科ノ學科目ハ本科ニ置ク所ノ學科目トシ教授ノ指導ニヨリ所選ノ學科目ヲ履修セシム

普通科ノ學科目ハ神道、修身、國語、漢文、歷史、法制、有職、地理、哲學、英語、數學、理科、簿記、圖畫、作業、體操トス

第二章　學年、學期及休業

第六條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條　學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條　休業日ハ左ノ如シ

夏季休業　七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル（普通科ハ七月二十五日ヨリ）

冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月十日ニ至ル　（八月三十一日ニ至ル）

春季休業　四月一日ヨリ同月十日ニ至ル

神宮祈年祭　二月十七日

大祭祝日

本館創立記念日　四月三十日

日曜日

第三章　本科

第一節　學科課程

第九條　各學年ノ學科課程及每週授業時數ハ左表ニヨル

學科／學年	第一學年	每週時數	第二學年	每週時數	第三學年	每週時數	第四學年	每週時數
修身	實踐倫理	二	國民道德論	一	國民道德倫理學	四	東洋倫理學史 西洋倫理學史	四
神道	神道一般 神宮史概要 祭式	四	神道史 國學 神典解說 實習及演習	四 (四)	神道史 神典解說 祝詞同作文 實習及演習	五 (四)	神道概論 神典解說 神社有職 祝詞同作文 實習及演習	五 (七)
國語	講讀作文 文學史	六	講讀作文 文學 國語學	六	講讀作文 文學史	五	講讀作文歌 文法	五
漢文	講讀	五	講讀	四	講讀	四	講讀作文歌 文法	五
歷史	國史 東洋史	六	國史 西洋史	六	國史 考古學	四	國史 美術史 古文書學	五
哲學	心理學	一	論理學	一	宗教學 哲學概論	三	社會學	二
法制	法學通論 經濟學通論	二	法學通論 憲法皇室典範	二	古代法制實 有職故	二	神社法令	一
英語	講讀作文	四	講讀作文	三	講讀作文	二		
體操	教練 武道	四	教練 武道	四	教練	二	教練	二

計		三四		(四)三〇		(四)三〇		(七)二七

備考

一　第二學年乃至第四學年ノ神道中實習及演習ハ選修科目ヲ履修スル者ニ對シテハ之ヲ課セサルコトヲ得

二　實習及演習ニ於テハ神宮祭式、雜祭式、神社祭式、雅樂、祝詞作文、裝束衣紋、神社有職、神社ノ考證及神社ノ施設經營ニ關スル事項ヲ課スルモノトス

三　課外トシテ臨時ニ講義ヲ課スルコトアルヘシ

第十條　前條ノ學科課程ノ外第二學年乃至第四學年ニ第一及第二選修科目ヲ置キ其ノ課程及每週授業時數ハ左表ニヨル

前項ノ選修科目ハ之ヲ隨意科トシ學生ハ其ノ一若クハ教育學ノミヲ選ヒテ之ヲ履修スルコトヲ得

第一選修科目

學科＼學年	第一學年	每週時數	第二學年	每週時數	第三學年	每週時數	第四學年	每週時數
國語					文學概論	二	言語學	二
漢文			講讀、文法作文	四	講讀、作文	二	講讀、漢文學史	二
教育學							教育學	三
計				四		四		七

第二選修科目

學科＼學年	第一學年	每週時數	第二學年	每週時數	第三學年	每週時數	第四學年	每週時數
歷史			東洋史、西洋史	四	史學概論、西洋史	四	國史、東洋史、西洋史	四
教育學							教育學	三
計				四		四		七

第二節　入學、退學及休學

第十一條　學生募集ノ期日人員及試驗場等ハ官報、新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ廣告ス

第十二條　本科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ左記各號ノ一ニ該當シ本館ノ身體檢查ニ合格シタル者ニ限ル

一　中學校ヲ卒業シタル者
二　專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者
三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ中學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者
四　本館普通科ヲ卒業シタル者

第十三條　入學志願者募集定員ニ超過シタル場合ニ於テハ選拔試驗ヲ行フ

第十四條　入學志願者ハ入學願書（第一號式）ニ左ノ書類及檢定料金五圓ヲ添ヘ指定ノ期日マテニ差出スヘシ
一　戸籍抄本
二　卒業學校ノ學業成績點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書又ハ專門學校入學者試驗檢定合格證明書（第二號式）
三　最近寫眞

第十五條　既納ノ檢定料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第十六條　入學許可ヲ得タル者ハ四週日以内ニ其ノ父兄又ハ親族ヲ以テ身元保證人ト定メ在學證書（第三號式）及戸籍謄本ヲ差出スヘシ
但シ父兄親族アラサル者ハ公民權ヲ有シ相當資產アル者ヲ以テ保證人トナスコトヲ得

第十七條　保證人死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ事故ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ在學證書（第三號式）ニ準シ保證書ヲ調製シ之ヲ屆出ツヘシ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アル者ハ除名ス
一　正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺課シタル者
二　出席常ナラサル者
三　授業料ノ督促ヲ受ケ一箇月ヲ經ルモ猶ホ之ヲ納付セサル者
四　學年成績ニ於テ引續キ二回及第セサル者
五　學年成績ニ於テ及第セサル者ニシテ次學年始業後一週日以上無屆缺課シタル者
六　體質虛弱又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者

第十九條　疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ退學セント欲スル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ニ因ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第二十條　學生ニシテ疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ三箇月以上修學ヲ中止セムトスルトキハ館長ノ許可ヲ得テ休學ヲ爲スコトヲ得

休學ハ兵役ニ服スル場合ヲ除キ一箇年以上ニ亘ルコトヲ得ス

休學期間内ト雖モ其ノ事故止ミタルトキハ願ニヨリ復學ヲ許スコトアルヘシ

第三節　進級及卒業

第二十一條　學生ノ進級及卒業ハ學業成績ニ依リ之ヲ定ム

第二十二條　學業成績ヲ分チテ左ノ三種トス

一　學期成績

二　學年成績

三　卒業成績

第二十三條　學期成績ハ第一學期第二學期ノ各終ニ於テ學期試驗ヲ行ヒ平素ノ成績ヲ參按シ之ヲ定ム

第二十四條　學年成績ハ每學年ノ終ニ於テ學年試驗ヲ行ヒ其ノ成績ト學期成績トヲ平均シテ之ヲ定ム

第二十五條　試驗ハ學科ノ性質ニ依リ之ヲ省キ若ハ臨時ニ行フコトアルヘシ

第二十六條　各學課目ノ成績ハ一百點ヲ以テ滿點トス

第二十七條　學年成績ニ於テ各學課目ノ成績六十點以上ヲ及第トス但シ全學課目成績平均六十點以上ニシテ六十點未滿五十點以上ノ成績ヲ有スル學課目三以内ナルトキハ及第セシムルコトアルヘシ

第二十八條　卒業成績ハ各學年ノ學業成績ヲ合セ其ノ學年ノ數ヲ以テ除シテ得タルモノトス

第二十九條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲メ試驗ニ缺席シタル者又ハ兵役ニ服スル爲メ試驗ヲ受クルコト能ハサル者ハ詮議ノ上特別試驗ヲ行フコトアルヘシ

第三十條　本館所定ノ學科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四節　特待生及館費生

第三十一條　學生中身體强壯品行方正學術優等ニシテ他ノ模範タルヘキ者アルトキハ選ヒテ特待生トス

第三十二條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第三十三條　卒業生ニシテ他ノ高等ノ學校ニ入リタル者ハ其ノ願ニ依リ之ヲ館費生ニ採用スルコトアルヘシ

第三十四條　館費生ニハ其ノ學校所定ノ修學期間中每月金參拾圓以内ノ學資ヲ給與ス但シ病氣又ハ事故ニ依リ休學久シキニ亘ルトキハ一時給費ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十五條　館費生ニ選定セラレタル者ハ保證人ヲ定メ誓約書（書式第四號）ヲ差出スヘシ

第十六條及第十七條ノ規程ハ前項ノ保證人ニ關シ之ヲ準用ス

第三十六條　館費生病氣又ハ事故ノ爲休學シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ直ニ館長ニ屆出ツヘシ

第三十七條　館費生ハ本館ノ許可ヲ得スシテ報酬ヲ受クル職務ニ就クヲ得ス

第三十八條　館費生ハ其ノ學年ノ終リ毎ニ修業ノ狀況ヲ報告スヘシ

第三十九條　特待生ニシテ其ノ名譽ニ反スル行爲アリト認ムルトキハ之ヲ解除スヘシ

館費生半途廢學シ若ハ學業不進又ハ品行不良ナルトキハ館費生ヲ免シ從來支給シタル學資ヲ即時ニ償還セシム但シ情狀ニ依リ詮議ノ上其ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第五節　授業料

第四十條　授業料ハ一學年金六拾圓トシ左ノ區分ニ依リ納付セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ順次之ヲ繰下ク

第一學期　金貳拾五圓也　納付期日　四月十三日ヨリ同月十五日マデ

第二學期　金貳拾五圓也　納付期日　九月三日ヨリ同月五日マデ

第三學期　金拾五圓也　納付期日　一月十三日ヨリ同月十五日マデ

第四十一條　休學中ハ授業料ヲ徵收セス

復學ヲ許サレタル者ノ授業料ハ月割ヲ以テ其ノ月ヨリ納付セシム

第四十二條　特待生ヲ解除シタルトキハ授業料ハ次學期ヨリ之ヲ納付セシム

第四十三條　既納ノ授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第四章　研究科

第四十四條　研究科學生ハ本館本科卒業生及之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニシテ入學ヲ志望スル者ニツキ館長之ヲ許可スルモノトス

第四十五條　研究科ニ入學セントスル者ハ書式第一號ニ準シ入學願書ヲ差出スヘシ但シ本科卒業生以外ノ入學志望者ニ在リテハ第十四條ヲ適用ス

第四十六條　研究科學生ニシテ所選ノ學科ヲ履修シタルトキハ研究論文ヲ提出セシメ成績考査ノ上修業證明書ヲ授與スルモノトス

第四十七條　第十五條、第十六條、第十七條、第十八條第一號第三號及第六號、第十九條、第四十條及第四十三條ハ研究科學生ニ之ヲ適用ス

第五章　普通科

第一節　學科課程

第四十八條　各學年ノ學科課程及毎週授業時數ハ左表ニヨル

學科課程表

學科／學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數
神道	神道要旨 一	同 上 一	神道史 二	神典解說 神道史 祝詞作文 祭式 七	神典解說 神道概說 祝詞作文 祭式 八
修身	道德ノ要旨作法 二	同 上 二	國民道德ノ要旨 一	國民道德史 一	同 上 一
國語	講讀 作文、習字 六	講讀、文法 作文、習字 六	同 上 五	講讀 作文、作歌 四	同 上 四
漢文	講讀 二	同 上 二	同 上 三	同 上 三	同 上 三
歷史	國史 二	同 上 二	東洋史 三	國史 西洋史 二	同 上 三
法制				法制大意 二	憲法 皇室典範 古代法制 神社法令 三
有職				有職概說 神社有職 一	皇室令附式 典禮故實 一
地理	日本地理 二	外國地理 二	地理概說 一		
哲學				經濟大意 二	宗教大意 一
英語	發音、綴字 譯解、習字 四	譯解 作文 四	譯解、文法、作文 四	同 上 四	譯解 作文 三
數學	算術、珠算 代數 四	代數 幾何 四	同 上 四	同 上 二	官廳簿記 一
理科	動物 植物 二	鑛物 生理、衛生 二	物理 化學 二	同 上 二	
圖畫	自在畫 一	自在畫 用器畫 一	同 上 一		
作業科	農業實習 一	同 上 一	農業實習 林業實習 一	同 上 一	同 上 一
體操	體操 教練、武道 五	同 上 五	同 上 五	教練 武道 四	同 上 四
計	三二	三二	三二	三三	三三

第四十九條　前條ニ定ムル所ノ學科課程ノ外五學年間ニ課スヘキ實習ノ要目左ノ如シ但シ實習ハ休業期間ニ於テ之ヲ課スルコトアルヘシ

普通禮式　神宮祭式　神社祭式
神饌調理　祭具調製　裝束衣紋
第五十條　前二條ノ外必要ニ應シ科外トシテ講義又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

第二節　入學、退學及休業

第五十一條　普通科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ尋常小學校卒業者ニシテ左ノ各

號ノ要件ヲ具備シ神宮大宮司、地方長官若ハ道府縣神職會長ヨリ薦擧セラレシ者タルヲ要ス

一　資性善良品行方正ニシテ身體健全ナル者

二　卒業後神職タラントスル志操堅固ナル者

第五十二條　生徒募集ニツキテハ館長ニ於テ毎年薦擧ニ關スル要件ヲ定メ神宮大宮司ニ報告スルト共ニ之ヲ各地方長官及各道府縣神職會長ニ通知スルモノトス

第五十三條　薦擧生ノ數募集定員ニ超過シタル場合ニ於テハ館長ハ薦擧生ノ學業成績書、身體檢査書及履歷書ヲ參按シ入學セシムヘキ者ヲ選拔ス

第五十四條　入學許可ヲ得タル者ハ四週日以內ニ身元保證人二名ヲ定メ誓約書（書式第五號）及戸籍謄本ヲ差出スヘシ

保證人ノ中一名ハ本人ノ父兄又ハ親族ニシテ公民權ヲ有スル者其ノ他ノ一名ハ丁年以上ノ男子ニシテ所得稅ヲ納ムル者タルヘシ

第五十五條　保證人死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ事故ノ生シタル日ヨリ十日以內ニ保證人連署ノ屆書ヲ差出スヘシ

新規保證人ハ前條誓約書ニ準シ身元證明書ノ添附ヲ要ス

第五十六條　第十八條第一號、第二號及第四號乃至第六號、第十九條及第二十條ハ普通科生徒ニ之ヲ適用ス

第三節　進級及卒業

第五十七條　生徒ノ進級又ハ卒業ニ付テハ各學年末ニ於テ其ノ學年ノ學業成績及勤惰操行ヲ考查シテ之ヲ定ム

第五十八條　前條ノ考查ニ合格セサル者ハ次學年ノ始ヨリ原級ノ全課程ヲ再修セシム

第五十九條　本館所定ノ學科及實習ヲ履修シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四節　學資補給

第六十條　生徒ニハ在學中學資ノ補給ヲナス

學資ノ補給ハ月額拾圓以內トス

第六十一條　生徒休學シタルトキ若ハ停學ニ處セラレタルトキハ其ノ期間學資ノ補給ヲ停止ス

第六十二條　第十八條ニヨリ除名セラレタル者、第六十五條ニヨリ放校ニ處セラレタル者、若ハ自己ノ便宜ニヨリ退學シタル者ニ對シテハ其ノ在學中支給シタル學資ヲ即時ニ償還セシム但シ情狀ニ依リ詮議ノ上其ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第六章　賞　罰

第六十三條　學生生徒ニシテ本館ノ命シタル勤務ニ就キ克ク其ノ責ヲ果シタル者若ハ學術操行ニ關シ特ニ推奬スヘキ者ニハ賞品ヲ授與スルコトアルヘシ

第六十四條　學生生徒ニシテ卒業ノ際成績優等品行方正ナル者ニハ恩賜奬學費ヲ以テ賞品ヲ授與スルコトアルヘシ

第六十五條　館則其ノ他命令規則ニ背戻シ又ハ本館ノ學生生徒タル體面ヲ汚シタル者ハ之ヲ懲罰ス

懲罰ヲ分チテ左ノ三種トス

一　譴　責
二　停　學
三　放　校

第七章　寄宿寮及學寮

第六十六條　本館ニ寄宿寮及學寮ヲ置ク

寄宿寮ニハ本科學生ヲ寄宿セシム

學寮ニハ普通科生徒ヲ寄宿セシム

第六十七條　本科學生ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ外外宿スルコトヲ許サス

一　本館ヲ離ルヽ一里半以内ニ居住スル父兄ノ家ニ在ル者ニシテ父兄ノ出願ニヨリ期限ヲ定メ外宿ヲ許シタル者

二　疾病其ノ他本館ノ都合ニ依リ臨時外宿ヲ命シタル者

三　旅行、歸省其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ所要ノ日數ヲ限リ外宿ヲ許シタル者

第六十八條　普通科生徒ハ前條第二號及第三號ニ該當スル者ノ外外宿スルコトヲ許サス

第六十九條　本科寄宿生ハ舍費トシテ毎月（八月ヲ除ク）金壹圓ヲ其ノ月十五日マテニ納付スヘシ但シ第六十七條各號ノ外宿ニシテ全一箇月ニ亘ルモノアルトキハ其ノ月ニ限リ之ヲ徴收セス

第八章　補　則

第七十條　本則ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ神宮大宮司ノ認可ヲ得テ館長之ヲ定ム

附　則

本則ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和六年司廳達第二號附則

本達ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本科學生ノ定員ハ毎年度三十名宛ヲ減シテ第四條ニ規定スル定員ニ滅スルモノトシ本達施行ノ際現ニ普通科ノ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ對シテハ仍從前ノ規定ニヨル

○昭和七年司廳達第二號附則

本達ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但本達施行ノ際現ニ本科第二學年以上ニ在學スル學生ニ對シテハ仍從前ノ規則ニ依ル

（書式第一號）

入學願書（用紙美濃紙）

私儀御館本科第一學年（研究科）へ入學仕度候ニ付御許可相成度此段奉願候也

本籍	
現住所	
族稱戸主トノ續柄	戸主又ハ父兄ノ職業

右側ニ假名ヲ附スヘシ

氏名　印

履歷			願書提出ノ日附	年　月　日	生年月日
學歷	職業	賞罰			
			神宮皇學館長氏　名殿		年　月　日生

（書式第二號）

學業成績證明書（用紙美濃紙）

道、廳、府、縣、華、士族

氏　名

年　月　日生

右ノ者何年何月何日本校第何學年ニ入學何年何月何日本校ヲ卒業（又ハ本校ニ於テ專門學校入學者試驗檢定ニ合格）シタル者ニシテ本校在學中ノ成績（又ハ試驗成績）操行左ノ通ニ相違無之候也

年　月　日

何學校長　氏　名印

神宮皇學館長　氏　名　殿

學業成績表

學級＼科目	修身	何	何	何		平均	席次	操行
第一學年							何人中第何番	
第二學年								
第三學年								
第四學年								
第五學年								

備考　專門學校入學者試驗檢定ノ合格者ニアリテハ試驗科目及其評點竝ニ合格者總人員中ノ席次ヲ掲クルモノトス

（書式第三號）

在學證書（用紙美濃紙一通）

參錢收入印紙

私儀今般御館本科（研究科）ニ入學御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ專心ニ勉勵可致ハ勿論卒業ニ至ル迄濫ニ轉學退學等致間敷候仍テ證書如此ニ候也

本籍地

族籍、戶主又ハ戶主トノ續柄

氏　名印

年　月　日生

右何某在學中御規則堅ク可爲相守ハ勿論退學後タリトモ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受可申候此段保證仕候也

年　月　日

神宮皇學館長　氏　　名　殿

追テ保證人向後轉住改印等ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ速カニ御屆可申候也

前書保證人何某ハ當市町村内ニ居住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

年　月　日

何市町村長　何　　某　印

（書式第四號）

（用紙美濃紙一通）

參錢收入印紙

誓約書

私儀今般御館館費生ニ御選拔被下候ニ就テハ館費生ニ關スル規則ヲ遵奉可致ハ勿論成業後滿一箇年以内ニ於テ御命令有之候節ハ學資ノ給與ヲ受ケタル年數ト均シキ年限内御館御指定ノ職務ニ從事可仕此段誓約仕候也

本籍地

現住所

何某父兄伯叔父又ハ緣故者等

族籍、職業

保證人　氏　　名　印

年　月　日生

右何某今般御館館費生ニ御選拔被下候ニ就テハ右誓約書ノ通本人ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘキハ勿論萬一半途廢學若ハ其ノ他事故ノ爲學資償還ヲ命セラレ本人ニ於テ其ノ義務相怠リ候節ハ拙者ニ於テ必辨償可仕此段保證仕候也

本籍地

現住所

卒業生　氏　　名　印

年　月　日

神宮皇學館長　氏　　名　殿

追テ保證人向後轉住改印等ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ速カニ御屆可申候也

前書保證人何某ハ當市町村内ニ居住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

年　月　日

何市町村長　何　　某　印

（書式第五號）

參錢收入印紙

（用紙美濃紙一通）

誓約書

本籍地

現住所

保證人　氏　　名　印

私儀今般御館普通科ニ入學御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ專心ニ勉勵可致ハ勿論卒業ニ至ル迄濫ニ轉學退學等致間敷萬一半途退學若ハ其ノ他事故ノ爲學資償還ヲ命セラレ候節ハ直チニ返納可致此段誓約仕候也

本籍地
族籍、戶主又ハ戶主トノ續柄
氏　名印
年月日生

前書之通相違無之仍テ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者共ニ於テ引受可申此段保證仕候也

年　月　日

本籍地
現住所
何某父兄伯叔父又ハ緣故者等
族籍、職業
保證人　氏　名印
年月日生

神宮皇學館長　氏　名殿

追テ保證人向後轉住改印等ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ速カニ御屆可申候也

前書保證人何某ハ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

年　月　日　何市町村長　何　某印

前書保證人何某ハ丁年以上ノ男子ニシテ所得稅ヲ納ムル者ニ相違無之候也

年　月　日　何市町村長　何　某印

第二　館費生規則

（大正四年八月二日神宮皇學館訓令第二號）

改正　昭和六年七月第三號、七年三月第一號

第一條　本館規則第三十三條ニ據リ撰定セラレタル館費生ニシテ本館ノ認許シタル

學校ヲ卒業シタル者ハ本規則ヲ遵奉スヘシ

第二條　館費ノ支給ヲ受ケタル者ハ其ノ支給ヲ受ケタル年數ト均シキ年限内本館指定ノ職務ニ從事セシムルコトアルヘシ但シ成業後滿一ケ年ヲ經過スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　館費ヲ受ケタル者本館ノ主旨ニ背キ又ハ本館ニ對スル義務ヲ履行セサルトキハ嘗テ給與シタル館費ヲ一時ニ償還セシム

第四條　本館規則第三十五條ニ據リ差出シタル誓約書ハ義務解除シタルトキ之ヲ返付ス

第三　處務規程

（大正二年一〇月一六日　神宮司廳訓令第一七號）

改正　大正二年一一月第一八號、三年一月第一號、一〇年一二月第六號、一二年四月第四號、一〇月第一一號、四年八月第一一號、五年三月第二號、

第一條　神宮皇學館長ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ニ揭クル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得

一　部下職員ノ出張

二　部下職員ノ看護歸省、墓參、轉地療養若ハ忌引賜暇中ノ旅行

三　部下職員ノ除服出仕

四　部下職員ノ受驗願

五　月額五拾圓以内ノ雇員、年額千八百圓以内ノ講師及年額千貳百圓以内ノ囑託員ノ採用解免

六　雇員一時金給與

七　神宮皇學館及附屬土地建物ノ管理

八　物品會計規則第十六條第二項但書ニ於ケル吏員ノ命令

第二條　第一條第三號第五號及第六號ニ付テハ專決ノ都度氏名其ノ他ノ要件ヲ神宮大宮司ニ報告スヘシ

第三條　神宮皇學館長ハ經伺ノ上左ノ規定ヲ設クルコトヲ得

一　館務分掌規程

二　館員服務心得

三　貸費生及館費生ノ義務ニ關スル細則

第四條　第一條及第三條各號ノ事項ニシテ制規定例トナルヘキモノヲ設定シ若ハ改廢シタルトキハ其ノ都度全文ヲ揭ケ神宮大宮司ニ報告スヘシ但シ神宮公報ニ登載

スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　神宮皇學館長ハ前學年中施行シタル學事及事務ノ狀況ヲ毎年四月末日迄ニ神宮大宮司ニ報告スヘシ

附　則

本規程ハ大正二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四　館務分掌規程

（大正一五年七月一三日神宮皇學館訓令第一號）

第一條　神宮皇學館ニ教務部、學生監部、圖書部及庶務部ヲ置ク

第二條　各部ニ部長一名部員若干名ヲ置ク

第三條　部長ハ館長ノ命ヲ承ケ各主管ノ事務ヲ掌理ス

部員ハ部長ノ指揮ヲ承ケ分擔ノ事務ニ從フ

第四條　前條ノ部長及部員ハ館長之ヲ命ス

第五條　教務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　授業及教課ニ關スル事項

二　試驗及成績ニ關スル事項

三　教授會ニ關スル事項

四　野外演習、遠足、修學旅行及研究ニ關スル事項

五　教室教具及講堂ノ整理ニ關スル事項

六　研究室及歷史參照室ニ關スル事項

七　卒業生ニ關スル事項

八　學生ノ募集ニ關スル事項

九　主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項

一〇　其他教務ニ關スル一切ノ事項

第六條　學生監部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　學生風紀ノ監督指導ニ關スル事項

二　學生ノ勤惰及賞罰ニ關スル事項

三　學生ノ衛生及身體檢査ニ關スル事項

四　學生ノ願屆書ニ關スル事項

五　學籍及兵役ニ關スル事項

六　學生ノ休學及退學ニ關スル事項

七　學生ノ汽車汽船運賃割引證ニ關スル事項

八　學生ノ集會及掲示ニ關スル事項
九　學生控所及集會所ノ整理ニ關スル事項
一〇　學寮ノ當直ニ關スル事項
一一　寮費ニ關スル事項
一二　炊事ニ關スル事項
一三　主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項
一四　其他學生ノ取締ニ關スル一切ノ事項

第七條　圖書部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　圖書印章ノ管守ニ關スル事項
二　圖書ノ購入修理ノ計畫ニ關スル事項
三　圖書ノ保存及整理ニ關スル事項
四　圖書ノ受入ニ關スル事項
五　圖書ノ目錄編纂ニ關スル事項
六　圖書ノ閱覽及貸付ニ關スル事項
七　主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項
八　其他圖書ニ關スル一切ノ事項

第八條　庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　御眞影詔勅及令旨ノ保管ニ關スル事項
二　館長印及館印ノ管守ニ關スル事項
三　機密文書ニ關スル事項
四　儀式ニ關スル事項
五　職員ノ服務ニ關スル事項
六　職員會議ニ關スル事項
七　當直ニ關スル事項
八　令達告示及諸規則ノ立案審査ニ關スル事項
九　成案文書官報公報及新聞紙ノ査閱整理ニ關スル事項
一〇　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
一一　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
一二　本館一覽統計報告及掲示公告ニ關スル事項
一三　來館者ノ接遇ニ關スル事項
一四　土地建物ノ管理ニ關スル事項
一五　館中ノ取締及營繕ニ關スル事項

一六　衛生及洒掃ニ關スル事項
一七　傭人ニ關スル事項
一八　歳入歳出豫算及決算ニ關スル事項
一九　金錢ノ收支ニ關スル事項
二〇　物品ノ出納保管及處分ニ關スル事項
二一　通信運搬ニ關スル事項
二二　其他各部ノ主管ニ屬セサル一切ノ事項
第九條　各部ノ主管事項ニシテ他部ニ關聯スルモノハ合議スルモノトス

第五　普通科事務規程

（昭和六年七月二四日神宮皇學館訓令第四號）

第一條　神宮皇學館普通科ノ事務ヲ掌理スル爲メ教務係及生徒係ヲ置ク
第二條　各係員ハ主事ノ指揮ヲ承ケ各分擔ノ事務ニ從フ
第三條　前條ノ係員ハ館長之ヲ命ス但シ生徒係員ハ生徒監ヲ以テ之ニ充ツ
第四條　教務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　授業及教課ニ關スル事項
二　試驗及成績ニ關スル事項
三　教科用圖書ニ關スル事項
四　教員會議ニ關スル事項
五　野外演習、遠足及旅行等ニ關スル事項
六　教室及教具ノ整理ニ關スル事項
七　生徒ノ募集及入學ニ關スル事項
八　卒業生ニ關スル事項
九　主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項
一〇　其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項
第五條　生徒係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　生徒ノ勤惰及賞罰ニ關スル事項
二　在學及素行證明ニ關スル事項
三　生徒ノ學籍及兵役ニ關スル事項
四　誓約書ノ整理保管ニ關スル事項
五　退學休學其ノ他生徒ノ事故ニ關スル事項
六　家庭及保證人トノ連絡ニ關スル事項

七　生徒ノ願届ニ關スル事項
八　生徒ノ郵便物ニ關スル事項
九　生徒ノ集會及掲示ニ關スル事項
一〇　生徒ノ汽車汽船運賃割引ニ關スル事項
一一　生徒ノ衛生及身體檢査ニ關スル事項
一二　學寮ノ清潔整頓警備及取締ニ關スル事項
一三　學寮ノ當直ニ關スル事項
一四　生徒學資ノ保管竝支出ニ關スル事項
一五　寮費ニ關スル事項
一六　炊事ニ關スル事項
一七　學寮ニ於ケル面會人及參觀人ノ取扱ニ關スル事項
一八　主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項
一九　其ノ他生徒ノ訓育ニ關スル一切ノ事項
第六條　各係ノ主管事項ニシテ本館々務ニ關聯スルモノハ夫々合議スルモノトス
第七條　庶務ニ關スル事務ハ神宮皇學館々務分掌規程ニ依リ庶務部長ヲシテ掌理セシム

第六　當直規程

（明治三七年六月二一日）
（神宮皇學館達第二號）

改正　明治四三年五月第二號、昭和十二年九月第一號

第一條　當直ハ一名トシ判任官並ニ之ニ準スヘキ職員ニシテ特ニ館長ノ命シタル者及雇ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　當直割當ハ庶務部ニ於テ豫メ一ケ月毎ニ番表ヲ製シ各員ノ認印ヲ徴ス

第三條　當直ノ勤務ハ休館日又ハ平日退館時限ヨリ翌日登館時限迄トス

第四條　休館日ノ當直交代ハ平日ノ登館時限ニ依ル

第五條　當直割當ノ後公務若クハ疾病忌引等ノ事故ヲ生シタル時ハ臨時當番ヲ割當補充ス

第六條　當直ヲ交換シタル時ハ庶務部ニ通告スルヲ要ス

第七條　休館日當直ノ者ハ公務ノ繁閑ニ依リ翌日休暇スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ庶務部ヘ通告スヘシ

第八條　當直員ハ各部所管ノ鍵函ヲ管守スヘシ

第九條　當直員ハ左ノ簿冊ヲ管理シ勤務終了ノ際庶務部又ハ次番ニ引繼クヘシ

一　當直日誌
一　當直規程
一　當直番表
一　郵便受付簿
一　發送簿
一　證印簿
一　郵便電信規則

第十條　當直員ハ臨時郵便電信發送用トシテ庶務部ヨリ郵便切手ヲ領置スヘシ

第十一條　當直日誌ニハ月日官氏名及當日取扱ヒタル事務ノ要領ヲ記載スヘシ
發送簿ニハ發送文書ノ種類宛名及郵稅額等ヲ詳記スヘシ
證印簿ニハ職員宛學生宛文書ノ種類又ハ物件ノ員數ヲ記載シ職員宛ノモノハ職員各自ニ學生宛ノモノハ學生監ニ送付シ各受領印ヲ徵スヘシ

第十二條　館長宛親展書其他職員宛ノ電報又ハ親展封書ニシテ至急ノ表示アルモノハ遲滯ナク送達スヘシ

第十三條　至急ヲ要スル事アル時ハ臨機適應ノ處分ヲナシ又ハ主務部員ノ登館ヲ求ムヘシ

第十四條　各員退館後ハ各室ヲ巡視シ文書ノ散逸等アルトキハ之ヲ檢收シ特ニ火ノ元戸締ニ注意スヘシ

第十五條　非常ノ節ハ御眞影ヲ安全ノ地ニ奉移シ館長ニ急報シ門戸ノ開閉點燈ノ配置文書其他重要品ノ搬出保護等臨機ノ處置ヲナスヘシ

第七　職員服務心得

（大正二年一二月二七日　神宮皇學館訓令第四號）

改正　大正六年一月第一號

第一條　新ニ任命セラレタル者ハ直ニ現住所ヲ館長ニ屆出テ且五日以內ニ履歷書ヲ差出スヘシ
但シ履歷ニ關スル異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨速ニ館長ニ屆出ツヘシ

第二條　職員出勤スレハ先ツ勤仕簿ニ捺印スヘシ

第三條　疾病又ハ事故ノ爲メ出勤時限ヨリ一時間以上ヲ過キ出勤シタルトキハ其事由ヲ館長（館長不在ノトキハ主務上席者）ニ陳述スヘシ

第四條　執務中疾病又ハ事故ノ爲メ退出セントスルトキハ其ノ事由ヲ館長（館長不在ノトキハ主務上席者）ニ申出承諾ヲ受クヘシ

第五條　執務時間外若ハ休暇日ニ服スルトキハ其ノ事由ヲ當直員ニ通告スヘシ

第六條　疾病又ハ事故ノ爲メ出勤スルコト能ハサルトキハ其ノ病狀又ハ事故ノ要領ヲ記載シ當日午前中（受持授業アル者ハ其ノ授業時限前）館長ニ届出ツヘシ

病氣缺勤七日以上ニ渉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ爾後届出ノ都度亦同シ但シ休暇日ノ前後共缺勤ノトキハ其ノ休暇日ハ之ヲ缺勤日數ニ通算ス

第七條　證人又ハ鑑定人トシテ裁判所ノ召喚ヲ受ケタルトキハ其裁判所、事件及期日ヲ記載シ大宮司ノ認可ヲ請フヘシ同事件ニ付引續キ出頭ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ都度大宮司ニ届出ツヘシ

第八條　父母ノ祭日ニハ其ノ旨館長ニ届出ツヘシ

第九條　忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ親族ノ續柄及忌服日數ヲ記載シ館長ニ届出ツヘシ

第十條　病氣看護、墓參、轉地療養ノ爲又ハ忌引、賜暇中旅行セントスルトキハ其ノ事由旅行ノ期日及旅行先ヲ記載シ轉地療養ニハ醫師ノ診斷書、看護ニハ事實ヲ認ムヘキ書類ヲ添ヘテ館長ノ許可ヲ請フヘシ

旅行許可期間内ニ歸省シ難キ場合ニ於テハ前項ニ準據シ許可ヲ得タル期限内ニ延期ノ追願ヲ爲スヘシ但シ天災等ノ爲期限内追願ノ手續ヲ爲ス能ハサル場合ハ官公

署ノ證明書ヲ添ヘ歸着後之ヲ爲スコトヲ得

第十一條　出張ヲ命セラレタルトキハ出發届ハ發程前ニ歸館届ヲ歸着ノ翌日迄ニ館長ニ差出スヘシ但至急ノ場合ニ於テハ歸館ノ上發着ヲ届出ツルモ妨ケナシ

第十二條　出張シタル者ハ歸館ノ日ヨリ三日以内ニ復命書ヲ館長ニ差出スヘシ但シ輕易ノ事件ニ付テハ口頭ヲ以テ復命スルモ妨ケナシ

第十三條　徵兵檢查又ハ召集、簡閲點呼ノ令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ寫ヲ添ヘ出發及歸着ノ月日地名ヲ記載シ速ニ館長ニ届出ツヘシ

第十四條　退館ノ節ハ簿書類ヲ取纏メ散逸セサル樣注意スヘシ但シ重要ノ物件ハ特ニ當直員ニ保管ヲ託スヘシ

第十五條　神宮所轄ノ建設物又ハ其ノ附近ニ災害若ハ不慮ノ事變アルトキハ速ニ臨機ノ付警戒及防禦ニ從事スヘシ

第八　神宮參拜日及勅語奉讀日

（昭和六年五月二一日神宮司廳達第五號）

神宮皇學館職員學生生徒一同ハ神宮參拜日ニハ兩宮ニ參拜シ教育勅語奉讀日ニハ奉讀式ニ參列スヘシ

本館諸規則　第八神宮參拜日及勅語奉讀日

一　神宮參拜日

神宮祈年祭　兩大神宮

神嘗祭　豐受大神宮（十月十六日）　皇大神宮（十月十七日）

新嘗祭　兩大神宮

一　教育勅語奉讀日

新年拜賀日

紀元節

天長節

教育勅語發布日

明治節

卒業式日

一　參拜日及奉讀日參集時刻竝ニ儀式次第ハ其都度揭示スヘシ

一　參拜日及奉讀日ニハ事故ナクシテ不參スルコトヲ得ス但シ病氣其他不得止事故アルトキハ必時刻前ニ屆出ツヘシ

第九　創立記念日

（明治三五年一一月二五日　神宮司廳達第二九號）

每年四月三十日ヲ以テ神宮皇學館創立記念日ト定ム

第十　神宮參拜規程

（大正二年一一月二〇日　神宮皇學館訓令第三號）

改正　昭和三年四月第二號

第一條　參拜ニ出向ノ際ハ左ノ服裝ヲ爲スヘシ

職員　通常服（シルクハツト又ハ黑山高帽但シ病氣其ノ他事故アルトキハ紋付羽織袴ヲ以テ代用スルコトヲ得

學生生徒　制服制帽

第二條　全學生生徒ヲ以テ左ノ五個小隊ヨリ成ル一個中隊ヲ編成ス

第一小隊　本科第四學年生

第二小隊　本科第三學年生

第三小隊　本科第二學年生

第四小隊　本科第一學年生

第五小隊　普　通　科　生

第三條　各小隊ハ身長ノ順位ニ依リ隊伍ヲ編成シ級長ヲ以テ小隊長ニ充ツ

第四條　中隊ハ小隊順ニ整列シ小隊長ハ各其ノ所屬小隊ノ右翼ニ占位ス

兩宮共表參道御橋以內ハ二列側面縱隊ヲ以テ行進ス

第五條　參拜ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

一　職員ハ二列トナリテ板垣御門內ニ參入シ外玉垣御門前ニ整列ス次ニ館長進ミテ列ノ中央前約二步ノ地位ニ占位シ一同ト共ニ拜禮ヲ行フ拜禮了レハ職員ハ右側面向キヲ爲シ御門外ニ退出ス館長ハ御門側適宜ノ地點ニ就キ學生生徒ノ拜禮了ルヲ待チテ退出ス

二　學生生徒ハ小隊長ノ指揮ニ依リ一小隊毎ニ二列側面縱隊ヲ以テ板垣御門內ニ參入シ外玉垣御門前ニ整列ス次ニ小隊長進ミテ隊ノ中央前約二步ノ地點ニ占位シ小隊ト共ニ拜禮ヲ行ヒ了リテ右側面向キヲ爲シテ御門外ニ退出シ豫メ示サレタル地點ニ停止シテ後命ヲ待ツヘシ

第六條　小隊長ハ板垣御門外ニ於テ脫帽ヲ命シ御門退出後着帽ヲ命スヘシ

第七條　拜禮ハ再拜拍手二ノ式ニ依リテ之ヲ行フ

附　則

天候其他止ムヲ得サル場合ニハ本規程ニ依ラス機宜ノ命令ヲ發スルコトアルヘシ

第十一　館旗取扱規程

（昭和四年五月一三日　神宮皇學館庶第六七號）

第一條　館旗ニ對シテハ職員學生生徒敬禮ヲ行フモノトス

第二條　館旗ヲ掲クル場合左ノ如シ

一　部隊ヲ編成シ公式送迎ヲナストキ

二　拜賀式、入學式、卒業式及創立記念式ノトキ

三　本館ヲ代表シテ部隊ヲ編成スルトキ

四　其他館長ニ於テ必要ト認ムルトキ

第三條　館旗ヲ捧持セシムルタメ旗手一名副旗手二名ヲ置キ館長之ヲ命ス

第四條　必要アル場合ハ護衛手五名ヲ置キ館長之ヲ命ス

第五條　館旗ヲ掲クル場合ハ旗手ニ對シ館長之ヲ收授ス

附　則

本館創立記念日ニハ館旗ニ對シ分列式ヲ行フ

第十二　圖書閲覽規程（大正四年七月一四日　神宮皇學館訓令第一號）

第一條　本館ノ圖書ハ之ヲ書庫ニ收藏シ圖書閲覽室ヲ設ケテ職員學生生徒ノ閲覽ニ供ス

第二條　本館ノ圖書ニシテ授業若ハ執務上特ニ必要ノモノハ館長ノ許可ヲ經テ一定ノ個所ニ備ヘ置クコトヲ得

第三條　學生生徒ノ教科用書ニシテ本館收藏ノ圖書ハ差支ナキモノニ限リ之ヲ貸付スルコトヲ得

第四條　圖書閲覽室ハ本館休日ヲ除キ毎日始業一時間前ヨリ午後九時迄之ヲ開ク但シ臨時之ヲ開閉シ若ハ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條　圖書ヲ借受ケムトスル者ハ所定ノ用紙ニ書名冊數函架番號月日氏名（學生生徒ハ學級名ヲモ附記スヘシ）ヲ詳記シ捺印ノ上係員ニ差出スヘシ

第六條　圖書閲覽室ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ音讀、談話、喫煙其ノ他他人ノ妨害トナルヘキ行爲アルヘカラス

第七條　圖書閲覽室ニ於テ閲覽ノ爲借受ケ得ヘキ圖書ノ數ハ一時ニ三部十冊以内トス

第八條　圖書閲覽室ニ於テ閲覽ヲ了リタルトキハ直ニ係員ニ返納スヘシ

第九條　本館職員ハ書庫ニ入リテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第十條　本館教官ハ十部三十冊其ノ他ノ職員ハ五部十冊ヲ限リ圖書ヲ借受ケ書庫外ニ携出スルコトヲ得

第十一條　前條ニ據リ携出シタル圖書ハ毎年七月十五日迄ニ悉皆返納スヘシ但シ時宜ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第十二條　携出シタル圖書ハ轉貸ヲ許サス

第十三條　圖書借受中之ヲ紛失シ或ハ毀損汚染シタルトキハ同一ノ圖書若ハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシム

前項ノ手續未了中ハ更ニ他ノ圖書ヲ借受クルコトヲ得ス

（參考）

圖書數（昭和十三年三月末現在）

和漢書	一三、八六四部	三九、七二一冊
洋書	一、五二一部	二、〇一二冊
合計	一五、三八五部	四一、七三三冊

第十三　學生生徒服制

（大正八年三月二日　神宮司廳訓令第一號）

改正　昭和二年第六號、三年第三號、一一年四月第一號

第一條　神宮皇學館學生生徒ノ服制ハ別表竝圖式ニ依ル

第二條　生徒ハ六月一日ヨリ九月三十日迄夏服ヲ着用スヘシ

右期間學生ニ限リ儀式、教練等ノ場合ノ外ハ略帽ヲ以テ制帽ニ代フルコトヲ得

第三條　教練ノ際ハ教練服ヲ着用シ脚絆ヲ用フヘシ

第四條　新ニ入學シタル者ハ五月一日迄ニ制服制帽ヲ調製スヘシ

附　則

本令ハ昭和十一年四月入學者ヨリ之ヲ適用ス

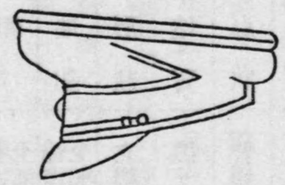
別表

本		地質	黒絨	普通科
制	徽章	竪八分五厘横七分厚一分金色形狀圖ノ如シ	同上	同上
	横章	黒絹地幅約一寸一分花菱形浮織模樣圖ノ如シ		
	眼庇	革表裏黒		同上

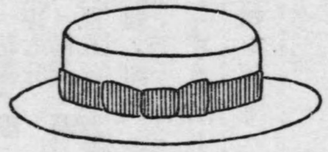
帽	帽	頤紐	黒革幅三分釦金色櫻花章	同上
		形狀	海軍形圖ノ如シ	同上
	略帽	地質	麥稈	
		形狀	普通形圖ノ如シ	
		鉢巻	黒色	
		徽章	制帽徽章ノ約十二分ノ一大ノモノヲ以テ略章トシ之ヲ左側ニ附ス	
制服	上衣	地質	黒サージ	同上
		釦	輪畫ノ中央ニ花菱ヲ顯シ全部金色直徑七分	同上
		袖釦	輪畫ノ中央ニ花菱ヲ顯シ全部金色直徑五分二個宛	同上
		形狀	立襟脊廣形圖ノ如シ	同上
	袴	地質	黒サージ	冬　黒小倉織 夏　霜降小倉織
		形狀	普通形圖ノ如シ	同上
靴			黒皮	同上　短靴

圖式

帽



帽略



釦

釦

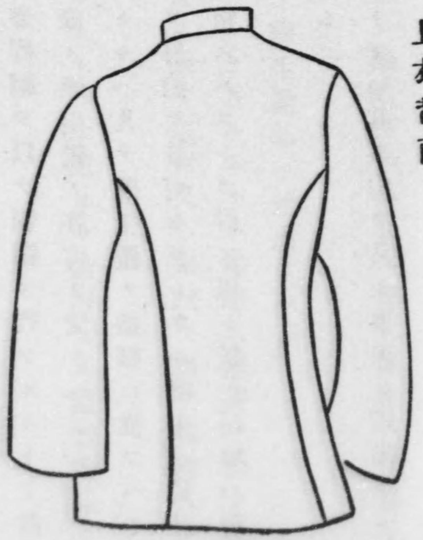
徽章

章橫

上衣前面

袴

上衣背面



第十四　學生取締規則

（大正三年四月八日
神宮皇學館訓令第二號）

改正　昭和六年第一號、昭和七年三月第二號

第一條　學生ハ本館ノ規則命令ヲ遵奉シ苟モ學生タル體面ヲ汚ス所行アルヘカラス

第二條　學生ハ始業時間ヨリ終業時間迄（祭式ノ時間ヲ除ク）ハ必ス制服ヲ著用シ本館所定ノ式日竝ニ神宮參拜等凡テ隊伍ヲ整ヘ行動スル場合ニハ必ス制服制帽ヲ著用シ其ノ他ハ館ノ內外ヲ問ハス制服若クハ袴ヲ著シ外出ノ際ハ必ス制帽ヲ著スヘシ

但シ平常ノ場合ニ限リ夏期ニ於テハ徽章アル麥稈帽ヲ以テ制帽ニ代フルコトヲ得

第三條　集會其ノ他學生間ニテ催ス共同事件ハ豫メ學生監ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　學生ハ寮ノ內外ヲ問ハス非常ノ事アルトキハ凡テ學生監ノ指揮ニ從フヘシ

第五條　本館規則第六十七條第二號第三號ニ依リ外泊ヲ許可セラレタル學生ハ父兄ノ家ニ在ル者ノ外本館所定ノ禁止區域內ニ止宿スルコトヲ得ス但シ禁止區域ハ別ニ之ヲ定ム

第六條　外泊生轉宿シタルトキハ速ニ屆出ツヘシ

第七條　病氣其ノ他事故ノ爲メ缺席セントスルトキハ其事由ヲ具シ事前ニ屆出ツヘシ

第八條　引續キ三日以上缺席セントスルトキハ病氣ニ因ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ、事故ニ因ルモノハ保證人ノ證明書ヲ添フヘシ但シ診斷書ハ場合ニ依リ館醫ノ作爲シタルモノニ限ルコトアルヘシ

第九條　學生ヨリ差出ス願屆ハ總テ館長ニ宛テ學生監部ニ差出スヘシ

第十條　病氣其ノ他事故ノ爲メ歸省又ハ旅行セントスルトキハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ父兄ノ病氣等至急ヲ要スル場合ニ限リ電報又ハ來狀ヲ以テ保證人ノ連署ニ代フルコトヲ得

第十一條　前條ノ歸省旅行ニシテ一週間ニ亘ルトキハ本館ヨリ借用セル圖書物品ヲ返納スヘシ

第十二條　本館ノ圖書物品ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ其ノ情狀ノ如何ニ依リ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十三條　本館又ハ教務庶務學生監部ヨリ發スル命令規則等ノ揭示ハ特ニ注意シテ熟讀スヘシ

第十五　學生生徒喪暇規程

（大正四年七月一〇日
神宮皇學館訓令第三號）

第一條　學生生徒ノ父母、祖父母、兄弟姉妹妻子死亡シ服忌ヲ受クルトキハ直ニ届出ツヘシ

第二條　前條服忌ヲ受クル場合ニハ此ノ規定ニ依リ喪暇ヲ與フヘシ

第三條　父母ノ喪暇ハ五日祖父母兄弟姉妹妻子ノ喪暇ハ三日トス

第四條　喪暇ハ本人カ訃音ニ接シタル日ヨリ起算ス

第五條　喪暇中ハ本人ノ請願ニ依リ歸省又ハ外宿ヲ許可ス但シ此場合ニ於テハ往復ニ要スル日數ヲ喪暇ニ加算ス

第六條　葬式ノ當日ハ缺課セシム

第七條　喪暇中及葬式當日ハ缺課時數ニ算入セス

第十六　寄宿寮規則

（大正一一年四月八日神宮皇學館訓令第一號）

改正　昭和六年七月第二號、七年三月第二號、一〇年七月第一號

第一章　總則

第一條　寄宿寮ハ之ヲ精華寮ト稱ス

第二條　精華寮ヲ分チテ遵法、啓發、博愛、義勇、修學、相信、成德、濟美ノ八寮トシ全寮生ヲ之ニ分屬セシム

分屬ハ學生監部長之ヲ定ム

第三條　精華寮生ハ學生監指導ノ下ニ寮綱領及規約ヲ遵守シ自治生活ヲナス

第四條　寮綱領ハ精華寮訓育ノ方針ニシテ學館之ヲ定ム

第五條　寮規約ハ精華寮自治ノ方法ヲ規定スルモノニシテ寮生之ヲ發議シ學生監ヲ經テ館長ノ許可ヲ經ルモノトス

第二章　經費

第六條　左ニ揭クル費用ハ寮生ノ負擔トス

一食費　炊事ニ關スル費用（食料、食器具、炊事雜費）

一雜費　其他ノ自治生活ニ必要ナル費用（新聞、雜誌、圖書、集會、旅行、弔慰、旌表等）

前項ノ定額及費目ハ寮生總會ノ決議ニ依リ各別ニ之ヲ定ム

第七條　食費雜費ハ互ニ流用スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ寮生總會之ヲ決議シ學生監ヲ經テ館長ノ許可ヲ經ルモノトス

第八條　經費ハ學生監部ニ於テ之ヲ保管出納ス

第九條　經費ハ月納トシ前月末日迄ニ學生監決算書ヲ作製シ館長竝ニ寮生ニ報告

第十條　前條諸費ノ決算期ハ學年末トシ學

ス

第十一條　經費決算期ニ至リ剩餘アリタルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越シ不足セルトキハ現寮生ヨリ之ヲ決濟スルモノトス

第十二條　精華寮ハ負債ヲナスコトヲ得ス

第三章　委員

第十三條　精華寮ニ左ノ委員ヲ置ク

寮委員　若干名　　室委員　若干名

寮委員ノ任期ハ一學年トシ室委員ノ任期ハ一學期トス

第十四條　寮委員ハ全寮生ノ無記名連記投票ニ依リ毎年一月中ニ所要ノ人員ヲ互選シ約倍數ノ候補者ヲ得票順ニ依リテ推薦セシメ其ノ中ニ就キ館長之ヲ選擇任命ス

前項ノ選擧事務ハ學生監立會ノ下ニ寮委員之ヲ執行ス

寮委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ第一項ノ候補者ノ中寮委員ニ選任セラレタル者ヲ除ク他ノ候補者ノ中ヨリ館長新ニ之ヲ選擇任命ス

第十五條　寮委員ハ每學期始室生ノ互選ニ依リ學生監部長之ヲ命ス

室委員ハ每學期始室生ノ互選ニ依リ學生監部長之ヲ命ス

第十六條　館則ニ依リ懲罰ヲ受ケタルコトアル者ハ委員タルコトヲ得ス又委員就職

中懲罰ニ處セラレタルトキハ其職ヲ失フモノトス

第四章　會議

第十七條　會議ヲ分チテ協議會、寮委員會、寮生總會ノ三種トス

協議會ハ寮委員室委員ヲ以テ組織シ寮規約ノ制定改刪其他自治ニ關スル重要ナル事項ニ就キ決議ヲナシ又ハ建議ヲナスコトヲ得

寮委員會ハ寮內ノ自治整理ニ關スル事項ヲ決議シ又ハ學生監ノ諮問ニ答申スルモノトス

寮生總會ハ本則第六條第七條ニ規定セル事項ノ決議ヲナシ又ハ自治生活ニ關シ建議ヲナスコトヲ得

第十八條　協議會及寮委員會ハ寮委員ノ發議ニヨリ之ヲ開キ又ハ學生監部長ノ召集ニ應ス但室委員總員ノ半數以上ノ同意ヲ以テ協議會ノ開會ヲ請求スルコトヲ得

寮生總會ハ學生監部長之ヲ召集ス但シ寮生總員半數以上ノ同意ヲ以テ其開會ヲ請求スルコトヲ得

○奬學金

第一　恩賜奬學資金

一、明治四十四年五月　皇后陛下神宮御參拜ノ節、奬學ノ思召ヲ以テ金五百圓ヲ下賜ハル

二、大正四年七月　皇太子殿下神宮御參拜ノ節、奬學ノ思召ヲ以テ金參百圓ヲ下賜ハル

三、大正十一年十一月　皇后陛下本館ニ行啓ノ際、奬學ノ思召ヲ以テ金五百圓ヲ下賜ハル

●右御下賜金ハ恩賜奬學資金トシ其利子ヲ以テ毎年優良學生生徒ノ賞品費ニ充ツ

第二　上田萬年奬學金

大正四年文學博士上田萬年氏ヨリ學生奬學給費金トシテ向フ十ケ年間金五拾圓宛ノ寄贈ヲ受ク

●右金員ハ奬學費トシテ毎年優良學生ノ學資補給ニ充テ來タリシカ大正十三年度ヲ以テ全額支拂濟トナル

第三　御木本奬學資金

大正十一年一月三重縣志摩郡鳥羽町御木本幸吉氏ヨリ學生奬學ノ爲金壹萬圓ノ寄贈ヲ受ク

●右金員ハ御木本奬學資金トシ其利子ヲ以テ毎年優良學生ノ學資補給ニ充ツ

第四　官幣大社稻荷神社奬學金規程

第一條　本奬學金ハ官幣大社稻荷神社奬學金ト稱シ神宮皇學館本科及研究科竝國學院大學部高等師範部神道部及研究科ノ在學生ニシテ卒業後永ク神祇ノ祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シテ調査研究ヲ爲サントスル者ニ對シテ之ヲ給付ス

第二條　本規程第三條以下ニ神社ト稱スルハ官幣大社稻荷神社ヲ兩髙ト稱スルハ神宮皇學館及國學院大學ヲ指稱ス

第三條　本奬學金受給付者ハ兩髙ニ於テ品行方正思想堅實ニシテ學力優秀身體强健ナル學生ニ就キ兩髙各別ニ詮衡シ神社ノ同意ヲ經テ之ヲ選定スルモノトス

第四條　本奬學金ハ一名ニ付キ月額金四拾圓以内トシ同一人給付スル期間ハ三ケ年以内トス

第五條　本奨學金受給付者ヲ選定シタル時ハ兩鬘ハ本人ニ對シ連帶責任アル保證人ヲ立テシムルコトヲ要ス

第六條　奨學金トシテ神社ヨリ兩鬘ニ寄贈スヘキ金額ハ毎年度金參千圓以内トス

第七條　前條ノ奨學金ハ之ヲ兩鬘ニ折半シ毎半年度ノ始ニ於テ半額宛ヲ交付ス

第八條　神社ノ都合ニ依リ將來奨學金ヲ減額又ハ休止シ或ハ廢止スル場合アリトモ既ニ選定シタル受給付者ニ對シテハ卒業迄之ヲ給付ス

第九條　本奨學金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ毎學年終了後兩鬘ヨリ直ニ神社ニ報告ヲルモノトス

第十條　兩鬘研究科在學生ノ調査研究スヘキ題目ハ兩鬘ニ於テ豫メ神社ノ同意ヲ得テ決定シ其ノ成績ハ完了後本人ヨリ兩鬘ニ兩鬘ヨリ神社ニ報告スルモノトス

第十一條　兩鬘ハ本奨學金受給付者ヲ決定シタルトキハ成ルヘク受給付者ヲ受給付者卒業シタルトキハ必ス其ノ卒業者ヲシテ神社ニ參拜セシムルモノトス

第十二條　受給付者ニシテ不都合ノ廉アリタルトキハ兩鬘ハ神社ノ同意ヲ經テ相當ノ處分ヲ爲シ既給ノ奨學金ヲ返還セシムルモノトス但シ特別ノ事情アル者ハ兩鬘ニ於テ神社ノ同意ヲ經テ返還金ノ一部若クハ全部ヲ免除スルコトヲ得

第十三條　前條ノ返還金及預金利子又ハ剩餘金等ハ之ヲ次年度ニ繰越シ受給付者ノ旅費其ノ他必要ナル學費ニ支出スルコトヲ得

第十四條　本奨學金ニ關シ兩鬘ニ於テ給付規定其ノ他必要ナル内規等ヲ定メタルトキハ神社ニ報告スルモノトス

第十五條　兩鬘ニ於テ神社ニ對シ第三條第十條第十條ノ報告ヲナサス又ハ第五條第十一條等ノ規定ヲ履行セサルトキハ神社ハ其ノ鬘ニ對シ其ノ鬘ノ新ニ給付セントスル奨學金ノ寄贈ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第十六條　兩鬘ハ各本奨學金ノ給付ヲ受ケツヽアル者及其ノ業績ヲ了ヘタル者ヲ指導シテ奨學金受給付者相互ノ氣脈ヲ通シ親睦ヲ圖リ神恩報謝ノ誠意ヲ表スヘク團體ヲ設ケシムルモノトス兩鬘ハ前項ノ團體ニ對シ其ノ業績ヲ按シテ本奨學金又ハ第十三條ノ諸費中ヨリ補助ヲ交付スルコトヲ得

附　則

本則第六條ニ依リ神社ヨリ兩鬘ニ寄贈スヘキ昭和八年九年兩年度ノ金額ハ左ノ通トス

昭和八年度　金參千四百八拾圓
昭和九年度　金參千貳百四拾圓

本則第十六條ノ補助金ハ當分ノ内一鬘分年額六拾圓以内トス

本規程ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五　全國神職會教育補助金規程

第一條　本補助金ハ神宮皇學館本科研究科竝ニ國學院大學學部、高等師範部、神道部及研究科ニ在學セル學生ニシテ卒業後永ク祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シ調査研究ヲ爲サントスル者ニ對シテ給付ス

第二條　本補助金受給付者ハ神宮皇學館長、國學院大學長ニ於テ品行方正學術優秀ナル學生ニツキテ詮衡シ本會ニ移牒スルモノトス

第三條　本補助金ハ一名ニ付一ケ月金拾圓以内トス

第四條　本補助金ハ本會ノ都合ニヨリ減額又ハ停止スルコトアルヘシ

第五條　受給付者ニシテ不都合ノ廉アリタル時ハ大學又ハ學館ハ本補助金ノ給付ヲ停止又ハ變更スルコトアルヘシ

第六條　本補助金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ毎學年終了後大學及學館ヨリ本會ニ通知スルモノトス

第六　寄　附　金

大正十一年六月神宮皇學館館友會ヨリ本館改築記念トシテ神祇及國體ニ關スル研究ノ爲メ金五萬圓ノ寄贈ヲ受ク

●仍テ右金員ノ利子ヲ皇道宣傳ニ關スル費トシ目下左ノ事業ヲ行フ

一、神宮皇學館館友會ニ於ケル神社調査部（廣ク神社ニ關スル研究調査ヲナス）ニ補助金交付

昭和十一年十二月下關市大字長府町貝島太市氏ヨリ金五千圓ノ寄贈ヲ受ク

●仍テ右金員ノ利子ヲ神道研究ノ經費ニ充當シアリ

○出版圖書

書名	發行年月
光明寺殘篇	大正八年五月
伊勢國出版圖書展覽會目錄	同十年十一月
南北朝時代に於ける神宮祠官ノ勤王	同十五年三月
延喜式神名帳	昭和三年三月
伊勢參宮資料展覽會出品目錄	同年七月
神宮要綱（神宮司廳編纂）	同四年三月
勢陽論叢第一輯	同五年八月

時代推移の法則と現代の特徴	教授	鶴藤幾太
詩を中心とせる天人論	同	早川祐吉
定家の意見狀に就きて	同	木村春太郎
我國上代の漁業と文化	同	佐藤虎雄
ルーテルの中世的傾向	同	米田稔

夏季講習會講演集　昭和六年三月

現行法令上より見たる神社存立の意義に關する一考察

神道の新研究	教授	木村春太郎
中世の庶民文化	東京帝大史料編纂官	山本信哉
我が帝國の實相	京都帝大教授	三浦周行
	東京帝大教授	深作安文

夏期講習會講演集　昭和七年三月

鄉土史に於ける國賓及史蹟名勝に就いて	文部省囑託	荻野仲三郎
鄉土史		柳田國男
社會教育に就いて	文部省社會教育局長	關屋龍吉

神宮皇學館五十年史　昭和七年四月

神道資料展覽會目錄　同　年五月

夏期講習會講演集　同八年三月

余の神道研究と國體私觀	東京帝大助教授	加藤玄智
神宮と國體	教授	木村春太郎
神宮に關する史蹟概要		大西源一

六國史神祇索引　昭和八年三月

夏期講習會講演集　同九年三月

出版圖書

	皇道社會及皇道經濟	大阪商大教授	田崎仁義
	卜部神道と尊皇思想	教授	土田誠一
	神社建築に就いて		角南隆
同　別冊	神社有職		井上清
建武の中興と神宮祠官の勤王（神宮祠官勤王顯彰會編纂）		昭和十年三月	
南山遺芳		同	
夏期講習會講演集		同　十一年三月	
	儒學に於ける禮の本質		野口德太郎
	我國家の儀禮と皇道	教授	木村春太郎
	國民作法		甫守謹吾

○職員

第一職員

（昭和十三年六月末現在）

●館長	從四位勳三等 法學士	平田貫一	鹿兒島	
●教授				
國語	國文科主任 正五位勳五等 文學士	千田憲	京都	
修身	從五位勳五等	鈴木友吉	愛知	
國史、神道、法制	歷史科主任 從五位勳五等 文學士	西村爲之助	滋賀	
神道、法制、修身	正五位勳五等	木村春太郎	三重	
東洋史、史學概論	正五位勳五等 文學士	丹羽正義	愛知	
英語、文學概論	英語科主任 正六位勳六等 文學士	町田久一郎	東京	
漢文	正六位勳六等	鎌田春雄	大阪	
漢文	漢文科主任 正六位 文學士	早川祐吉	千葉	

職員第一職員

西洋史、英語
國語
國語
考古學、美術史
修身、英語、哲學、教育學、
神道、哲學
漢文
國史、神道、古文書學

●助教授

武道
神道

●學生監

正六位 文學士 米田稔 石川
正六位 文學士 伊藤正雄 大阪
從六位 文學士 酒井秀夫 愛知
教諭 佐藤虎雄
從六位 文學士 植村芳男 三重
正七位 近藤李三 三重
從六位 文學士 原田敏明 熊本
從七位 石村吉甫 東京
教授 鎌田春雄

正八位 雪竹皎 佐賀
池山聰助 三重

同 植村芳男
助教授 雪竹皎

●主事

●教諭

修身、神道、法制
有職
地理、西洋史
國語
體操、武道、理科
漢文、國語
祭式
數學、理科、作業科

職員第一職員

正六位 大島乙丸 長崎
教授 木村春太郎
從六位 文學士 佐藤虎雄 山形
從七位 來田親明 三重
從七位 坂上直士 鹿兒島
折尾國義 鹿兒島

書記 小深田盛隆

正八位 柘植佐次郎 愛知

職員　第一職員

神道、國史、東洋史、法制

● 生徒監

● 配屬將校

教練、普通科教練　歩兵第十六師團司令部附　陸軍歩兵中佐　從五位勳四等功四級　原　加壽男　神奈川

● 講師（囑託順）

神道、普通科神道　小深田盛隆　同

作歌、普通科國語、簿記　折尾國義　同

祭式、普通科祭式、禮式　教諭　坂上直士

武道　教練　應召中　岡田米夫　東京

神道、哲學、普通科神道、哲學　文學士　淺野明光　愛知

英語、法制、普通科英語、法制　法學士　新美忠之愛　知

● 書記

應召中

● 授業囑託

普通科教練　應召中

武道、普通科國語

雅樂　神宮伶人　檜山文一　三重

普通科雅樂　同　佐々木喜藏　三重

雅樂　同　横山末松　三重

職員　第一職員

從七位勳八等　小深田盛隆　大分

勳八等　北出鎭吉　三重

勳七等　河崎彌七　三重

陸軍歩兵准尉　勳八等　佐野英男　三重

岡本立木　福岡

上野佐太郎　三重

奥田一隆　三重

從四位勳五等　中西健郎　三重

從六位勳六等　金剛幸之助　三重

正七位勳七等　三東義邦　島根

勳八等　渡邊万治郎　三重

陸軍輜重兵少佐　正六位勳六等　越智昇平　愛媛

太田亮　大阪

職員 第一職員

普通科雅樂
雅樂
普通科雅樂

● 普通科授業囑託（囑託順）

圖畫　同　大道義之祐　三重
珠算　同　辻　隆　三重
英語、數學　同　上田久八　三重

● 雇

● 臨時雇

北村眞造	三重	川端光雄	三重
井上信行	三重	谷口秋三	三重
島田正郎	三重	朝井良平	三重
西井力松	三重		
奥野三郎	三重		

● 囑託

館醫　醫學士　服部正武　三重
衛生顧問　日本赤十字社三重支部山田病院長　正五位勳四等　醫學博士　小川勇愛媛

第二評議委員

（囑託順）

三上參次	正三位勳一等 文學博士	水野錬太郎	正三位勳一等 法學博士
塚本清治	從三位勳一等	森田實	正四位勳三等
高松四郎	正五位勳六等	兒玉九一	神社局長
伊東延吉	從四位勳三等		

第三　事務分課、學級擔任

●教務部

部長　教授　鈴木友吉
研究室主任　教授　伊藤正雄
書記　河崎彌七
講師　金剛幸之助
授業囑託　佐野英男
臨時雇　谷口秋三

●學生監部

部長　學生監　鎌田春雄
學生監　植村芳男
學生監雪　竹皎
講師　越智昇平
授業囑託　岡本立木

●圖書部

部長　教授　丹羽正義
教授　伊藤正雄
助教授　池山聰助
雇　西井力松
臨時雇　川端光雄
臨時雇　朝井良平

●庶務部

部長　物品會計員　教授　西村爲之助
收入員　書記　小深田盛隆
書記　北出鎭吉
書記　上野佐太郎
書記　奥田一隆
雇　奥野三郎

●普通科

○教務係
主事　大島乙丸

○生徒係
教諭　來田親明
授業囑託　島田正郎
生徒監　坂上直士
生徒監　折尾國義
生徒監　小深田盛隆
栢植佐次郎

●學級擔任

○本科
第四學年一組　早川教授
二組　米田教授
第三學年一組　酒井教授
二組　石村教授
第二學年一組　町田教授
二組　近藤教授
第一學年一組　伊藤教授
二組　丹羽教授

○普通科
第五學年　佐藤教諭
第四學年　新美講師
第三學年　岡田教諭
第二學年　島田囑託
第一學年　來田教諭

第四舊職員

●館長

摘要	氏名	就職年月	退職年月
退職	神宮祕宜　中田正朔	明二〇・四	明二三・八
同	神宮々司　鹿島則文	二三・八	三一・六
同	同　伯爵冷泉爲紀	三一・六	三六・八
退官	神宮少宮司　桑原芳樹	三六・八	四三・三
同	同　木野戸勝隆	四三・三	大二・九
同	武田千代三郎	大二・九	七・四
轉任	松浦寅三郎	七・五	八・二
退官	東京帝國大學教授文學博士　上田萬年	八・六	一五・三
同	森田實	一五・三	昭五・八

●職員（大正二年以降退官職名）

摘要	前官職	氏名	就職年月	退職年月
退官	教授	廣池千九郎	明四〇・六	大二・二
退職	講師	島瀨左右麿	明四二・三	二・三

同	宇仁新次郎	大二・三	二・六
退官	教授　岡田正	明三六・九	二・五
退職	講師　矢野太郎	大二・一	二・九
退官	教授　矢野萬太郎	明三六・一一	二・一〇
轉任	同　非上穎文	三六・一一	二・一一
同	同　橋村正璟	三八・二	三・二
退職	雇　庄田倍三	四五・六	三・五
退官	教授　尾崎八東	三二・一	三・八
轉任	書記　池田豐秀	四二・六	三・一〇
退職	講師　宮尾詮	四三・五	四・三
退官	教授　中西健郎	三三・六	四・四
退職	講師　山田岩次郎	三六・一一	四・四
退官	助教授　宇仁義一	三九・四	四・五
同	教授　矢島錦藏	三六・三	五・三
同	同　安藤正次	三七・九	五・三
轉任	授業囑託　松田長大	四一・一	五・三
同	教授　增子懷永	大二・一一	五・一〇

大三・四	六・三	退職	講師	川井運吉	七・一〇	同
明四五・九	六・四	轉任	助教授	阪東淺吉	六・四	同
四〇・一〇	六・四	退官	教授	深澤鎭吉	六・四	同
四四・一〇	六・四	同	助教授	大塚敬	九・四	同
大二・一〇	六・五	退職	講師	置鹽藤四郎	七・四	同
明三六・一二	六・八	退官	助教授	磯部百三	七・八	同
大五・一〇	六・八	轉任	教授	次田潤	二・四	同
五・五	六・一一	退職	雅樂授業囑託	濱口爲三	七・六	同
三・五	七・六	同	授業囑託	黑田由治郎	七・八	同
二・四	七・八	同	同	羽鳥光四郎	七・一一	同
七・六	七・一一	同	同	八重口晉吉	七・一一	同
二・九	八・九	死亡	評議委員	井上友一	八・一一	同
三・八	八・一一	退官	教授	入澤宗壽	九・四	同
四・一一	九・四	同	同	佐藤正人	九・四	同
六・四	九・四	同	同	本田成之	九・四	同
七・一〇	九・四	同	助教授	栗原民雄	九・四	同

六・七	九・四	同	教授	井上以智爲	一〇・四	同
明三七・九	一〇・四	同	同	湯淺廉孫	一〇・四	同
大八・一二	一〇・四	退職	館醫	橋上亘	一〇・四	同
明三六・一一	一〇・四	同	講師	松本愛重	一〇・七	同
大九・四	一〇・七	同	同	谷眞心	一〇・八	同
九・九	一〇・八	同	同	額賀大直	一〇・九	同
六・一一	一〇・九	同	同	齋藤坦藏	一一・二	同
六・九	一一・二	同	雅樂授業囑託	高橋米次郎	一一・四	同
大九・四	一一・四	轉任	書記	岡田幸右衛門	一一・七	同
一一・二	一一・七	退官	教授	丹羽正義	一一・七	同
明三九・八	一一・二	轉任	授業囑託	井上香木	一二・三	同
大九・四	一一・四	退職	助教授	尾崎伊助	一一・一〇	同
九・四	一一・七	退官	學生監部事務員囑託	藤田菊松	一一・一〇	同
七・一一	一一・七	退職	講師	內藤雋輔	一二・四	同
一一・四	一一・九	同	學生監部事務員囑託	小川地喜俊	一二・四	同
一一・一〇	一二・三	同	講師	槌賀安平	一二・四	同
一〇・四	一二・四	同	同	石川正	一二・四	同

九・四	同	德江治之助	一二・四	同	同
一二・三	同	神宮文庫書記	一二・一一	同	同
一〇・四	同	講師	濱田常成	一三・三	同	同
一二・四	同	同	仙波光三	一三・三	同	同
一二・四	同	同	山田八重治	一三・三	同	同
一二・四	同	同	樋山良廣	一三・八	同	同
一二・五	同	同	野島勝七	一三・一二	同	同
三・八	退官	教授	竹島寬	一三・一二	同	同
一〇・九	退職	講師	井桁貞男	一四・一	同	同
九・五	退官	教授	礒部精一	一四・四	同	同
一四・一	退職	神宮文庫雇	大宿新	一四・六	同	同
八・一二	轉任	教授	久保川平三郎	一四・九	同	同
一四・六	退職	神宮文庫雇	山崎隆平	一四・一一	同	同
二六・三	死亡	講師	伊藤丈吉	一四・一二	同	同
一五・三	同	同	坪内孝	一五・一一	同	同
一四・一一	退職	神宮文庫雇	一丁田國藏	昭二・二	同	同
一五・一〇	同	臨時講師	北西鶴太郎	二・三	同	同

一二・四	同	學生監部事務員囑託	小川稠吉	二・三	同	同
五・五	退官	教授	鈴木暢幸	二・五	同	同
一〇・四	退職	館醫	服部正文	二・八	同	同
昭二・四	死亡	教諭	宇仁義一	二・一〇	同	同
二・四	退官	助教授兼教諭	川本重善	二・一一	同	同
二・四	退職	普通科授業囑託	高島裕	三・三	同	同
二・五	轉任	教諭兼助教授	福山芳藏	三・三	同	同
大六・四	退職	講師	春木保吉	三・三	同	同
八・三	同	同	大川眞澄	三・三	同	同
昭二・三	同	同	中島唯一	三・三	同	同
大一一・九	同	授業囑託	笠井鐵雄	三・四	同	同
一三・三	同	神宮文庫書記	鈴木重道	三・五	同	同
一二・七	同	神宮文庫雇	酒德勉	三・五	同	同
昭二・五	死亡	普通科事務員囑託	宮崎岩男	三・五	同	同
大一四・八	免服務	配屬將校陸軍步兵中佐	關家清	三・八	同	同
昭三・六	死亡	神宮文庫雇	八木信一	三・一一	同	同
二・八	退職	館醫	松井貞三	四・四	同	同

大一四・一一	四・五	死亡	講師	牧野純一	三・五
昭三・一〇	四・八	退職	神宮文庫書記	松井辰雄	三・五
三・五	四・九	同	講師	平野直大	三・五
大四・三	四・一二	死亡	同	青戸波江	三・五
昭四・三	五・一	退職	神宮文庫雇	山碕齊	三・五
大一〇・四	五・二	死亡	教授	松平良郎	三・五
昭五・一	五・三	同	臨時講師	松村幾平	三・五
二・四	五・四	退職	講師	黒住正夫	三・五
明三六・一一	五・八	退官	館長兼教授	森田實	三・五
大二・九	五・一二	退職	評議委員	田所美治	三・五
二・九	五・一二	同	同	松本愛重	三・五
昭二・五	六・二	同	學生監部事務員囑託	福井むめ	三・五
大一一・二	六・三	同	雇	高山喜夫	三・五
九・四	六・三	退官	教授	石井鹿之助	三・五
一三・八	六・三	退職	講師	世良靜一	三・五
昭三・四	六・三	同	普通科授業囑託	土屋忠	三・五
三・五	六・三	同	同	大崎太藏	三・五

二・四	六・三	退官	教諭	中田孝次	三・五
二・四	六・三	同	同	今井重信	三・五
五・三	六・四	退職	神宮文庫雇	弓場史郎	三・五
大一五・一一	六・四	死亡	雇	宇城源三郎	三・五
明四二・一〇	六・五	退官	書記	片岡小次郎	三・五
昭三・八	六・七	免服務	配屬將校陸軍歩兵中佐	松本賢六郎	三・五
五・一二	六・九	退職	評議委員	池田清	三・五
三・四	六・九	退職	授業囑託	清海義一	三・五
六・九	七・一	死亡	教授	三上左明	三・五
六・四	七・一	退職	神宮文庫雇	金剛正夫	三・五
六・六	七・一	同	研究室助手	上島藤成	三・五
七・四	七・二	同	雇	外山豐文	三・五
六・七	七・三	同	臨時營繕事務囑託	繁野繁造	三・五
四・一	七・四	同	營繕事務囑託	青木信嘉	三・五
四・一	七・四	同	同	西井悦治郎	三・五
五・一二	七・七	同	評議委員	中川健藏	三・五
七・四	七・七	同	普通科授業囑託	永草實	三・五

	六・八	七・八	免服務	配屬將校陸軍步兵中佐	結城信治
大	六・一一	七・九	退職	雅樂授業囑託	岡田良三
	六・一一	七・九	同	同	細野鐵太郎
昭	六・一〇	七・一〇	同	授業囑託	吉岡巖
	三・一一	七・一一	死亡	教授	竹島寬
	七・八	八・三	免服務	配屬將校陸軍步兵中佐	五十嵐万次郎
	五・一二	八・三	退職	營繕事務囑託	鹽野庄四郎
	七・九	八・四	同	臨時雇	佐竹純耳
	六・三	八・六	轉任	教諭	高原美忠
大	七・六	八・八	退職	講師	永田癸三郎
昭	七・四	八・九	同	雇	牧野德一
	七・八	九・八	免服務	配屬將校陸軍步兵中佐	伊藤正夫
大	一四・一〇	九・一〇	退官	教授	若山善三郎
昭	六・八	九・一二	退職	臨時營繕事務囑託	田米正治
	六・九	一〇・一	同	評議委員	石田馨
	六・八	一〇・三	同	臨時營繕事務囑託	若林杉次
	八・一二	一一・五	同	雇	泉侃造

大	一四・一一	一一・八	退官	教授	鶴藤幾太
昭	八・六	一一・八	轉任	教諭	菅貞好
	八・四	一一・一一	同	教授	鳥羽正雄
	七・一一	一二・三	退職	授業囑託	八尾春一
	一一・七	一二・六	同	雇	山本正二
	六・三	一二・八	退官	教授	土田誠一
大	一二・一	一二・九	轉任	教授	小野田萬壽
	一五・四	一二・一〇	死亡	評議委員	上田萬年
昭	一二・四	一三・四	退職	授業囑託	鈴木拙知
	六・三	一三・四	退官	教諭兼教授	杉虎之助

○學生生徒氏名

摘要　特――特待生
稻――官幣大社稻荷神社奬學金受給付者
委――精華寮委員
全――全國神職會教育補助金受給付者　ノ略

五十音順　（昭和十三年六月一日現在）

第一本科生

第四學年

神道實習及演習履修者

氏名	本籍	出身學校
池田　武夫	（香川）	札幌二中
伊地知親雄	（鹿兒島）	全
岡村　勇	（三重）	杵築中
小川重光	（大分）	特
亀田　信章	（北海道）	帝都商
財前　正臣	（大分）	全
鈴木　亀雄	（東京）	鶴岡中
橋　健	（山形）	京都二中
棚橋　信文	（京都）	全
千葉　利正	（千葉）	富田中
畝傍　晴男	（石川）	長谷中
京華　恒雄	（愛知）	原田中
豊中　左門	（大阪）	藤井中

第一選修科目履修者

石川　正典	（福岡）	旭川中
石田　雄	（群馬）	水戸中
岩田　久郎	（三重）	小倉中
臼井　晃	（北海道）	茨木中
梅崎　節藏	（佐賀）	勵精中
瓜生　浩	（福岡）	川內中
岡市　正	（大阪）	志太中
小田　楠吏	（三重）	北野中
木場　貞治	（鹿兒島）	彦根中
東　隆	（鹿兒島）	大野中
實來　正巳	（大阪）	瀧川中
宮內　勇	（愛媛）	半田中
宮本　正彥	（長野）	第一鹿兒島中
八木　勝	（兵庫）	北野中
吉富　茂	（山口）	松山中
伸田　義正	（靜岡）	松本中
西川　元泰	（東京）	吳二中
春名　壽夫	（兵庫）	宇部中
東　嗣	（長崎）	海星中
平泉威雄	（宮城）	普通科（二組）（副組長）稻委全
佐藤　三男	（新潟）	甲陽中
鈴居　眞弓	（熊本）	三池中
鈴鹿　千秋	（岡山）	福山誠之館中
竹中　勝	（長野）	伊那中
谷　房穗	（廣島）	忠海中
谷垣　純弘	（奈良）	奈良中
田村　晟	（靜岡）	三池中
寺田　茂太	（大阪）	福山誠之館中
德永　正俊	（滋賀）	伊那中
南部　令一	（福井）	忠海中
西川　光男	（兵庫）	奈良中
橋本　昌幸	（大阪）	津中
須川　隆一	（三重）	津中

第二選修科目履修者

穴井　皐京	（大分）	本館普通科
有賀陽一郎	（山梨）	浦和中
石王　敏治	（滋賀）	水口中
石幡　要	（福島）	清洲公立高普
岡　平宣	（兵庫）	本館普通科
小堀　三朗	（栃木）	本館普通科
齋藤　巖	（茨城）	浦和中
敷田　年博	（大阪）	水口中
中條　正明	（德島）	清洲公立高普
富尾　和馬	（三重）	本館普通科

第三學年

神道實習及演習履修者

宇都宮中		
水戸中		
茨木中		
撫養中		
宇治山田中		

生野中　藤江　正康（大阪）
市岡中　堀井　周行（大阪）
臭港中　特　本田　智茂（廣島）

第一選修科目履修者

松本中　委　飯沼　若水（長野）
濱松第一中　特　石塚　一石（靜岡）
宇治山田中　磯部　重孝（山口）
龍山中　委　宇宿　豊英（鹿兒島）
興讓館中　馬越　駛（岡山）
小田原中　大川　傳（栃木）
七尾中　大森　重憲（富山）
三國中　岡部　直裕（福井）
伊那中（一組級長）　委　小田切義人（長野）
鳳鳴中　雄山　廣文（兵庫）
小田原中　禿　芳雄（神奈川）
安東中　古賀　武夫（佐賀）

津中
明倫中
京都一中（二組級長）委

米谷豊之祐（奈良）
小山　元（靜岡）
椎野　正二（新潟）
白岩　隆（岡山）
白江　信朋（大阪）
清野　幸雄（青森）
高橋　佑吉（靜岡）
竹田　正丹（廣島）
塚越　生武（群馬）
次田　肇（岡山）
中村　武文（福岡）
中山　正彦（香川）

宇陀中
濱松一中
相川中
第二神戸中
本館普通科
東奥義塾
見付中
尾道中
九州學院
本館普通科
田川中
大川中

馬瀨　卓夫（三重）
三谷　芳三（愛知）
六人部　篤（京都）

鳳鳴中　全　森本陸三郎（兵庫）
福岡中　矢口　佳夫（長野）

高知城東中　西村　豊明（高知）
大分中　泥谷　信男（大分）
本館普通科　特全委　藤枝弘文（北海道）
今治中（一組級長）委　別府　巽（愛媛）
濱松一中　本多　恒夫（靜岡）
脇町中　委　眞鍋　利雄（德島）
宇治山田中　光田　實（三重）
耐久中　三ツ村健吉（和歌山）
出水中　村山　金夫（鹿兒島）
耐久中　森三男三郎（和歌山）
鳥取二中　吉田　泰久（鳥取）

第二選修科目履修者

宮崎中　井野　正（宮崎）
小野中　小林　匡（兵庫）

熱田中
今治中

西村　尙明（滋賀）
松木　達雄（愛媛）

第二學年

神道實習及演習履修者

秋田中　龜井　宥輝（秋田）
廣島一中　河本　和昌（廣島）
宮津中　神崎　隆德（京都）
熱田中　菊田　茂好（愛知）
鳳中　久米　一雄（鹿兒島）
宇治山田中　幸崎（コウサキ）　重福（三重）

嘉穗中
富岡中
礪波中　特全
豊橋中
本館普通科
本館普通科

白土　正英（福岡）
神道（シンドウ）　登（群馬）
中川　武雄（富山）
中西　守（愛知）
並木　義文（千葉）
西村　敏夫（三重）

海草中
崇德中（二組級長）
本館普通科
村上中
廣島二中

古川　眞澄（三重）
村上　幸彦（廣島）
山本　行齊（三重）
脇田　良平（新潟）
渡邊　直臣（廣島）

第一選修科目履修者

臺北一中　新井　賢藏（埼玉）
本館普通科　石岡　俊毅（兵庫）
八女中　一ノ瀨和雄（福岡）

越智中（一組級長）
新潟中
金光中

內田　公忠（愛媛）
江口　久（新潟）
岡田　安彥（廣島）

多度津中
明善校
朝倉中

金關　一夫（香川）
清松　久登（福岡）
坂本　惟義（熊本）

嘉穗中　酒見　重行（福岡）
東京市立二中（一組副級長）特　佐藤　重成（東京）
伊那中　澁谷　素男（長野）
市岡中　島田　隆（大阪）
岡崎中　杉浦佐加男（愛知）
岐阜中　鈴木　正（茨城）
姫路中　土井　克巳（兵庫）
靜岡中　戸塚　廣吉（靜岡）

第二選修科目履修者

本館普通科（二組副級長）足立　信治（大阪）
神戸二中　置鹽（オキ）義治（兵庫）
今宮中　片山　太郎（大阪）
明石中　久保川　清（山梨）
三次中　杉原　文人（廣島）

第一學年

粉河中
氣仙沼中
宇佐中
池田中　特
今宮中
仙臺一中
東海中
新宮中

中尾　幹夫（和歌山）
中島　嵩（岩手）
中園　道三（大分）
仁尾　正（德島）
花畑彌平治（大阪）
古川　英二（德島）
前川　鋼（愛知）
前川　夏彦（三重）

天王寺中
秩父農林
金澤二中
大津中
倉吉中
本館普通科

三河尻恭一（大分）
宮崎源一郎（埼玉）
本林　勝夫（石川）
山邊　尚道（熊本）
渡邊　公彥（鳥取）
渡邊　吉胤（岡山）

陶山　徹（鳥取）
園崎　善一（石川）
曾原　吉久（石川）
嶽山（タケヤマ）芳樹（滋賀）
田代　雄藏（佐賀）

丸龜中
掛川中
八幡中
松山中
福岡中

中尾　亮（香川）
中村　庸一（靜岡）
則松　哲夫（福岡）
八原（ヤハラ）昌元（愛媛）
山川　道治（三重）

富田林中　青木　稔（大阪）
三國中　穴田　一郎（福井）
第二中　阿留多伎弘（東京）
金澤第二中　池上　啓成（石川）
秋田中　石澤　久英（秋田）
鳳中　石田　明（大阪）
群山公立中　上野　元德（福島）
米子中　遠藤　道丸（鳥取）
彦根中　大壽賀良友（滋賀）
第一神戸中　太田　文夫（兵庫）
大島中　大山　宏（鹿兒島）
三國中　奥野　十郎（福井）
濱田中　小倉岡們秋（東京）
浦和中　長田（オサダ）泰彥（山梨）
豐橋第二中　小田嶋英夫（千葉）
本館普通科　小野　迪夫（樺太）

明倫中　算　香（愛知）
福山誠之館中　金原　行道（廣島）
本館普通科（一組副級長）全　金山儔美（岐阜）
今宮中　川俣　道雄（大阪）
甲府中　上條　馨（山梨）
本館普通科　龜井　千秋（福岡）
新潟中　唐澤治一郎（新潟）
宇治山田中　北出　敬（三重）
新竹中　北村　孝（三重）
宇都宮中　木立（キダチ）英世（栃木）
市岡中　木村　宏（愛媛）
磐城中　小林　晃（福井）
長野中　小林計一郎（長野）
本館普通科（一組級長）　小松　行好（京都）
能代中　坂本　武彥（秋田）
見付中　佐藤　正三（靜岡）

上野中　澤村　武雄（三重）
豐橋第二中　杉田　正敏（愛知）
鞍手中（二組級長）　瀨里　廣明（福岡）
瓊浦中　高比良義峰（長崎）
天王寺中　竹内太眞雄（大阪）
第二中　田尻　敏郎（鹿兒島）
第二商　田中　清一（京都）
今治中　壺內　久俊（愛媛）
沼田中　富澤　正元（群馬）
第二鹿兒島中　重孝（トリタマリ）鳥集（鹿兒島）
村上中　中村　健樹（新潟）
上宮中　中村　正男（大阪）
長崎中　中村　良民（長崎）
豐津中　永井　敬員（福岡）
能本中　長野　惟英（熊本）
天理中　仁興（ニブヨ）倫夫（奈良）

筑紫中　西高辻信貞（福岡）
富田林中　野村　豊（大阪）
今宮中　長谷川芳雄（大阪）
姫路中　林　道一（兵庫）
鞍手中　風呂（フロ）嘉博（廣島）
本館普通科　前田　孝哉（石川）

佐原中　増田　家淳（千葉）
本館普通科（二組兩級長）　三上　重幸（廣島）
岩國中　光永　憲三（山口）
忠海中　三宅　孝之（廣島）
畝傍中　森井　光一（滋賀）
京都第三中　矢野　徹郎（愛媛）

金澤第一中　山上　治夫（石川）
一關中　山平（ヤマヲビラ）　拓（岩手）
田邊中　山本　裕信（和歌山）
第一中　行友　輝麿（廣島）
鳳中　吉田　醇一（大阪）
豊橋中　渡邊　武（愛知）

第二普通科生

第五學年

阿部　重宏（福島）
池龜　得壽（東京）
石川　忠良（群馬）
石垣　弘（三重）
石塚　源一（滋賀）
石原　榮（千葉）

江本　滋（京都）
大神　俊文（福島）
小野　昌彦（大分）
小山田　昌光（山形）
神田　成治（兵庫）
神原　良甫（岡山）

北島　孝男（島根）
木山　照道（鳥取）
串崎　正喬（島根）
榊原　薫平（愛知）
櫻木　清弼（大分）
杉山　吉快（三重）

遠山　義國（香川）
中岡　三郎（三重）
樋口　博麿（三重）
森永　尚義（福井）
山室　章（宮崎）
湯淺　秀雄（鳥取）

横川　初男（長崎）
吉井　良朋（兵庫）
若宮　朋納（富山）

第四學年

池本　修之（鳥取）
磯部　重正（山口）
稻垣　豊久（德島）
岩本　眞（島根）
東川　宗弘（奈良）

小谷　英夫（福井）
小野　隆雄（福岡）
小幡　三郎（鹿兒島）
王子野　重敏（鹿兒島）
大引　一男（大阪）

神田　德夫（三重）
久保　良任（三重）
佐藤　茂樹（奈良）
柴田　直明（北海道）
高山　伊豆彦（長野）

田畑　美穗（三重）
時田　謙祐（千葉）
中川　正成（岡山）
西原　文彥（廣島）
林　久守（三重）

藤田　良治（奈良）
古川　豊（佐賀）
前田　嘉造（福井）
宮崎　康定（香川）

第三學年

安倍　健一（岩手）
安部　素生（兵庫）
伊原　守正（千葉）
太田　公介（愛知）
大握　敬（香川）

大村　泰資（三重）
長田　寬（奈良）
梶畑　喜一（和歌山）
齋木　銳勝（島根）
賀陽　改造（岡山）

高島　正圭（福井）
高塚　育昌（岡山）
武浪　嗣一（滋賀）
土屋　正治（山梨）
富永　則之（廣島）

永岡　茂生（三重）
中村　民樹（滋賀）
難波　宗朋（岡山）
引原　信雄（奈良）
福山　太郎（滋賀）

矢田　俊秀（長野）
山田　玄蕃（岡山）
横谷　英六（三重）
吉田平三郎（靜岡）

第二學年

有光　敏明（福岡）
石川　周澄（三重）
石黒　幸夫（三重）
井原　勳（和歌山）
上原　善太郎（福井）

岡野　弘彦（三重）　春日　昂郎（滋賀）　岸本　素信（大阪）　塘月　直巳（大分）　野口　嵩（岐阜）
太田黒　靖國（熊本）　片山　睦（靜岡）　金德　泳（朝鮮）　反橋　肇（北海道）　村上　卓（岡山）
大村　重臣（福岡）　勝矢　重昌（三重）　兒玉　嘉清（宮崎）　圖師　禮三（滋賀）　渡邊　晃夫（三重）
甲斐　隆美（宮崎）　河本　忠澄（山口）　佐伯　靜正（愛媛）　中田　八東（高知）

第一學年

淺井　達夫（愛知）　大畠　尙武（石川）　佐藤　鎭郎（宮崎）　中村　瑞穗（北海道）　增井　佳夫（滋賀）
有田　博文（山口）　神成　禎禧（秋田）　柴田　固成（山口）　西原　勇雄（愛媛）　松岡　秋夫（京都）
礒部　堅石（廣島）　龜田　正雄（滋賀）　津江　孝夫（大阪）　橋本　光博（大阪）
伊藤　榮（三重）　久保　盛聰（愛媛）　手塚　愼（栃木）　服部　秀夫（愛知）
稻住　佳生（三重）　鄉谷　直毘（山口）　內藤　豊秋（兵庫）　林　正清（山口）
內保　保（三重）　首　弘人（岡山）　永田　良保（宮崎）　本田　行寬（長崎）

○卒業者氏名　五十音順（昭和十三年六月現在）

摘要　高普教員ハ高等普通學校教員、中教諭ハ中學校教諭、農教諭ハ農學校教諭、高女教諭ハ高等女學校教諭、小訓導ハ尋常高等小學校訓導、青校ハ青年學校ノ略、其ノ他之ニ準ス
×印ハ死亡者

第一本科卒業者（一、二五三人）

○第一回　明治二十三年五月（二人）

名古屋市若宮八幡社々司　泉館家理（三重）
神宮皇學館講師　中西健郎（同）

○第二回　明治二十五年四月（六人）

宇治山田市　實業　礒部次郎（三重）
礒部百三（同）
× 大北芳太郎（同）
× 辻村梅太郎（同）
農業　西岡敏助（三重）（舊名敏輔）
愛知縣社會事業協會　八羽七五郎（三重）
津島共存園書記
中央大學教授　豫科長　森田實（同）

○第三回　明治二十六年四月（六人）

× 淺野繁麿（三重）
× 甘泉精三（同）
井上香木（愛知）
× 藤田友次郎（三重）
× 松田長大（同）

卒業者氏名　第一本科卒業者

○第四回　明治二十八年四月（二人）

官幣大社朝鮮神宮々司　阿知和安彦（愛　知）
×鹿島敏夫（茨　城）舊姓田中

○第五回　明治二十九年三月（三人）

×石川勝三（三　重）
×中西弘滿（同　）
三重縣二見興玉神社々掌　森幹三郎（同　）

○第六回　明治三十年四月（三人）

岡龜次郎（三　重）舊姓中村
×館信磨（三　重）
廣島縣進德高女教諭　福屋基千代（島　根）

○第七回　明治三十一年三月（九人）

臺北帝大教授　安藤正次（東　京）
×宇仁義一（三　重）
長崎市　商業　大塚運象（熊　本）
×栢原昌三（三　重）舊姓松本
×木庭信喜（熊　本）舊姓宗村
×近藤弘代（三　重）
×澤田米吉（同　）
官幣大社札幌神社宮司　高松四郎（福　島）
國幣小社龍頭山神社宮司　山川鵜市（靜　岡）

○第八回　明治三十二年三月（五人）

神宮皇學館講師　金剛幸之助（三　重）
×坂倉廣胖（同　）
×檜垣恒之（同　）
×三浦千畝（山　形）
福岡縣々社八幡宮社司　安元久雄（福　岡）

○第九回　明治三十三年四月（三人）

×小串重威（三　重）

×齋藤傳左衛門（青　森）
×平野直晃（三　重）

○第十回　明治三十四年三月（二人）

官幣大社月山神社宮司　遠山正雄（香　川）
官幣大社熱田神宮々司　長谷外余男（石　川）

○第十一回　明治三十五年三月（四人）

宮崎縣立宮崎農教諭　伊東增衛（宮　崎）
×小野藤彦（大　阪）
×河村政吉（三　重）
官幣大社住吉神社宮司　額賀大直（千　葉）

○第十二回　明治三十六年四月（三人）

×葦津洗造（福　岡）
津市縣社八幡神社々司　石上清治（三　重）
官幣大社樺太神社宮司　吉野直人（長　崎）

卒業者氏名　第一本科卒業者

○第十三回　明治三十七年四月（十三人）

×秋山鼎造（香　川）
×伊藤千可良（兵　庫）
東京市高等女學校長協會主事　奥村奥右衛門（滋　賀）
仮谷完（廣　島）舊姓大林
奈良市　商業　島瀨左右磨（奈　良）
×高根政次郎（大　阪）
平部直（宮　崎）
千葉縣東洋中教諭　水島川猪助（千　葉）舊姓關谷
岩手縣立花卷高女教諭　宮内茂一（山　形）
×宮尾詮（福　岡）
官幣大社賀茂別雷神社宮司　矢野慥（愛　媛）
農業　藪重吉（大　阪）
吉竹與吉（福　岡）

○第十四回　明治三十八年三月（十一人）

泉川祐市（香　川）

× 川勝修治（兵庫）
内務省考證官　阪本廣太郎（奈良）
白井金太郎（香川舊姓三好）
千田英太郎（福岡）
東京外語講師　友枝照雄（福岡）
× 春木武豊（熊本）
藤田龜三（京都）
兵庫縣增谷高女校長　松永卓（岡山）
京都市立第二商業教諭　湯淺長次（大阪舊姓樋口）
宇和島市縣社八幡神社々司　渡邊昇（愛媛）

○第十五回　明治三十九年三月（十二人）

紀伊無盡會社田邊支店長　赤井謙（和歌山）
× 川崎重興（廣島）
× 神吉道治（福岡）
京都市立第一商業教諭　岸尾義雄（奈良舊姓東舊姓小深田）
大分縣鄉社武多祁神社々司　須麿長信（大分舊姓）

○第十六回　明治四十年三月（十五人）

大崎太藏（三重）
× 大槻弘毅（熊本）
廣島縣立府中中校長　荻原五藏（福岡）
× 神谷哲太郎（三重）
神職　龜井眞澄（新潟）
官幣大社大神神社禰託　桐山平太郎（奈良舊姓廣橋）
大分縣鄉社住吉神社々司　佐藤馨（大分）
滿洲國撫順神社神職　佐藤種德（山形）
宇治山田市村社河邊七種神社々掌　多氣房次郎（三重）
× 筒井健（長崎）
× 野田諒（宮崎）
大分市岩田高女教諭　狹間俊雄（大分）
× 兵頭柳次郎（愛媛）
× 平野政次郎（奈良舊姓東野）
京都府立京都一中教諭　山本正一郎（京都）

○第十七回　明治四十一年三月（十八人）

奈良縣立磯城農教諭　末本敏一（山口）
大阪市女子商業教員　高橋恭介（兵庫）
× 中村篤胤（大阪）
熊本縣中央高女教員　中村一衛（熊本）
× 福本彌吉郎（德島）
東京市攻玉社中教員　本間健治（宮城）
× 松永益次（靜岡）
× 上村加久治（福岡）
大國雅二（三重舊姓野溝）
大分縣立宇佐中教諭　小野健市（大分）
國幣小社沼名前神社宮司　金原利道（廣島）
官幣大社賀茂御祖神社宮司　神尾清澄（滋賀）
× 重本官治（福岡）
石川縣縣社能登部神社々司　清水一布（石川）
佐賀縣女子師範校長　白井敏輔（佐賀）

○第十八回　明治四十二年三月（十九人）

山梨縣立甲府高女教諭　赤岡重樹（山梨）
秋吉三郎（福岡舊姓筒井）
國史普及會史蹟踏査會長
大谷大學國史科講師　栗野秀穗（宮城）
× 壹岐秀雄（福岡）
岡山縣立順正高女教諭　內田隆正（岡山）
三重縣上野商業囑託　杉浦信造（愛知）
杉生薰（三重）
× 平川清水（熊本）
岡山縣村社福頼神社々掌　福武周夫（岡山）
堀部譽松（岐阜）
官幣大社日吉神社宮司　滿井成吉（大阪舊姓宮脇）
× 宮部誠一（岐阜）
國幣大社多度神社宮司　三好筆太（島根）
大分縣立國東中校長　本重且二（大分舊姓元重）
愛知縣豐橋中教諭　森田三郎（愛知）

長田眞幸（宮城）
官幣大社大神神社宮司　加藤七郎（愛知）
秋田縣立秋田高女校長　坂本定德（秋田）
石川縣縣社松任金劒神社々司高畠信二（石川）
別格官幣社靖國神社權宮司　高原正作（福井）
小倉市常磐中教員　田代三郎（福岡）
神宮禰宜　富尾兵馬（德島）
國幣中社眞清田神社宮司　中林善雄（奈良）
京都市京都淑女高女教諭　成田豊次郎（兵庫）
名古屋市椙山女子專門附屬高女教員　西村芳藏（三重）
福岡縣小倉商業教諭　本鄉雅治（福岡）
和歌山縣立海南中囑託　前野孝治（奈良）
國幣中社出石神社宮司　松島淺之助（和歌山）
名古屋市立第二高女校長　渡邊興衛（靜岡）

○第十九回　明治四十三年三月（二十八人）

官幣中社嚴島神社宮司　足立達（島根）
太田亮（大阪）
大日方退藏（福岡）
小澤市藏（三重）（舊姓酒井）
河野永郎（愛媛）
佐藤忠三（三重）
柴田節三（愛媛）
鈴木友吉（愛知）
諏訪幸藏（香川）（舊姓福家）
竹本仁平（愛知）（舊姓磯野）
×長鄉榮治（福島）
長東有鄰（香川）
並木清太郎（千葉）
×二宮正興（富山）
古川左京（德島）
×三村漸（香川）
×宮原豐四郎（宮崎）
森岡俊三（愛知）

立命館大學教授
神宮皇學館講師
小倉市常磐中教員
三重縣立富田中教諭
東洋紡績株式會社々員
愛媛縣山下高女教員
神宮皇學館教授
廣島市崇德中教員
栃木縣立栃木高女教諭
臺南市縣社嘉義神社々司
福岡縣立嘉穗中教諭

×山本謙三（三重）
×横山正則（高知）

○第二十回　明治四十四年三月（廿二人）

×秋元視之（宮崎）
石川守雄（福岡）
今泉一雄（奈良）
置塩敬作（兵庫）
小田猪一郎（香川）
×鍵原信一（愛知）
笠井眞次郎（三重）
河井吉太郎（三重）
鎌田春雄（大阪）
喜久男（大分）
×栗本八郎（三重）
信田顯（愛媛）
杉浦佐助（愛知）（舊姓金子）

官幣中社嚴島神社宮司
熊本縣國學院教諭
名古屋市東海中教員
兵庫縣立第一神戸商業教諭
神宮皇學館教授
別府市鄉社八幡朝見神社々司
大分縣立中津中教諭
岡崎市立商業教諭

×中尾眞（愛媛）
中村政藏（三重）
野坂元定（廣島）
林正木（大分）
堀田房次郎（愛知）
井亦三（三重）
松村茂（靜岡）（舊姓川合）
千葉縣鄉社八劍八幡神社々司八劍功（千葉）
×山口清（新潟）

津市官祭招魂社
官幣中社嚴島神社禰宜
大分縣宇佐郡龍王村神職
官幣中社八代宮々司
帝國生命保險神都代理店主任
靜岡縣々社府八幡宮社司
千葉縣鄉社八劍八幡神社々司

○第廿一回　明治四十五年三月（廿一人）

×仰木岩吉（福岡）
阿部重剛（愛媛）
稻林貞次（福島）
梳村近平（大阪）
大內美信（愛媛）
大森正雄（石川）

愛媛縣吉田中教諭
滿洲國新京神社神職
愛媛縣鄉社阿沼美神社々司
石川縣村社住吉神社々掌

官幣大社大神神社雇　越　美雄（奈良）
×小林宗治（三重）
廣島市天神社神職　坂本峰三郎（廣島）
滿洲國安東兩級中校長　佐藤猛雄（岩手）
清水眞澄（群馬舊名智代）
京都市府社御香宮神社々司　三木健至（京都舊名善三）
長野縣村社安國神社々掌　長坂眞賴（長野）
福岡縣八女高女校長　永野政雄（福岡）
兵庫縣立淡路高女教諭　中山講治（三重舊姓柴山）
神宮禰宜　野上正篤（島根）
三重縣立尾鷲中校長　早川滿三郎（三重）
宮本庸平（長崎）
官幣大社大和神社宮司　村岡力（鳥取）
舞鶴要港部職工教習所教官　山口忠（三重）
豐橋市鄉社羽田八幡社々掌　渡邊眞一郎（愛知）

○第二十二回　大正二年三月（十八）

楠　徹（三重）
大阪府立生野中教諭　久保田早苗（長野）
弘前市東奧義塾　黒住安臣（岡山）
×鈴木秀夫（山口）
京都府立舞鶴高女教諭　武内繁松（福井舊姓上田）
鶴藤幾太（岡山）
永松新次（大分）
滿洲國錦州省錦州兩級中學校長兼農業學校長　中村敏男（三重）
山口縣立岩國高女教諭　野村春一（山口）
熊本市村社別所琴平神社々掌藤岡晋（熊本）
愛知縣立第一中教員　星野源六（埼玉）
×丸山帶三（靜岡）
東京府立四中教員　森通（福井）
森本晃（京都）
官幣大社宇佐神宮々司　横山秀雄（神奈川）
神奈川縣立横濱一中教諭　渡邊直見（靜岡）

奈良縣立五條中教諭　荒張清次（奈良）
伊藤伊八（靜岡）
愛知縣々社　小川吉士（長野舊名玄士）
尾張大國魂神社々司
廣島縣立廣島二中教諭　唐崎忠夫（廣島）
名古屋市立第二高女教諭　小崎愼一（愛知）
小松貞藏（秋田）
宮城縣々社黃金山神社々掌　齋藤重彥（青森）
德島縣立池田中教諭　菅原佑音（三重舊姓奥川）
大分縣立竹田高女教諭　外山利雄（三重）
丸良夫（島根）

○第二十三回　大正三年三月（廿一人）

神戸市神港中教諭　伊藤勝次（長崎）
×岡本祐澄（三重）
×笠井享（大阪）
奈良縣天理二中教員　笠井久（熊本舊姓平井）
京城府培材高普教員　川合三次郎（三重）

國幣中社田村神社宮司　稻生一穗（三重）
三重縣立津高女教諭　大塚俊夫（同）
三重縣立宇治山田中教諭　勝村友三（同）
×加藤介石（同）
三重縣高田中教諭　國府規（同舊姓松村）
高松利男（宮城）
兵庫縣私立芦屋高女教員　竹内正幹（廣島）
官幣大社臺灣神社宮司　田村晴胤（山口）
大阪府立天王寺中教諭　富藤雄（和歌山）
京都府立龜岡高女教諭　長島正輝（京都）
京都府村社大歲神社々掌　仲野慶夫（大阪）
箕輪哲之助（新潟）
福岡市福岡日々新聞社々員　三松莊一（三重）
福岡縣戸畑高女教諭　渡邊卓（同）

○第二十四回　大正四年三月（十四人）

○第二十五回　大正五年三月（二十六人）

生田　襄（大　阪）
横濱市立横濱商業教諭　石井一作（神奈川）
横濱市關東學院高商部講師　猪瀨博愛（千　葉）
上野重博（三重）（舊姓土屋）
東京高等學校教諭　大塚龍夫（福　岡）
×大西吉壽（京　都）
神職　河合正則（富　山）
官幣大社松尾神社宮司　菅　貞幸（愛　媛）
×菊池英太郎（同　）
大阪府立阿部野高女教諭　小中正晴（大　分）
福岡縣立朝倉中教諭　坂本眞鈴（熊　本）
官幣大社八坂神社宮司　高原美忠（岡　山）
朝鮮晋州高普教諭　田中幸一郎（三　重）
福岡縣立鞍手中教諭　田增關一（山　口）
兵庫縣立第一神戸中教諭　多留政之介（兵　庫）
鹿兒島縣立第一鹿兒島中教諭　中西坂二郎（三　重）
廣島縣立三次高女教諭　中村瀧雄（廣　島）
神宮皇學館教授　西村爲之助（滋　賀）
東京市立教中教諭　花房正雄（東　京）
菱川庄兵衛（福井舊片岡廣一）
和歌山縣立海草中嘱託　古河順（石　川）
丸龜市盡誠中教諭　堀家澤太郎（香　川）
愛知縣津島中教諭　村上規矩（三　重）
大阪府立阿部野高女教諭　保井恒治（奈　良）
兵庫縣立龍野中教諭　山田里海（廣　島）
札幌市北海タイムス社々員　横田精一郎（兵　庫）

○第二十六回　大正六年三月（二十人）

三重縣立桑名中教諭　乾　堅三（三　重）
神宮皇學館教諭兼通科主事　大島乙丸（長　崎）
鹿兒島縣立第二鹿兒島中教諭　小田原文三郎（岡　山）
北川憲男（三　重）

大阪市立天王寺商業教諭　桑原達雄（岡　山）
兵庫縣三田高女教諭　兒玉尊臣（兵　庫）
靜岡縣立二俣高女教諭　小山　正（靜　岡）
名古屋市　商業　坂井武平（北海道舊姓伏見）
濱松市立高女教諭　坂本幸次郎（靜　岡）
旭川市縣社上川神社々司　柴田直胤（北海道）
×壽福院　教　輔（長　崎）
靜岡縣立大宮高女教諭　清　保秀（靜　岡）
福岡縣立嘉穗高女教諭　前間於菟猪（長崎舊姓高山）
×辰元英吉（鹿兒島）
福岡縣三潴高女教諭　頓田元穗（熊　本）
三重縣立工業教諭　中林茂生（三　重）
愛知縣惟信中教諭　服部孝次（愛知舊姓丹羽）
神宮禰宜　檜垣貞治（三　重）
兵庫縣立夜間高女講師　松岡　實（同　）
愛知縣立一中教諭　山田武司（同　）

○第二十七回　大正七年三月（十九人）

×天野秋生（三　重）
愛知縣瀧實業學校教諭　春日井濟（愛知舊姓佐藤）
×川西芳藏（兵　庫）
大阪每日新聞社々員　加茂勝雄（茨　城）
國幣中社貫前神社宮司　菅　貞好（愛　媛）
栃木縣日光高女校長　北島貞男（福井舊姓宮島）
福島縣立會津中教諭　紀國千秋（福　島）
小林康太郎（德　島）
金光教大阪小坂教會長　近藤照道（三　重）
福岡市九州高女教員　櫻井　清（長　崎）
澤山孝之助（三　重）
神戸市關西學院中學部教諭　莊司直治（千　葉）
大分縣立杵築中教諭　多村知當（三　重）
臺南州北港神社神職　垂永忠夫（福　岡）
靜岡縣立靜岡商業教諭　辻田健治（愛　知）

大分縣立大分中教諭　徳光吾一（大分）
山口縣立小郡農業教諭　長田敬房（山口）
愛知縣立一ノ宮中教諭　本庄春彦（愛知）
富山縣立礪波中教諭　山森今人（富山）

○第二十八回　大正八年三月（廿九人）

豊橋市立商業教諭　足立熊雄（岐阜）
朝鮮京城女子師範教諭　池山松雄（愛知）
秋田縣立能代高女教諭　伊藤茂（秋田）
滋賀縣立八日市中教諭　井上礒右衛門（滋賀）
石川縣立金澤一中教諭　鏑木勢岐（石川）
× 久保田紀都（廣島）
黒川惣一郎（三重）（舊姓駒田）
金光教宇治山田教會長　高阪正太郎（三重）
× 古守實正（山口）
堺市立商業教諭　近藤潔（三重）
會社員　榊原蓁（愛知）（舊姓吉田）
福岡縣立柳河高女教諭　佐々木博愛（鳥取）
神職　佐治正（京都）
官幣大社鵜山神社宮司　佐藤東（大分）
× 雜賀清重（徳島）
和歌山縣縣社小竹八幡神社々司　小竹譽夫（和歌山）
國幣中社彌彦神社主典　鈴木彦雄（新潟）
朝鮮大邱高女教諭　高橋武臣（大分）
神戸市立第三神港商業教諭　出口貞二郎（和歌山）
神宮皇學館教授　早川祐吉（千葉）
神宮皇學館教授　原田敏明（熊本）
東京帝大文學部講師　東竹眞澄（京都）
滋賀縣女子師範教諭　× 二見景雄（神奈川）
官幣大社樺太神社禰宜　政所喜澄（北海道）
石川縣立工業教諭　水野左近（石川）
官幣大社大鳥神社宮司　宮崎清章（徳島）
滿洲國哈爾賓日本中教諭　宮永久雄（鳥取）
三重縣立飯南高女教諭　村田忠郎（三重）

官幣中社伊太祁曾神社禰宜　柳野康英（和歌山）

○第二十九回　大正九年三月（廿四人）

大分縣立國東中教諭　縣五六（大分）
× 池部宗七（三重）
廣島縣村社八幡神社々掌　浮田彦麿（廣島）
臺灣臺北工業教諭　大場則雄（岐阜）
宮城縣立仙臺一中教諭　長田雅太郎（宮城）
山口縣立下關中教諭　河村善也（山口）
神宮皇學館教諭　來田親明（三重）
愛知縣丹羽高女教諭　鬼頭滿夫（愛知）
栃木縣立烏山中教諭　草野武一（茨城）
× 光在哲三（大阪）
愛媛縣越智中教諭　坂本總夫（岡山）
三重縣立尾鷲中教諭　高木孝太郎（京都）
支那青島日本中教諭　田上捨四郎（岐阜）
山口縣立德山高女教諭　爲貞千秋（岡山）
國幣小社箱根神社宮司　手塚道男（栃木）
× 鳥羽彌太郎（三重）
× 虎尾文平（徳島）
新潟縣立新潟商業教諭　中野二三郎（新潟）
西岡熊藏（三重）（舊姓小川）
平川隆一（岡山）
兵庫縣立小野中教諭　× 保坂誠實（新潟）
香川縣立三豊中教諭　細川敏太郎（香川）
朝鮮金泉公立高女校長　宮原眞太（福岡）
大阪府立八尾中教諭　安岡俊一（三重）

○第三十回　大正十年三月（廿五人）

門司市立門司商業教諭　秋山緒一（群馬）
愛知縣西尾高女教諭　伊藤左中（岐阜）（舊姓今井）
三重縣立神戸中教諭　岩尾義文（徳島）
上垣和三郎（兵庫）
× 奥海渉（宮城）

臺灣臺南師範教諭　梶原龍（三重）
帝國ミシン株式會社朝鮮中央店勤務　川本皓（愛知）
東京帝大史料編纂官補　後藤丹治（三重）
山口市山口國學院　佐藤剛（廣島）
新潟縣立村上中教諭　澤田可雄（新潟）
大阪府神道各教聯合會講師金光教大阪都島教會長　田中東三郎（大阪）
愛知縣立舉母高女教諭　棚橋退藏（愛知）
兵庫縣立第二神戸中教諭　田和寛一郎（兵庫）
大阪市立扇町商業教諭　辻吉郎（大阪）
東京府立七中教諭　西山俊行（和歌山）
朝鮮群山公立中教諭　橋爪光定（山口）
宮城縣涌谷高女教諭　羽生三郎（宮城）
× 林順一（富山）
三重縣立上野中教諭　富士磐根（靜岡）
熊本縣南關實科高女教諭　藤村毅彦（熊本）
岐阜縣岐阜中教諭　松原又一（岐阜）
靜岡縣立沼津中教諭　三井雄淳（愛知）
東京高等學校教諭　森本杉雄（和歌山）
三重縣立松阪商業教諭　山上武三（三重）
愛知縣立刈谷中教諭　渡邊秀（愛知）

○第三十一回　大正十一年三月（廿八人）

× 秋鹿朝成（靜岡）
福岡縣立東筑中教諭　上田胤榮（福岡）
大利幸策（兵庫）（舊姓米田）
大阪府立富田林中教諭　奥田直次郎（大阪）
大分縣立佐伯中教諭　小野賢木（大分）
三重縣立河原田農教諭　川本重善（福岡）
國幣小社古四王神社禰宜　龜井良造（秋田）
× 岸田駿三（大阪）
宮崎縣立都城中教諭　肝付肇愛（鹿兒島）
福岡縣田川高女教諭　佐土原果（同）
長崎縣立大村中教諭　志田一夫（長崎）
三重縣立宇治山田商業教諭　正佳亮太郎（三重）

熊本縣立熊本中教諭　進藤坦平（佐賀）（舊姓江口）
鹿兒島縣立一中教諭　瀨川豐平（鹿兒島）
× 高橋知三（秋田）（舊姓久志本）
別格官幣社結城神社宮司　田島仲康（愛知）
大阪府立生野中教諭　谷忠政（兵庫）
× 近尾俊二郎（富山）
佐賀市立成美高女教諭　土屋甚治郎（愛知）
長野縣立松本二中教諭　土井保（長野）
× 當麻正雄（奈良）
兵庫縣立第一神戸商業教諭　中村氏實（福岡）
× 野田貞吉（愛媛）
大分縣立臼杵中教諭　平野登（大分）
德島縣立麻植中教諭　藤原榮久（高知）
× 三輪田元伯（愛媛）
山下高雄（岡山）
兵庫縣立伊丹高女教諭　山中一明（三重）

○第三十二回　大正十二年三月（廿六人）

名古屋市立名古屋商業教諭　味岡福（愛知）
岡山縣西大寺高女教諭　石井吉馬（廣島）
新潟縣加茂農學校教諭　市川敬一郎（新潟）
京都府立京都二中教諭　井上賴壽（三重）
× 上野史（岡山）
岡山縣立井原高女教諭　小川博（同）
京都女子專門學校教諭　岡本隆男（和歌山）
朝鮮光州高普教諭　改正政次（大阪）
福岡商業教諭　香川嘉男（香川）
東京帝大史料編纂官補　蒲池敏昶（福岡）
福岡縣三池中教諭　小島鉦作（愛知）
大阪市電氣局運輸部業務課庶務係長兼教習所長　小畠晉（廣島）
× 清水芳雄（奈良）
朝鮮京畿商業教諭　高野潮（新潟）

愛知縣新城農蠶教諭　武田八百穎（愛知）
大阪府立豐中中教諭　多田美伸（奈良）
廣島縣立竹原高女教諭　德永一夫（廣島）
國幣中社忌部神社宮司　永井曉（北海道）
臺北帝大學生主事　能勢顯賢（山梨）
朝鮮大邱高普教諭　廣瀨成之（岐阜）
大阪市立扇町商業教諭　譽田千之（靜岡）
×松元久義（鹿兒島）
×箕浦元信（愛知）
長野縣々社武水別神社　宮川禮次郎（長野）
朝鮮晋州高普教諭　渡邊政德（長野）

○第三十三回　大正十三年三月（廿八人）

×阿地部幸雄（熊本）
兵庫縣立姬路高女教諭　生島覺（德島）
神奈川縣立小田原中教諭　今井義三郎（三重）（舊姓井下）
津市富國徵兵保險會社員　岩瀨眞澄（三重）

兵庫縣立工業教諭　浦田保忠（佐賀）
宮內省掌典　川出清彥（愛知）
長野縣更級農拓植學校教諭　京極興博（長野）
栃木縣立石橋中教諭　熊谷清高（福岡）
長野縣丸子農商教諭　栗山茂（岐阜）
姬路市天理教飾東教會長　紺谷金彥（兵庫）
山形縣立新莊中教諭　齋藤吉胤（新潟）
×白石爲美（山口）
官幣大社朝鮮神宮禰宜　鈴木重道（北海道）
國幣中社大麻比古神社宮司　武智章（愛媛）
三重縣村社州崎濱宮　中村康雄（京都）
神明神社々掌　林榮治（三重）
富山縣鄉社林神社々司　林耕之（富山）（舊姓金子）
學習院教授　福田福一郎（三重）
×眞木山武夫（新潟）
大阪市立扇町商業教諭　森田正孝（富山）
兵庫縣立御影夜間中教諭　八木光雄（靜岡）

福岡縣筑紫中教諭　八尋松次郎（福岡）
朝鮮釜山第一商業教諭　山田文治（群馬）
神戶市立第二神港商業教諭　山內功（福岡）
×山之內康（鹿兒島）
官幣大社朝鮮神宮權宮司　吉田貞治（神奈川）
大阪府立住吉中教諭　米澤總太郎（兵庫）
廣島縣立廣島一中教諭　渡部孝（廣島）

○第三十四回　大正十四年三月（卅五人）

山口縣村社八幡宮社掌　伊藤駿治（山口）
×浦北知一（三重）
廣島縣宇都神社々掌　越智正俊（廣島）
福岡縣門司中教諭　小山田豐（福岡）
朝鮮　會社員　加納一郎（三重）
北藤一雄（兵庫）
清谷曦玄（福井）
高口博（福岡）

愛知縣立工業教諭　酒井榮一（愛知）
大阪市關西甲種商業教諭　坂倉廣顯（三重）
福岡縣小倉師範教諭　白土秀眞（福岡）
×新野正義（香川）
兵庫縣立加古川中教諭　杉本正信（奈良）（舊姓樋口）
大阪府立天王寺中教諭　園田友次（佐賀）
高島弘次（栃木）
大分縣立臼杵高女教諭　高野好古（大分）（舊姓岡部）
愛知縣刈谷中教諭　忠平茂男（長野）
×田中靜雄（京都）
靜岡縣立濱松一中教諭　谷崎延（三重）
筒井京三（同）
中原博（山口）
×中原義胤（同）
山口縣立柳井高女教諭　中村靜男（三重）
國幣小社菅生石部神社宮司　中村泰雄（山口）
三重縣立名張高女教諭　西久保貢（三重）

静岡縣立静岡中教諭　西田重雄（奈良）
熊本市高城神社　福井守中（埼玉）
大分縣立第一高女教諭　藤本平（大分）
×藤森井一（静岡）
大分縣立大分商業教諭　三浦章盛（大分）
静岡縣立大仁高女教諭　三浦壯夫（愛知）
兵庫縣立伊丹中教諭　宮崎吉脩（三重）
×室田正巳（山口）
大阪府女子師範教諭　横井新太郎（三重）
鹿兒島縣立志布志中教諭　留守景廣（鹿兒島）

○第三十五回　大正十五年三月（卅五人）

岡山縣第一岡山中教諭　淺野富男（岐阜）
佐賀縣女子師範教諭　市場直次郎（島根）
名古屋市第二商業教諭　入江清（長崎）
静岡縣立豆陽中教諭　大山雄吉（三重）
香川縣高松一中教諭　岡坂數一（香川）
×岡本綱三（愛知）
懸野久方（京都）
川合祐六（新潟）
喜尾野茂（福井）
久世正富（和歌山）
後閑克秀（滋賀）
小松茂人（長野）
×佐藤哲生（三重）
重見階（岡山）
須磨清宣（福井）
×隅田彌太郎（愛知）
瀧本利雄（香川）
田中清（山口）
×佃孝夫（香川）
中川武一（三重）
中野敬次郎（同）
×永松靜雄（大分）

臺灣臺南一中教諭　西田季男（奈良）
大阪市立大實實務學校教諭　西本善榮（同）
福岡縣村社椿八幡宮社掌　秀村利久馬（福岡）
愛媛縣師範教諭　福田直記（廣島）
横濱市立横濱商業教諭　細井義正（山形）
×前田九良（三重）
長崎縣立壹岐中教諭　三浦順一（同）
静岡縣三島商業教諭　村田孝造（同）
高知縣立海南中教諭　守月明比古（高知）
大連彌生高女教諭　柳生昌滕（三重）
朝鮮京城中教諭　安田矯助（長崎）
尼ヶ崎市立高女教諭　安田駿三（兵庫）
茨城縣立龍ヶ崎中教諭　吉田一德（茨城）

○第三十六回　昭和二年三月（五十一人）

岐阜縣中津商業教諭　青木敬三（三重）（舊姓堀）
兵庫縣立豊岡中教諭　稻垣政郎（三重）
廣島縣立世羅中教諭　潮千別（廣島）
熊本市立高女教諭　江口均平（佐賀）
德島縣立麻植中教諭　大島惠治（德島）
朝鮮元山中教諭　大森高雄（和歌山）
佐賀縣立三養基中教諭　緒方笹男（福岡）
福岡縣豊津中教諭　岡村政一（大阪）
朝鮮裡里農林教諭　岡村利一（福岡）
×彼末喜衛（高知）
兵庫縣立上郡農教諭　木村才三（香川）
愛知縣熱田中教諭　木村與平（三重）
京都府立福知山中教諭　栗栖善知（島根）
官幣大社熱田神宮權宮司　慶光院俊（三重）
東京帝大史料編纂官補　小坂淺吉（石川）
神宮神部署神部補　小谷幸男（鳥取）
兵庫縣立加古川中教諭　後藤重信（兵庫）
京都府立福知山高女教諭　小松忠一（富山）
×川浦光重（愛知）

國幣中社都々古別神社宮司　佐波古　直胤（福　島）
朝鮮鏡城高普教諭　島　岩　夫（德　島）
東京市高輪中學幹事　清　水　保　夫（岡　山）
福井縣立大野中教諭　下　村　四　郎（三　重）
三重縣立松阪商業教諭　鈴　木　幸　壽（同　　）
×
岐阜縣大垣商業教諭　鈴　木　正　知（山　口）
臺灣臺中州彰化高女教諭　鈴　木　六　郎（三　重）
滿洲國新京神社神職　高　濱　利　久（大　阪）
鹿兒島縣立大島中教諭　高　見　光　治（同　　）
官幣中社北野神社主典　高　向　秀　之（福　岡）
三重縣立津高女教諭　竹　島　榮　雄（三　重）
香川縣立三豐中教諭　長　井　春　吉（三　重）（舊姓中川）
×
岡崎市　青年學校教諭　長　峰　敎　一（長　崎）
愛知縣豐橋二中教諭　浪　崎　吉　夫（愛　知）
官幣大社氷川神社禰宜　西　岡　末　雄（愛　知）（舊姓渡邊）
額　賀　大　興（千　葉）

宮崎縣師範教諭　野　口　正　夫（和歌山）
岐阜縣立斐太中教諭　萩　原　　實（東　京）
大阪府立夕陽丘高女教諭　藤　木　忠　夫（大　阪）（舊姓土橋）
兵庫縣立第一神戸商業教諭　平　郡　義　彰（廣　島）
愛知縣立明倫中教諭　水　野　鑑　一（愛　知）
香川縣立三豐農教諭　南　　一　郎（香　川）
福井縣立福井高女教諭　三　輪　　豐（岐　阜）
岐阜縣高山高女教諭　村　田　傳　次　郎（同　　）
森　　勇（三　重）（舊姓山岡）
×
大阪府立天王寺中教諭　守　屋　廣　治（奈　良）
鹿兒島縣立伊集院中教諭　藪　　重　孝（大　阪）
丸龜市丸龜商業教諭　山　上　春　男（大　分）
愛媛縣立今治中教諭　山　口　鶴　二（愛　知）
兵庫縣多紀郡雲部小教員　橫　井　孝　男（香　川）
吉　武　秋　男（福　岡）

○第三十七回　昭和三年三月（六十四人）

京都市立松原商教諭　芦　田　九一郎（京　都）
奈良縣畝傍中教諭　有　馬　　尙（大　分）
秋田縣立角館中教諭　池　原　喜七郎（三　重）（舊姓北村）
神職　石　川　鐵　男（愛　知）
朝鮮大邱女子高普教諭　石　田　亮　一（香　川）
名古屋市立第二高女教諭　井　上　大　春（佐　賀）
福岡縣早良高女教諭　井　上　元　治（愛　知）
愛知縣立西尾高女教諭　井　上　義　賢（福　岡）
沖繩縣立二中教諭　岩　井　義　治（愛　知）
立命館大學教授　岩　谷　信次郎（三　重）（舊姓豐田）
靜岡縣立志太中教諭　今　井　啓　一（京　都）
朝鮮全北公立高女教諭　入　江　斧　治（岡　山）
熊本縣立大津中教諭　植　村　　勳（三　重）
大久保治良（大　阪）　卯野木卯一良（熊　本）
香川縣立高松高女教諭　大　島　永　一（德　島）
岡　本　肆　郎（愛　知）

丸龜市敬愛高女教諭　尾　崎　史　郎（香　川）
支那北平文化學研究所圖書部主事　小　竹　武　夫（石　川）
朝鮮京城景福公立中教諭　笠　松　重　雄（福　井）
臺灣花蓮港中教諭　加　藤　謙　一（愛　知）（舊姓甲村）
官幣大社熱田神宮禰宜　河　田　晴　夫（岡　山）
鹿兒島縣立高山高女教諭　神　田　義　勝（長　崎）
官幣大社熱田神宮々掌　久　米　武　一（愛　知）
福島縣村社山津見神社々掌　久　米　正　元（福　島）
福岡縣朝倉中教諭　栗　林　　明（福　岡）
新潟縣立長岡工業教諭　坂　井　浩　吉（三　重）
北海道廳立函館中教諭　櫻　田　角　郎（青　森）
群馬縣立藤岡高女教諭　佐　藤　祐　二郎（群　馬）
×
福岡縣直方實業女教諭　佐　伯　秋太郎（京　都）
山梨縣立日川中教諭　重　松　敏　夫（福　岡）
×
杉　村　　環（愛　知）（舊姓芥川）
愛媛縣石鎚神社神職　白　井　善　一（埼　玉）
十　龜　定　雄（愛　媛）

靜岡縣濱松師範教諭	高橋	勝（千葉）
×	中井	滿（福岡）
福岡市西南學院中學部教員	中尾	肇（和歌山）
×	西尾	實（兵庫）
岡山縣兒島商船教諭	西村	猛（三重）
三重縣宇治山田高女教諭	橋本	義隆（德島）
	樋口	靜夫（神奈川）
三重縣上野實科高女教諭	樋口	重象（三重）
福島縣立岩瀨農教諭	樋口	義雄（福島）
臺灣臺南州立嘉義中教諭	平井	新（福岡）
長野縣小諸商業教諭	平林	富三（長野）
靜岡縣立見付中教諭	藤田	平三（茨城）
北海道廳立岩見澤中教諭	武藤	千年（岐阜）
官幣大社稻荷神社主典	松井	勝太郎（三重）
愛知縣立一中教諭	松井	志氣雄（愛知）
×	松井	辰雄（同　）
×	水谷	治（三重）
鳥取縣立倉吉中教諭	萬治	義治（鳥取　舊姓森田）
朝鮮釜山公立中教諭	宮田	定繁（高知）
豐橋市立商業教諭	村尾	寅夫（長崎）
岡山縣邑久高女教諭	村上	爲之（岡山　舊姓濱上）
臺灣臺北一中教諭	村上	勇（三重）
長崎縣立中學猶興館教諭	森	定驥一（岡山）
福岡縣柳河高女教諭	森田	孝夫（福岡　舊姓永島）
×	八木	信一（三重）
福岡縣夜間中筑福岡中教諭	山本	亟（鳥取）
官幣大社住吉神社主典	横井	時常（愛知）
朝鮮京城商業教諭	吉開	正俊（福岡）
	吉武	淳（大分）
山口縣熊毛郡三丘村神職	渡邊	基一（山口）

○第三十八回　昭和四年三月（六十八人）

石川縣立津幡農蠶教諭	秋吉	浩（福岡）
三重縣立桑名高女教諭	天野	艷二（愛知）

神宮々掌	伊香	豐二（滋賀）
兵庫縣師範教諭	上田	光夫（兵庫）
鹿兒島縣立鹿屋中教諭	上田	照夫（岡山）
福岡縣福丸實女教諭	上村	寅雄（福岡）
內務省神社局考證官補	梅田	義彥（大阪）
宮城縣石卷小教員	尾形	傳亮（宮城）
香川縣善通寺高女教諭	大浦	忠雄（香川）
東京府立第一商業教諭	大島	義和（愛媛）
埼玉縣立浦和中教諭	太田	一（三重）
愛知縣窯業學校教諭	大原	靜雄（愛知　舊姓長尾）
堺市立堺商業教諭	大森	武男（兵庫）
國幣中社大麻比古神社禰宜	片岡	宗（同　）
兵庫縣立明石高女教諭	鍛冶	利夫（同　）
宮城縣伊具農教諭	河上	初一（三重）
×	川崎	滿壽夫（福岡）
大阪市立扇町高女教諭	上條	昌幸（長野）
東京府立九中教諭	桑原	通雄（東京）
樺太豐原高女教諭	久村	廣士（山形）
茨城縣立石岡農教諭	黑澤	巖一郎（群馬）
福岡市西南學院中學部教員	小枝	功（岡山）
兵庫縣立農教諭	小竹	保一（愛知）
朝鮮大邱商業教諭	兒玉	種夫（山口　舊名一雄）
栃木縣々社太平山神社々司	小林	敏三郎（栃木　舊姓星）
別格官幣社北畠神社禰宜	小松	直重（高知）
朝鮮羅南公立高女教諭	近藤	泰隆（愛知）
和歌山縣立新宮商業教諭	阪口	重晴（和歌山）
鹿兒島市立商業教諭	酒德	宗三（三重）
×	佐々木	寬康（廣島）
神宮權禰宜	佐藤	敏夫（愛知）
×	猿渡	潤一郎（福岡）
福岡縣中學明善校教諭	篠原	正二（同　）
大阪市立東商業教諭	芝野	勝二（大阪）
臺北帝大附屬圖書館勤務	島田	甫（山梨）
國幣小社淺間神社主典	白井	光男（靜岡）

滋賀縣々社長等神社々司　新宮幸勝（滋賀）
鹿兒島縣立加世田農教諭　杉嘉幸（福岡）
滋賀縣々社油日神社神職　瀨古吉宣（滋賀）

官幣大社朝鮮神宮囑託　竹內十郎（福岡）
大阪府立鳳中教諭　武林健一（鳥取）
靜岡縣立中泉農教諭　谷野文彬（大阪舊名武義）
岡山縣瀨戶高女教諭　寺田精（靜岡）
三重縣神戶實業高女教諭　直原正二（岡山舊姓有松）
別格官幣社湊川神社主典　中跡和男（三重）
官幣大社住吉神社主典　中野清（兵庫）

×西川秀夫（德島舊姓山本）
內務屬神社局勤務　×野田史熊（福岡舊姓廣澤）
朝鮮江原道春川高普教諭　久島一雄（愛知）
國幣中社金刀比羅宮主典　藤井富俊（岡山）
岩手縣立遠野高女教諭　堀澤周行（愛知）
國幣中社玉祖神社宮司　松崎節雄（岩手）
三浦重義（鳥根）

朝鮮總督府屬　官房勤務　水城寅雄（福岡）
山口縣山口國學院教員　三宅健吉（廣島）
福岡縣田川實業高女教諭　宮永知次（福岡）

×虫明富三（岡山）
×宗本浩（同）
大阪市私立山岡發動機青校　目加田武彥（山口）

×森川信勝（愛知）
名古屋市東海中教諭　森本有親（同）
兵庫縣立第一神戶高女教諭　山岡利生（三重）
三重縣立河藝高女教諭　山崎齋（同）

×山田正晴（神奈川）
大阪市浪華商業教諭　山村道輔（靜岡）
大阪市天王寺高女教諭　山本彌太郎（香川）
宮城縣立栗原農教諭　吉岡巖（德島）
大分縣立工業教諭　脇一人（大分）

○第三十九回　昭和五年三月（六十五人）

神宮々掌　朝倉泰一郎（愛知）

×天野正義（鳥根）
神職　池山洋（鳥取）
三重縣立神戶中教諭　井口橋三郎（三重）
岩本賢治（岡山舊姓中島）
永島稔（三重舊姓國保）
官幣大社松尾神社主典　大阿久良治（栃木）
別格官幣社唐澤山神社主典　大原龜雄（愛媛）
愛媛縣立松山商業教諭　沖清一（京都）
京都市立第一工業教諭　尾鹿敏夫（三重）
福岡縣福岡中教諭　小野次敏（福岡）
山梨縣立甲府中教諭　小尾鳩三（山梨）
三重縣三重郡富洲原小訓導　加田勘四郎（三重）
國幣小社沼名前神社主典　加藤勝（愛知）
愛媛縣立宇摩實業教諭　河部正（愛媛）
朝鮮大邱高女教諭　龜井廸臣（香川）

三重縣立鳥羽商船教諭　北川常太郎（三重）
福岡縣筑紫中教諭　清藤鶴美（福岡）
臺灣總督府交通局勤務　釘宮元德（大分）
官幣大社稻荷神社囑託　久保輝雄（山口）
長野縣諏訪第一高女教諭　黑川眞（長野）
官幣大社大神神社主典　近藤奠英（三重）
兵庫縣立尼ヶ崎中教諭　定政熊雄（岡山）
福岡縣八幡中教諭　佐藤巖（福岡）
官幣大社多賀神社主典　篠田康雄（三重）
京都府々社御香宮神社々掌　三木宏之（京都、舊上村宇助）
岐阜市徹明小訓導　園部定省（岐阜）
神宮々掌　高羽謙昊（三重舊姓安田）
福岡市　商業　高松仁（福岡）
高知縣立中村中教諭　武重守（佐賀）
長崎縣立諫早中教諭　田村守隆（大分）
德田作治（京都）
岐阜縣稻葉郡鳥村小教員　中島常雄（岐阜）

神宮神部署神部補　中山加奈治（三重）（舊姓池田）
兵庫縣姬路商業教諭　成田幸雄（京都）
岡山市立商業教諭　南部億造（兵庫）
堺市立高女教諭　藤井武彥（岡山）
奈良縣立商業教諭　堀部直美（大阪）
大阪府立四條畷中教諭　增田良一（兵庫）
×山口萬次（佐賀）　山口傑三（大阪）
官幣大社籠山神社主典　太美優（岡山）（舊姓山本）
奈良縣立添上農教諭　弓場史郎（奈良）
福岡縣立築上中教諭　吉田忠夫（福岡）
昭和五年四月
香川縣高松刑務所看守　田羅間巖（香川）

第二部

官幣大社朝鮮神宮主典　池田良八（佐賀）
岡山縣淺口郡德本小訓導　石橋鶴雄（岡山）
朝鮮新義州中教諭　出田源吾（福岡）
滋賀縣淡海學園教諭　山田增造（京都）

○第四十回　昭和六年三月（六十六人）

第一部

×秋田幸雄（鳥取）
神宮皇學館講師　淺野明光（愛知）
臺灣新竹州新竹高女教諭　小川一（福岡）
岐阜縣立揖斐實業教諭　奥野政次郎（三重）
福岡縣立直方高女教諭　大垣紋治（福岡）
官幣大社多賀神社主典　大菅正利（滋賀）
長崎縣立佐世保商業教諭　太野信彥（岐阜）
山形縣立第二高女教諭　笠井京平（長野）
北海道廳立江刺高女教諭　菊池稔（北海道）
神宮々掌　北川利次（三重）
鳥取縣立鳥取高女教諭　小林由太郎（愛知）（舊姓松川）
朝鮮清州高女教諭　坂村昂（熊本）
國幣中社眞清田神社主典　櫻井勝之進（鳥根）

×大塚巖（佐賀）
鳥取縣立鳥取一中教諭　岡田昜（鳥取）
神宮皇學館教諭　岡田米夫（東京）
大阪府浪速化學工業株式會社　岡野弘（三重）
西宮市安井小教員　黑岩芳郎（兵庫）
神宮々掌　甲村庄三郎（奈良）
九州帝大法文學部學生　小島盛枝（福岡）（舊姓白谷）
神宮神部署神部補　齋藤正（三重）
國幣大社氣多神社禰宜　柳茂（新潟）
新潟縣立柏崎商業教諭　島谷正亮（三重）
官幣中社長田神社主典　高松忠清（福島）
神宮々掌　遠山芳美（香川）（舊姓齋藤）
熊本縣鹿本農教諭　中村力（熊本）
大阪府石切劍箭神社囑託　藤戶淳三（大阪）
滿洲國公主嶺神社神職　森安忠（大分）（舊姓石井）
官幣大社吉野神宮主典　矢田清一（三重）
昭和五年四月

堺市京阪商業教員　埴尻幾一（岡山）
武田昌三（大阪）
多田隆胤（香川）
三重縣度會郡穗原小訓導　中西義圓（島根）
福岡縣築上高女教諭　長野國富（福岡）
國幣小社菅生石部神社禰宜　服部知一（愛知）
神戶市立第一神港商業教諭　濱田稔（香川）
國幣大社熊野神社禰宜　平野直憲（三重）

×福田乃武（岐阜）
保垣一廣（島）
福岡縣嘉穗高女教諭　堀田一之（福岡）
松尾善雄（同）
日本ゴム株式會社ブリヂストンタイヤ株式會社囑託　松島八郎（熊本）
愛媛縣立松山商業教諭　三浦東吾（愛媛）
三重縣立宇治山田中教諭　三國藏（三重）（舊姓一丁田）
官幣大社三島神社主典　宮田光保（香川）

×宮脇太郎（岐阜）

東京市東京辭書出版社々員　向井和夫（愛媛）
奉天市公署教育科　本島竹直（熊本）
福岡縣立糟屋農教諭　本園一守（福岡）
滿洲國錦洲師範教員　森岡四郎（廣島）
神職　安井俊男（岡山）
石川縣立工業教諭　横江義雄（石川）
福岡縣皇國學院講師　吉田喜和（福岡）
埼玉縣大里郡花園小教員　吉田千代藏（埼玉）

第二部

横須賀海軍第一教習所教員　秋元春雄（德島）
神宮皇學館助教授　池山聰助（三重）
兵庫縣立洲本中教諭　石井正夫（三重）（舊姓金剛）
官幣大社朝鮮神宮主典　石垣重石彥（三重）
官幣大社淺間神社主典　上島藤成（同　）
×岸野修（同　）
神宮々掌　熊谷貞雄（東京）
官幣大社朝鮮神宮主典　小西武雄（京都）

朝鮮光州公立中教諭　佐藤毅（廣島）
山口縣德山商業教員　重高信雄（山口）
×謝源泉（臺灣）
大樂國久（山口）
×中垣忠彥（愛知）
佐世保海軍工廠教習所教員　長島貞雄（長崎）
神戸市鄉社河內國魂神社々司　中西宮夫（三重）
仲見秀雄（同　）
狹間一夫（大阪）
新潟縣立新潟商業教諭　長谷川正（新潟）
三重縣度會郡有田小訓導　林義夫（三重）
朝鮮大田中教諭　原榮一郎（岐阜）
山口縣々社岩隈八幡宮社司　原田正直（山口）
三重縣立河藝高女教諭　牧野德一（大阪）
牧野宏（兵庫）
神戸市村社八幡神社々掌　增井克己（滋賀）（舊姓長島）
別格官幣社東照宮主典　宮崎重吉（石川）

官幣大社大鳥神社禰宜　矢野旭香（愛媛）
矢野直人（同　）
和歌山縣立耐久中教諭　山縣信敬（和歌山）（舊姓宮脇）

○第四十一回　昭和七年三月（六十八人）

第一部

大阪市大阪商業教諭　東清哲（滋賀）
滿洲國安東女子師範教諭　粟野順德（三重）（舊姓楊）
兵庫縣立第二神戸中教諭　安東薰（大分）
株式會社大分製作所　市川茂（三重）
大阪市眞田山小訓導　井脇富太郎（和歌山）
東京市東京朝日新聞社々員　上野丕慮務（三重）
靜岡縣濱松二中教諭　內山榮一（靜岡）
會社員　奥田敏夫（三重）
福岡縣立嘉穗中教諭　奥野吉次郎（福岡）
滋賀縣立神崎商業教諭　尾崎啓一（三重）
小野木利尙（岐阜）

滿洲國哈爾賓鐵路學院講師　大塚溫夫（宮崎）
國幣大社大山祇神社主典　大濱正道（兵庫）
×勝田義一（三重）
朝鮮京城神社神職　加藤辰男（廣島）
福岡縣立築上中教諭　久我正次（福岡）
青島神社主典　熊谷高次郎（同　）
廣島縣立上下農教諭　阪本信次（大阪）
千葉縣立千葉中教諭　佐藤峻（大分）
官幣大社樺太神社主典　生田和夫（愛知）
官幣大社稻荷神社囑託　鈴木日出年（同　）
臺灣屏東農教諭　角南吉雄（岡山）
京都府立園部中教諭　關市郎（愛知）
神宮々掌　高城昇（三重）
臺灣臺南州東石神社々掌　高木良太（香川）
滋賀縣立栗太農教諭　高橋正孝（滋賀）
津市立高等公民學校教諭　高山光男（三重）
靜岡縣泉青校教員　竹內清（靜岡）（舊姓藤原）

國幣中社西寒多神社主典　辰本　弘（大分）
蘭領印度スラバヤ市大信洋行　田中　正（兵庫）
堺市堺小教員　寺井音一（大阪）
旭川市縣社上川神社神職　中山　勝（北海道）
東京市四ツ谷區第五小訓導　西村繁雄（三重）
官幣大社氷川神社主典　西本泰（岡山）
兵庫縣立明石中教諭　林　清之（兵庫）
京都市立第一商業教諭　樋口政藏（京都）
三重縣立富田中教諭　深津　登（三重）
御嶽教々師滿洲教區廳在勤　松原正一（愛知）
長崎縣立壹岐高女教諭　松本宗十郎（長崎）
釜山商業實踐學校教諭　三上竹次郎（滋賀）（舊姓園田）
朝鮮全羅北道南原神社神職　三ヶ本　新（山口）
名古屋市立名古屋商業教諭　山田幸雄（愛知）
神宮神部署調査事務囑託　山邊　伯（三重）
官幣大社淺間神社主典　吉村龍雄（長崎）

第二部

滿洲國寬城子第七中教員　愛甲晋朝（宮崎）
×秋吉政雄（熊本）
靜岡縣立大宮高女教諭　飯塚謙三（靜岡）（舊姓池田）
兵庫縣立姫路高女教諭　伊藤秀雄（大分）
朝鮮會寧高女教諭兼會寧商業教諭　加藤　淨（愛知）
三重縣志摩郡鳥羽小訓導　川北正夫（三重）
釜山女子高普教諭　後藤薫樹（廣島）
別格官幣社東照宮主典　佐竹純耳（岐阜）
滿洲國吉林神社神職　定光　昭（廣島）
庄本光政（鳥取）
鈴木　修（愛知）
谷本　讓（同）
名古屋市日置小教員　岩田夏雄（岐阜）（舊姓土屋）
四日市市高女教諭　南角　清（三重）
長野縣下諏訪小教員　林　一郎（長野）
廣瀬英太郎（滋賀）
官幣大社札幌神社禰宜　藤原三代治（靜岡）

鳥取縣米子中教諭　船越元四郎（鳥取）
松山市北豫中教諭　松本由太郎（愛媛）
國幣中社諏訪神社主典　宮川俊直（兵庫）
東北帝大法文學部助手　宮崎典也（山口）
石川縣立飯田中教諭　八尾春一（同）
官幣大社大神神社主典　葭田眞澄（栃木）
奉天市　吉村商會　吉村正雄（岡山）

○第四十二回　昭和八年三月（六十四人）

第一部

姫路高等女子職業學校教諭　阿比留良一（長崎）
大阪市城東小教員　栗野敏夫（岐阜）
文部省教學局指導部指導課　阿部重夫（新潟）
國幣中社志波彦神社攝社釜神社主典　天野武雄（福岡）
官幣中社八代宮主典　池畠孝雄（兵庫）
大阪市社會部庶務課調査係勤務　石井亥九夫（岡山）
大分縣女子師範教諭　石井健次（大分）
北海道廳立八雲中教諭　磯部龍雄（愛知）
神戸市野田高女教員　泉　侃造（廣島）
三重縣桑名郡深谷小訓導　伊藤友雄（東京）
津市立高等公民學校教諭　臼井廣道（三重）
神宮司廳出仕　宇仁一彦（同）
官幣大社大和神社主典　嬉野　保（長崎）
佐賀縣小城中教諭　江崎菊太（福岡）
朝鮮光州高普教諭　岡田森造（香川）
神宮司廳出仕　奥野吉郎（三重）
大阪府鄕社阿倍王子神社　河野正雄（大阪）
愛媛縣立今治中教諭　久米安行（愛知）
官幣大社日吉神社雇　郡　量吉（大阪）
官幣大社稻荷神社囑託　兒玉權之助（三重）
官幣大社龍田神社主典　佐藤一枝（靜岡）
國幣小社忌宮神社主典　塩崎　勳（和歌山）
官幣大社宮崎神宮主典　大工原英夫（長崎）
官幣大社橿原神宮主典　田上吉秋（三重）

和歌山縣立田邊中教諭　瀧口清一（兵庫）
福岡縣浮羽郡小塁小訓導　田中芳胤（福岡）
和歌山縣海草郡野崎小訓導　土井公（和歌山）
國幣中社大洗磯前酒列磯前神社主典　土井良平（愛知）
富增修（三重）
兵庫縣立小野中教諭　中原誠一（岡山）
神戸市立第一神港商業教諭　鳴神克己（和歌山）
福岡縣福岡育學校教諭　西尾武人（福岡）
佐賀縣伊萬里高青校教員　信國進（同）
兵庫縣立姫路高女教諭　長谷川隆吉（兵庫）
岐阜縣武儀郡關小訓導　深川學（岐阜）
山口縣立山口高女教諭　福江芳朗（山口）
石川縣々社藤塚神社々司　藤基廣次（石川）

×

神戸市育英商業教員　宮井轉志（熊本）
三重縣飯南郡花岡高等公民學校教諭　村上俠輔（福岡）
名古屋市中京高女教諭　村瀨隆（三重）
安田正臣（島根）

廣島市巳斐小訓導　夜陣昊郎（廣島）
福岡縣八幡高女教諭　與田俊夫（福岡）
福井縣敦賀商業教諭　渡部一男（三重）

第二部

石原義夫（岡山）
國幣中社函館八幡宮主典　上野政義（鳥取）
兵庫縣志筑高女教諭　大森正知（奈良）
愛媛縣立松山中教諭　景浦勉（愛媛）
名古屋市第二小教員　加藤敬明（愛知）
大阪每日新聞社々員　木本正次（德島）
官幣中社鎌倉宮主典　小林道德（長野）
別格官幣社靖國神社主典　高山貴（群馬）（舊姓高橋）
福岡縣久留米商業教諭　田中通雄（福岡）
奈良縣北葛城郡王寺小教員　谷村榮（奈良）（舊姓大谷）
三重縣立上野中教諭　東倉保吉（三重）
東京市神應小教員　中澤昇（神奈川）
造神宮屬兼內務屬　中出慎一（三重）

大阪府村社住吉神社　名村富佐男（兵庫）
官幣中社寒川神社主典　藤岡英夫（和歌山）
官幣大社熱田神宮主典　藤田勝重（香川）
福岡縣鞍手郡新延小教員　古家寅市（同）
國幣小社度津神社禰宜　保里安藏（福岡）
廣島縣立吳夜間中教諭　桃田忠雄（新潟）
　山本英夫（廣島）

○第四十三回　昭和九年三月（七十一人）

第一部

秋山隆光（岡山）
國幣中社玉祖神社禰宜　井上正彥（鳥取）
　井上平（大分）
朝鮮成鏡農教諭　上田紀雄（福井）
神宮司廳出仕　大西正夫（三重）
官幣大社淺間神社主典　大場重正（靜岡）
　東愁（奈良）

滿洲國双城第三中教員　大村豐秋（香川）
神宮皇學館授業囑託　岡本立木（福岡）
愛知縣立西尾中教諭　荻野長雄（愛知）
官幣大社樺太神社主典　小栗勝彥（岐阜）
　開原恒（廣島）
兵庫縣立尼ヶ崎中教諭　笠井美保（岐阜）
岡山縣邑久土曜學校　片岡三東（岡山）
三重縣度會郡七保第二小教員　金山美正（山形）
宮城縣佐沼實科高女教諭　河原誠一（岡山）
兵庫縣洲本實科高女教諭　北岡正（兵庫）
岐阜縣高山青年學校教諭　山下正夫（岐阜）（舊姓木戸口）
佐賀縣相知町立高等青年學校教員　木下義春（佐賀）
新潟縣南魚沼郡塘澤小教員　劍持隼一郎（新潟）
國幣中社忌部神社主典　小泉義晴（鳥取）
福岡縣田川郡市場小教員　米谷與八郎（福岡）
濱松第二商業教員　金剛春雄（三重）
青森市立夜間中教諭　齋藤眞一（北海道）

靜岡縣立濱松工業教諭　境　貞一（三重）
朝鮮仁川商業教諭兼仁川中教諭　志達　宏（京都）
愛知縣丹羽高女教諭　鈴木太吉（愛知）
下ノ關市縣社龜山八幡宮々掌　竹中所孝（山口）
大阪市西區第二商業教諭　虎尾久彌（大阪）
滿洲國交通部郵政職員養成所助教授　中井　浩（三重）
八幡市立八幡高等實業教諭　中西邦武（福岡）
大分縣東國東郡上國崎小教員　成瀨藤一（大分）
愛知縣瀧實業學校教員　二村和雄（愛知）
宮城縣第一高女教諭　野口　進（同　）
官幣大社臺灣神社主典　能勢　進（山梨）
滿洲國奉天商業教員　羽藤清忠（愛媛）
大阪市箕面學園教員　藤原豐司（德島）
朝鮮平壤公立高女教諭　藤本吉雄（兵庫）
古野日出男（福岡）

堀內隆博（舊姓片岡）（奈良）
文部省圖書局編修課勤務　前野孝一（奈良）
香川縣土庄商業教諭　松岡茂春（香川）
福岡縣糸島高女教諭　宮永駿逸（福岡）
大分縣速見郡立石小教員　武儀山與次郎（岐阜）
福岡縣門司中教諭　森田芳雄（福岡）

昭和九年四月

×川口雄三（三重）

第二部

和歌山縣古座高女教諭　池田正司（新潟）
別格官幣社名和神社主典　大崎正男（三重）
官幣大社朝鮮神宮出仕　鎌子八郎（愛知）
國幣中社眞清田神社　安田愼一（岐阜）（舊姓窪田）
　佐古利正（山口）
　白石泰三（靜岡）
廣島文理科大學々生　多田義雄（京都）
官幣大社明治神宮主典　中捨正道（奈良）
宇治山田市有緝小訓導　中谷　實（三重）
長野縣小縣郡別所小教員　羽田文平（長野）
神宮司廳出仕　早川榮治（和歌山）（舊姓上山）
滿洲國新京神社神職　平山敏郎（靜岡）
兵庫縣立聾啞學校教諭　藤戶秀男（兵庫）
官幣大社住吉神社主典　船原儀（熊本）
宮城縣小牛田農學校教諭　戶次靖（福岡）
神宮文庫書記　正木一郎（三重）
滿洲國錦州神社神職　松吉春岳（大分）（舊名高雄）
愛媛縣　宮內神社々司　眞鍋次郎（愛媛）
別格官幣社靈山神社主典　三浦義雄（千葉）
佐世保市立成德高女教諭　水野　晶（愛知）
滿洲國通化縣臨江青訓教諭　宮澤　優（山梨）
滿洲國濱江省邊彥縣公署縣視學　山崎光男（佐賀）
官幣大社札幌神社主典　若村武雄（滋賀）

○第四十四回　昭和十年三月（四十五人）

第一部

臺灣臺南一中教諭　青木紀元（福岡）
九州帝大法文學部學生　秋山正次（新潟）
名古屋市西區第一小教員　伊藤　曈（三重）
大阪市立福島實務學校教諭　伊藤弘（岐阜）
滿洲國安東滿商公立小教員　伊藤正夫（福岡）
別格官幣社尾山神社主典　伊藤忠一（大阪）
國幣小社津島神社雇　井上五男（山口）
兵庫縣立柏原高女教諭　上野一雄（三重）
德島縣勝浦郡生比奈青年學校教員　荻野　潔（兵庫）
神宮文庫事務囑託　桺本　運（德島）
三重縣宮川毛織會社　北岡四良（三重）
淸明女學校教員　久世信行（同　）
東北帝大法文學部學生　三東義夫（島根）
濱松市高砂小教員　鈴木捐知（岐阜）
京都帝大文學部大學院　鈴木春雄（靜岡）
　瀨良益夫（岡山）